



研究について、研究者と一緒に
考えてみませんか？

身近なところが研究室に

今年もオンラインでお会いしましょう！

京都大学 アカデミックデイズ

Kyoto University
Academic Days 2021

報告書

2021



開催日 2021年9月1日(水)～29日(水)

開催形態 オンライン開催

目次 1. 概要

1-1. イベント概要

1-2. 湊総長からのメッセージ

2. プログラム

2-1. オンラインでも膝詰め対話

2-2. オンラインでも座談会

3. アンケート

3-1. リスナー、対話参加者アンケート

3-2. 対話研究者アンケート

4. 2020年度からの2年間を振り返って—オンラインイベントの可能性と限界

5. 出展者情報

6. 広報

6-1. ポスター、中吊り広告

6-2. ウェブサイトとソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS)

6-3. その他の広報物等

7. 支援体制・準備スケジュール

7-1. 支援体制

7-2. スタッフリスト

7-3. 準備スケジュール

1. 概要

1-1. イベント概要

2021年9月1日～29日、「京都大学アカデミックデイズ2021」をオンラインにて開催しました。11回目となる今年は「オンラインでも膝詰め対話」と「オンラインでも座談会」の2つの企画を実施し、対話研究者13名、座談会の登壇者5名、一般公募の対話参加者のべ28名、リスナーのべ1,370名が対話の場に参加しました。

「京都大学アカデミックデイ」は、市民や研究者、文系、理系を問わず、誰もが学問の楽しさ・魅力に気付くことができる「対話」の場となることを目的として、「国民との科学・技術対話」事業の一環として実施しています。本学の研究者が来場者と直接対話することで、本学の研究活動を分かりやすく説明するとともに、本学における研究活動に国民の声を反映させることを目指しています。

2021年度も昨年度同様、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点からオンライン上での対話の形を試行しました。「オンラインでも膝詰め対話」は、昨年度のオンライン対話の場をより効果的にする観点から、研究者とファシリテーターの対話をリスナーが視聴する第1部と、研究者と一般公募の対話参加者がオンライン上で直接対話する第2部に分けました。また京都大学外のファシリテーターとも協働し、対話の場を学外にも広げる取り組みを進めました。さらに、パンデミック下の対話の重要性が意識される中で、京都大学での「国民との科学・技術対話」事業のこれまでと今後を考える「オンラインでも座談会」を実施しました。

対話の場を2部に分けることで、研究者と対話参加者の直接対話を外から眺める視点がなくなり、リアルな直接対話に近い自由な対話の場を作ることができました。一方で、対話参加者の応募自体は少なく、リアルな対話の場のようにふらっと訪れ、対話に参加するといった気軽さ、場の雰囲気オンライン対話の場に作ることは今後の課題です。

外部ファシリテーターとの協働は研究者との対話の場を広げる機会となりました。今回協働した4名は、科学エディター、科学ライター、科学館職員、他大学URAとして活動しており、彼らを起点としてこれまでアカデミックデイを知らなかった層にリーチすることができました。また研究者との直接対話という点では、ファシリテーターは研究者と直接対話する貴重な立場であり、その役割を外部に開いていくことは、京都大学の国民との科学・技術対話活動を広げていくうえでも重要です。科学コミュニケーター的な立場の方を積極的に取り込むことで、京都大学の対話事業を押し広げていくことができる事例となりました。

企画のデザインや運営は学術研究支援室（KURA）、研究推進部研究推進課及び「国民との科学・技術対話」ワーキンググループが協働し、今回のオンライン開催の経験、参加者からの意見を参考にしながら、今後の対話活動をさらに発展させていきます。

1-2. 湊総長からのメッセージ

京都大学アカデミックデイにご参加のみなさまへ

京都大学は創立以来、対話を根幹とした自由の学風のもと創造の精神を涵養し、多様で質の高い高等教育と先端的学術研究を推進してきました。歴史的に京都大学は自由な発想による独創的な研究により知を創造し、新しい知的価値の創出によって人々の福祉と社会の発展に貢献してきた大学であり、時代を超えて継承されてきた伝統があります。

今日、私達は予想を超えるテンポで進行する地球の気候変動と大規模な自然災害や地球環境悪化、様々な国際的対立抗争の激化や格差の拡大、さらには新型コロナウイルスに代表される感染症の拡大など、地球上の人々の生命と健康を脅かす多くの困難な課題に直面しています。今京都大学として、高度な多様性をもつ総合研究大学ならではの強みを最大限に生かし、これらの地球社会における多角的で困難な諸課題の解決に向けて真摯かつ果敢に挑戦し、着実にその成果を社会に発信していく必要があると思っています。



京都大学アカデミックデイは、みなさまと京都大学の研究者が直接対話をする場として企画したものです。学術研究の成果だけでなく、実際に研究が営まれている現場の様子や、1 人の人間としての研究者を知っていただく機会になればと思っています。この機会を利用して、是非、研究者に直接疑問やご意見を投げかけてください。みなさまとの直接対話は、研究者にとっても自らの研究の社会の中の位置づけや課題を捉え直す良い機会となりますし、成果の社会還元の可能性や新たな活躍の場が広がることでしょう。

この対話の場である京都大学アカデミックデイが、みなさまと共に我が国の学術研究を育む場になることを期待しています。

京都大学総長 湊長博

2. プログラム

2-1. オンラインでも膝詰め対話

■ 2-1-1. 概要

開催日 2021年9月1日(水)～29日(水)

開催形態 オンライン開催

本年度は9日間で13名の対話研究者が参加し、研究者とファシリテーターの対話をリスナーが視聴する第1部ではのべ1,299名のリスナーが、研究者と一般公募の対話参加者がオンライン上で直接対話する第2部では、それぞれ2名～4名の対話参加者が参加しました。対話の場のファシリテーターは、外部のコミュニケーターと京都大学学術研究支援室(KURA)のURAが連携担当し、事前に対話研究者とどのような対話の場にするか個別に相談、調整を行いました。

■ 2-1-2. 申込方法

● 対話研究者

オンライン形式で行われた京都大学アカデミックデイズ2021は、アカデミックデイ開催時間帯を予め提示した上で、参加可能な時間帯の情報も合わせて申込む方法をとりました。申込時に必要な方法、項目は下記の通りです。

〈方法〉

申込書に必要事項記載した上、申込書とWEB掲載画像を合わせてメールで申し込み。

〈項目〉

対話研究者情報

- ・ 部局名 (公表)
- ・ 職名 (公表)
- ・ フリガナ
- ・ 氏名 (公表)
- ・ 電話/内線
- ・ E-mail アドレス
- ・ 「国民との科学・技術対話」活動の義務があるファンドの有無
- ・ 研究を紹介できるWEBサイト (公表)

タイトル (18文字以内) (公表)

概要 (200文字以内) (公表)

対話参加者とどのような対話がしたいですか (200文字以内) (公表)

研究者からのひとこと (25文字以内) (公表)

対話の場の必要性・意気込み (200文字以内)

配信時の同時通訳サービス (希望あり / なし)

自由記載欄

イベント参加可能日時



- 対話参加者・リスナー

オンライン形式で行われた京都大学アカデミックデイズ 2021 では昨年度と同様、Zoom ウェビナーの URL を事前に参加者にお知らせする必要があったことから、対話参加者・リスナーともに完全事前申込制としました。

対話参加者は、実際に対話研究者との対話を行う性質上、参加人数に制限が設けられました。そのため、リスナーよりも先に応募が締め切られた上で、申し込み人数が多かった企画については「対話する研究者に聞きたいこと、話したいテーマ」への回答内容をベースにした選考も行われました。

リスナーの申し込み方法・回答が必要な項目については、「3. アンケート」をご覧ください。

〈対話参加者・方法〉

アカデミックデイズ 2021 ホームページより、専用の申し込みフォームから申し込み。その際、アンケート項目にも回答（回答は任意）。

その後、企画参加への当選 / 落選メールを申込者に送り、質問には個別対応。

〈対話参加者・項目〉

- ・お名前（回答必須）
- ・ふりがな（回答必須）
- ・メールアドレス（回答必須）
- ・電話番号（回答必須）
- ・ご年齢（回答必須）

選択肢：10代、20代、30代、40代、50代、60代、70代以上

- ・ご職業（回答必須）

選択肢：小学生、中学生、高校生、高等専門学校生、京大生、京大以外の大学の学生、京大教員・研究者、京大職員、京大以外の大学の教員・研究者、京大以外の大学の職員、公務員・団体職員、教員・研究教育関連、会社員・自営、主婦、無職・アルバイト、その他（※ その他の場合は自由記述）

- ・お住まいの地域（回答必須）

選択肢：京都市、京都府、その他（※ その他の場合は現在住んでいる都道府県名（海外の場合は国名）を自由記述）

- ・参加をご希望される企画（回答必須）

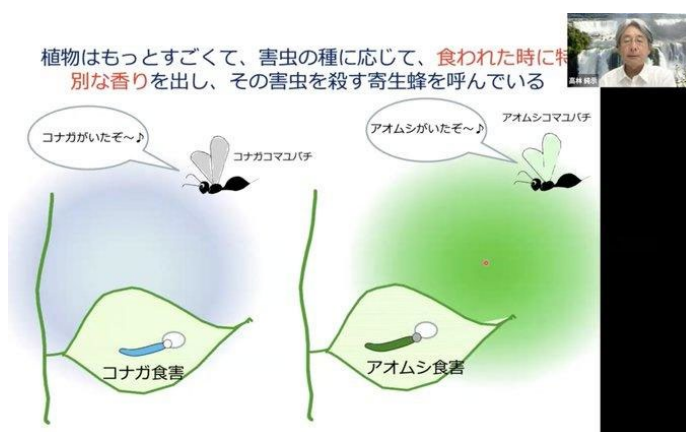
選択肢：①9月1日（水）19:00-20:45「昆虫と植物とのコミュニケーション」高林 純示（生態学研究センター）、②9月6日（月）19:00-20:45「モノの形と素材で機能を再生する」青山 朋樹（医学研究科）、③9月8日（水）19:00-20:45「がんばれば見えてくる！細胞のキモチ」平塚 徹（生命科学研究科）、④9月13日（月）19:00-20:45「熱帯地域の感染症 マラリアについて」白川 康一（東南アジア地域研究研究所）、⑤9月17日（金）19:00-20:45「疾患モデルの意義と病態解明にむけて」石本 智之（医学部附属病院）、⑥9月22日（水）19:00-20:45「マイクロ加工技術で創る“イノチ”の器」横川 隆司（工学研究科）⑦9月24日（金）19:00-20:45「修学旅行生は、どこに行く？」笠原 秀一（学術情報メディアセンター）、⑧9月27日（月）19:00-20:45「ミャンマーの仏教瞑想について」川本 佳苗（東南アジア地域研究研究所）、⑨9月29日（水）19:00-20:45「ゲーム理論で考える組閣」安達 貴教（経営管理大学院（大学院経営管理研究部））

- ・対話する研究者に聞きたいこと、話したいテーマ（自由記述・回答必須）
- ・【ご同意事項】（チェック必須）
 - － イベント第2部の様子について、アカデミックデイズ2021のホームページ、報告書上で文章で記載することに同意する。
- ・アカデミックデイズ2021を知ったきっかけ（複数回答可・回答必須）
 - 選択肢：ポスター（高校）、ポスター（京都大学）、ポスター（その他の大学）、ポスター（その他の公共施設）、チラシ、市バス、地下鉄、新聞記事、京都大学ホームページ、京都大学学術研究支援室（KURA）ホームページ・K. U. RESEARCH、Twitter、Facebook、Instagram、YouTube、メール案内、知人からの紹介、Peatixの案内・広告、その他（※その他の場合は自由記述）
- ・参加しようと思われたきっかけ（自由記述・回答任意）
- ・京都大学アカデミックデイへの参加（回答任意）
 - 選択肢：初めて、その他（※その他の場合は何回参加したかを記入）
- ・京都大学の他のイベントへの参加（複数回答可・回答任意）
 - 選択肢：春秋講義、京大ウィークス、京都大学オープンキャンパス、ホームカミングデイ、その他（※その他の場合は自由記述）
- ・京都大学HP等の閲覧（回答任意）
 - 選択肢：よく閲覧する、数回閲覧したことがある、閲覧したことがない・知らない
- ・科学・技術に関心がありますか？（回答任意）
 - 選択肢：とても関心がある、関心がある、関心があるともないとも言えない、関心がない、全く関心がない、わからない
- ・科学・技術に関する情報を積極的に調べることはありますか？（回答任意）
 - 選択肢：はい、いいえ、わからない
- ・過去、科学・技術に関する情報を調べた際に、探している情報を見つけることができましたか？（回答任意）
 - 選択肢：見つけられた。大抵、その内容は容易に理解できる。 /
見つけられた。しかし、ほとんどの場合、その内容を理解することは難しい。 /
見つけられなかった。ほとんどの場合、探している情報は見つけられない。 /
わからない。
- ・メール配信（希望者のみチェック）

■ 2-1-3. オンラインでも膝詰め対話（各回紹介）

● 昆虫と植物とのコミュニケーション

研究者からの一言	植物がかおりでコミュニケーションしているって知ってますか？
概要	犬は、我々にはわからない微量な匂いを探知しますね。一体どのような認識世界の住人なんでしょう。昆虫も犬に負けず劣らず匂いに敏感で、様々な場面で様々な匂い情報を利用しています。さらに植物も微量な匂いを感じ、情報のやり取りをしています。我々が認識できないけれど今そこにある微量な匂い情報が紡ぎ出す、昆虫-植物間や、植物-植物間のコミュニケーションを解読し、彼らの住む匂いの世界について考えてみます。
開催日時	2021年9月1日（水）19:00-20:45
対話研究者	高林 純示（生態学研究センター・教授）
対話したいこと	植物と昆虫とのコミュニケーション、植物と植物とのコミュニケーションの研究から見てきた植物の新しい佇まいについて。また、私達の目の前には、不思議でわけのわからない世界がまだまだいくらかもあるのだということ。ただし、おもしろいとか、不思議とか感じなければ研究にはつながらないということ。不思議に思ったことの解明は、基礎的な研究なのだが、それが応用に直ちに繋がる場合があること。
対話参加者数	4名
リスナー	164名
ファシリテーター	大西 将徳（学術研究支援室、URA）



開催報告

アカデミックデイズ 2021、初日は昆虫生態学を専門とする高林純示 生態学研究センター・教授による「昆虫と植物とのコミュニケーション」がテーマでした。リスナー164名が参加しました。

葉っぱをちぎってみると、急に青臭いにおいがする。では、どうして青臭いにおいがするのか？誰もが経験したことがあり、でも、どうしてと聞かれると不思議だと感じる、そんな問いから対話はスタートしました。植物の青臭いにおいは、“緑の香り”と呼ばれ、殺菌剤の成分が含まれているとのこと。つまり人でいえば傷口を消毒するような働きがあるのです。身近な不思議への謎解きに、リスナーからも「血が出るのと一緒」などとチャットへのコメントがどんどん寄せられます。「でも今日の話は、それだけじゃない話」とここからが高林先生の研究の神髄に入っていきます。

「葉は虫に食われてもかおりを出す。葉は虫に食われると単に傷ついた時とは異なる香りがでる。なぜか？」この問いは、本日のテーマである「昆虫と植物のコミュニケーション」に深くかかわって

います。主人公の一人は寄生蜂。投票機能で、寄生蜂を知っているリスナーに聞くと、半分くらいが知っているという回答。寄生蜂は社会性を持たない蜂で、モンシロチョウの幼虫などに卵を産み、寄生して成長する蜂です。寄生された幼虫は最終的に死んでしまうため、その幼虫に葉を食べられて困る植物にとって寄生蜂はボディーガードのような存在なのです。そこで、寄生蜂に守ってもらいたい植物は、幼虫に葉を食べられると香りでSOSを発し、寄生蜂をおびき寄せるといったコミュニケーションが自然界では日常的に起こっているのです。

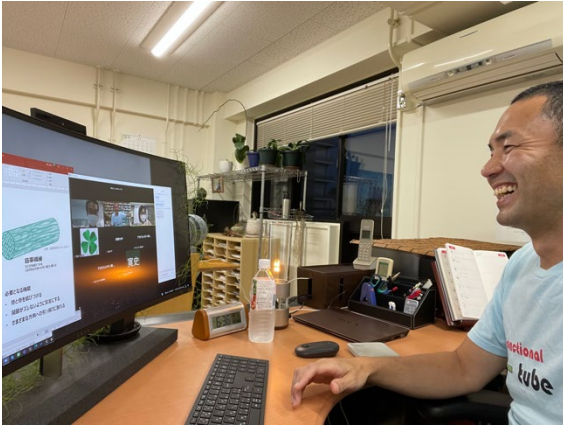
でも昆虫と植物のコミュニケーションはそんなに単純ではありません。例えば、幼虫寄生蜂は寄生できる相手がだいたい決まっていて、寄生できない幼虫に卵を産んでも育たず死んでしまうそうです。だとすると「寄生蜂が寄生する相手を間違えてしまうことはあるのでしょうか?」、「様々な種類の幼虫に寄生できた方が蜂からしたらよいのでは?」しかも植物も葉を食べる幼虫によって出すかおりを変えているとのこと。では「なぜ植物は目や鼻、耳などが無いのに自分の葉を食べた昆虫の種類がわかるのでしょうか?」など、次々とリスナーから疑問が寄せられます。高林先生はリスナーからの質問にも丁寧に答えながら、「どんなものにも寄生できる寄生蜂がいないのはなぜか?分かっていない難しい問題。」など、研究の最前線でもわからないことを率直に語られたのが印象的でした。

寄生蜂がこの地球上にどれだけいるかもまだわからない。食べられた葉が幼虫ごとに異なる匂いを出すもとなる幼虫の唾液もまだ10種類くらいしかわかっていない。植物になぜこのような高感度の匂い検知のメカニズムがあるのかもわからない。私たちに身近な昆虫と植物の世界がこんなにわからないことだらけなのだという新鮮な感動と、外の風景の見方がちょっと変わるきっかけを与えてくれた1時間でした。

ファシリテーター 大西将徳

● モノの形と素材で機能を再生する

研究者からの一言	普段目にするモノの形や素材に目を向けてみませんか?
概要	機能的なモノの形と素材には理由があります。さらに形や素材を工夫することで新しい機能を付加する事も可能です。人体における様々な臓器や組織もその形を構成する細胞(素材)によって、さまざまな生命活動を担う機能を発揮します。最新の三次元プリンターを用いて細胞(素材)から作った筒(形)によって末梢神経損傷の再生治療を可能にする技術開発例を紹介し、モノの形と素材について考えてみたいと思います。
開催日時	2021年9月6日(月) 19:00-20:45
対話研究者	青山 朋樹(医学研究科・教授)
対話したいこと	主に人体の組織や臓器を題材にして、その形や素材、そしてそれによってどのような機能が発揮できるかについてのアイデアをお持ち頂き、一緒に考えてみたいと思います。もちろん人体だけでなく、本日散歩している時に見かけた建物や木の構造について発見頂いた事をお持ち頂いても良いです。
対話参加者数	3名
リスナー	143名
ファシリテーター	丸山 恵(名古屋大学 学術研究・産学官連携推進本部、リサーチアドミニストレーター)

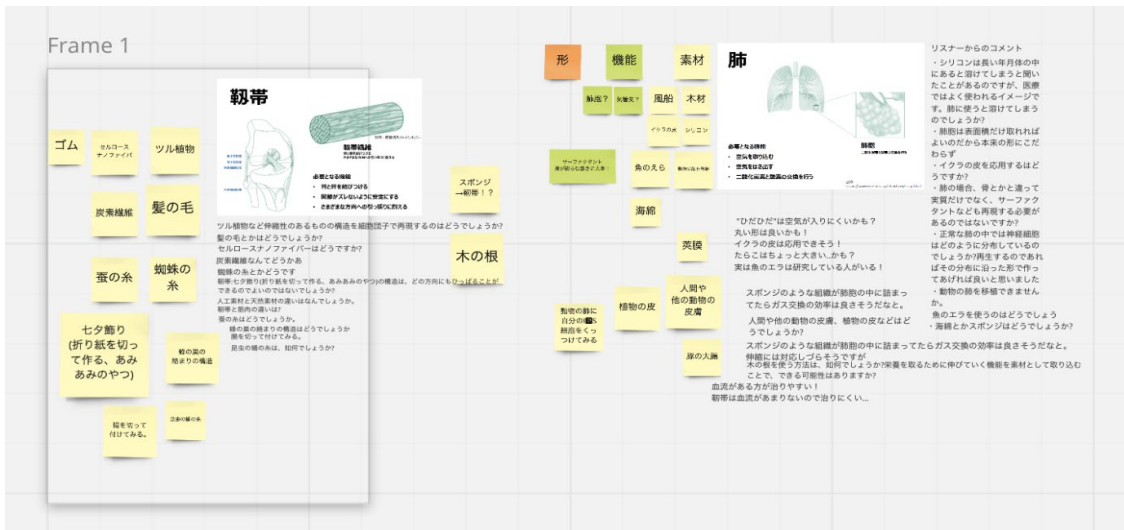


開催報告

アカデミックデイズ 2021 の 2 日目は、「モノの形と素材で機能を再生する」というテーマで医学研究科人間健康科学系専攻の青山朋樹教授にお話を伺い、参加者と共に対話を行いました。第 1 部は、前半に青山教授から神経細胞の再生技術開発のご研究について話題提供してもらい、後半は臓器や組織を再生する素材と形について参加者とブレインストーミングを行いました。

第 1 部前半の話題提供では、青山教授が研究で採用した「細胞」という素材と「筒」という形が、どのように神経細胞の再生を実現したのか、お話を伺いました。特にインパクトが強かったのは、細胞団子の一つひとつ積み上げて筒状にしていく動画です。参加者からも驚きのコメントが上がりました。同じ筒型でも、シリコンでは血流が促進されないため再生がうまくいかないという実験データに、目的を叶えるための素材や形の重要性を学びました。また、長い年月をかけ、多くの人の協力があって出来上がった技術に、今後の普及への期待の声も多く寄せられました。

第 1 部後半のブレインストーミングでは、神経から少し視点をずらし、再生医療の分野では開発途上の「肺」と「靭帯」を、どんな形・素材で再生できるかを参加者と共に考えました。テキスト送信機能を使って参加者からアイデアを募り、画面に映し出したホワイトボード上に書き出していきました。しなやかさが求められる靭帯には、木やゴムといった素材の提案が寄せられ、肺の再生で重要となる肺胞について考える場面では、イクラなどの魚卵を使えないか、といった意見も挙がり、ホワイトボードはあっという間にさまざまなアイデアで埋まりました。アイデアと同時に質問も次々と投稿いただきました。人工素材と天然素材の違いや適／不適についての議論が交わされ、さらに臓器によって血流量が違うために再生のしやすさ／しにくさがあるといった学びにも発展しました。



参加者のアイディアや質問を書き出したホワイトボード

第2部は、公開対話にも参加いただいた3名の参加者と非公開での対話を行いました。第1部では触れなかった再生医療のデメリットとして「再生医療の行き過ぎ」に関する議論では、再生医療を行う上でのルールやモラルについて考えました。また、技術開発における医学と工学のコラボレーションについて、各分野の専門家同士の基本的な考え方には違いがあり一筋縄にはいかないこと、お互いに歩み寄る姿勢が重要だということも学びました。機能をデザインするという視点から、神経に障害が生じる病気を患う方が使用する自助具の形や素材の話にも発展しました。

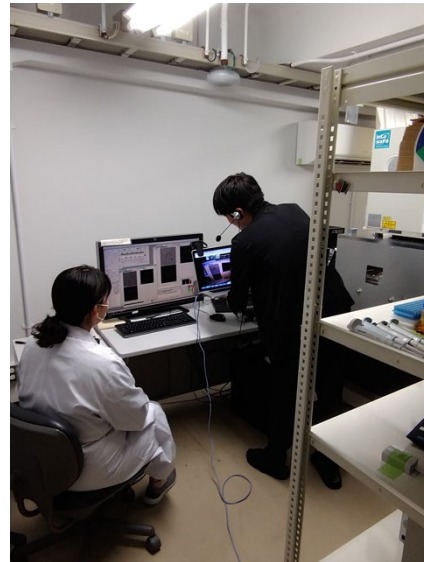
全体を通して、オンラインという形式は、対話をするには必ずしも好都合な条件ではありませんでしたが、全国各地からのさまざまな視点をもった方々が参加できるというオンラインの最大のメリットを活かしたのではないかと感じます。参加者一人ひとりが、心地よい学びの場づくりに協力してくれたことがコメントや対話を通じて感じられる、一体感のあるイベントでした。

ファシリテーター 丸山 恵

● がんばれば見えてくる！細胞のキモチ

研究者からの一言	画像に魅せられて研究室に入った人、多いです。
概要	人間の体は、およそ 60 兆個の細胞でできています。そのひとつひとつは、いったい何を考えているのでしょうか？それぞれがおかれている状況は様々です。外敵と戦わなくてはならない細胞、分裂して増殖したい細胞、どこかに向かって動きたい細胞・・・ 耳をすまして彼らの声は聞こえませんが、ライブイメージングという研究なら、少しは彼らのキモチが「見える」かも！？ カラフルな画像を見ながら一緒に考えてみましょう。
開催日時	2021年9月8日(水) 19:00-20:45
対話研究者	平塚 徹 (生命科学研究科・特定助教)
対話したいこと	「見る」ということは不思議なものです。見ると安心したり、納得がいたりします。でも、同じ現象でも人によって見え方はさまざまです。普段は絶対的な客観性が求められる科学の世界ですが、この対話では自由な発想に基づいてカジュアルに話ができればと思います。
対話参加者数	3名
リスナー	179名
ファシリテーター	橋本 裕子 (サイエンスライター&エディター)





開催報告

アカデミックデイズ 2021、3日目は生命科学研究科の平塚徹特定助教による「頑張れば見えてくる！細胞のキモチ」でした。事前登録者数は293名にのぼり、当日は対話参加者3名、リスナー179名が参加しました。

平塚特定助教は、冒頭で細胞がいかに小さいかを紹介し、特別な染色を施して顕微鏡で観察しなければ、細胞の観察は難しいことを説明。また、そのためには特別な観察技術や高性能顕微鏡が必要なことを説明しました。その後、研究内容の細胞内情報伝達について、細胞自身の「キモチ」という切り口で話を展開し、シグナルの伝達のためのタンパク質の活性化状態を捉えるために自身が開発した蛍光タンパク質を細胞の「キモチ」の変化を見分けることができるという流れで分かりやすく紹介しました。タンパク質の活性化状態の変化を「細胞のキモチ」に擬人化して説明することで、難解な科学用語を使わなくとも、リスナーに最新研究の進展を共感いただけただけです。アンケートでも、小学4年生の子供も最後まで楽しく参加できたとのコメントがありました。

後半は、実際に研究で使用する複数の高性能顕微鏡が設置された実験室を、平塚特定助教自身がカメラを持って撮影しながら実況。中国からの留学生や女性の大学院生へのインタビューを行い、実験室での研究者の日常的な研究生生活を紹介しました。実験室へ潜入する映像は多くのリスナーにとって新鮮な経験を提供し、飽きずに視聴していた様子でした。実験室の見学を1時間で200人近いリスナーが体験できたことは、オンラインイベントの強みであり、リアルイベントではとても不可能だろうと思います。しかも遠隔地からでも参加できた点も良かったと思います。

平塚特定助教にとって、今回が初めての一般向けイベントへの参加だったそうですが、興味をそそるタイトルが事前登録者の増加につながり、研究への熱い想いを率直に語る姿が、多くのリスナーの共感を得たことが印象的でした。単に科学技術をわかりやすく説明するだけではなく、研究の面白さを誰もがわかる表現に工夫することは非常に有用だと思いました。今後、個々の研究者の研究対象や個性に合わせて、対話のための工夫を研究者と関係者が共に考えていくことが大事かもしれません。またイベント全体で、出演する研究者の割合をベテランと若手でバランスをとると、京都大学アカデミックデイズがさらに魅力的なイベントになりそうだと感じました。

ファシリテーター 橋本 裕子

● 熱帯地域の感染症 マラリアについて

研究者からの一言	疫学という研究分野から感染症の研究を行っています。
概要	マラリアはマラリア原虫が引き起こす感染症で、ヒトへの感染はハマダラ蚊を介して起こります。最近ではサルに感染する種類が加わり、五種類存在します。国内では1963年まで流行していましたが。現在では赤道周辺の国々で発生し、年間42万人以上が亡くなっています。予防や治療薬が使用されていますが、その流行は収まりません。今回疫学という学問の視点から感染症の駆逐が困難な点についてお伝えしたいと思います。
開催日時	2021年9月13日(月) 19:00-20:45
対話研究者	白川 康一(東南アジア地域研究研究所・連携助教)
対話したいこと	長年研究者がマラリアの予防や駆逐について研究を進めていますが、成功に至っていません。薬剤やワクチンの開発や遺伝子レベルの研究がおおく行われていますが、これらの方法以外にマラリアのような感染症対策や駆逐する方法、このような感染症が発生する原因として原虫以外にどのようなことが考えられるかについて対話したいと思います。
対話参加者数	3名
リスナー	137名
ファシリテーター	小林 直樹(山梨県立科学館、職員)



マラリアの研究

- 1880年にフランス人軍医Alphonse Laveranが**赤血球内にマラリア原虫**を発見し(1907年ノーベル医学生理学賞)。
- 1898年にはこの病気が**ハマダラカの吸血によって媒介**されることを、インド駐在イギリス軍医で、後にノーベル医学生理学賞を受けたRonald Rossが実証した。
- その後、1940年に初の合成抗マラリア薬である**クロロキン**が開発され、第二次大戦中にはDDTの残留噴霧が確立されて、蚊を駆除することで**マラリアは一時撲滅可能と考えられた**。

開催報告

アカデミックデイズ2021、4日目は疫学を専門とする東南アジア地域研究研究所の白川康一連携助教による「熱帯地域の感染症 マラリアについて」がテーマでした。対話参加者3名、リスナー137名が参加しました。

白川先生の自己紹介の後、今回のお話のポイントは「マラリアとは何か?」「マラリアを含む感染症への対抗手段」「マラリアに対して疫学ができること」の3点であることが述べられ、対話スタート。早速、「マラリアを知っていますか?」という質問から始まり、リスナーの7割以上の方は「知っ



ている」との回答で、マラリアに興味のある方の参加が窺えました。白川先生からは「マラリアは寄生虫感染症であること」「その語源は古いイタリア語で『悪性の空気』を意味すること」などが解説されました。また、「マラリアで亡くなったと考えられる有名人」には、ツタンカーメン、一休和尚、平清盛などが挙げられ、リスナーからは「そんな昔の人でも状況証拠でマラリアとわかるほど、特徴的な症状だったんだ！」と驚きの反応がありました。

続いて、マラリアの歴史が白川先生から語られました。1880年にマラリア原虫が発見された後、蚊を媒介して感染することが判明。1940年には治療薬が開発され、マラリアは一時、撲滅可能と思われました。しかし、実際には撲滅されておらず、年間で2億人もの人々がこの病気に苦しんでいるとのこと。その理由として、「治療薬に対する耐性型マラリアの出現」「温暖化による蚊の生息域の拡大」などが挙げられました。中でも、東南アジアで出回っている「偽薬」問題には多くのリスナーがざわめきました。「マラリアの薬」として安く売られている物の正体は、実はただの石灰。飲んでも効きませんが、本人はそうとは知らないため、結果、治療が遅れて致死率が高まります。「これはもはや人災ではないか」と鋭い指摘をするリスナーも。

マラリア含め、感染症対策は大きく分けて3つであることが先生から示されました。1つ目は、ワクチンによる感染する「前」の対策。2つ目は薬剤で、感染してしまった「後」の対策。そして、3つ目は、感染「後」から学び、将来、感染が起きる「前」に役立てる「疫学」です。白川先生から、「疫学 (epidemiology) の語源は epi=〜の上に、demos=人々、logos=学問であり、『人々の上で起こっている現象を観察・分析する学問』と説明され、リスナーのみなさんからも「なるほど！」コメントの嵐でした。

いよいよ先生の専門分野である疫学の話にさし掛かり、イベントも佳境を迎えました。新型コロナでも聞くようになった「ワクチンの有効率」を例に、安全性やリスクの割合を出す疫学の考え方が解説され、リスナーの中からも「知らなかった!」「勘違いしていた!」などのコメントが挙がり、目からうろこが落ちるお話でした。また、マラリアの疫学としては、「市場に出回っている偽薬の割合」や「薬剤が正規品であることを証明するホログラムシートすら偽造され、それらがアジアのある地域から運び込まれている」ことなどが紹介されました。ワクチンでもなく、薬剤でもなく、「人の動きの分析による感染症対策」として、疫学の有効性が示されたお話でした。

最後に、白川先生からは「新型コロナでさまざまな情報が錯綜しているが、鵜呑みにせず、自分で考え、調べる習慣を身に付けてほしい」という、まさに「人の動き」を研究されてきた先生ならではの熱いメッセージをいただきました。マラリアや新型コロナのような対処が難しい感染症に対し、私たち一人ひとりの行動も武器のひとつであるということ、深く学べた対話イベントでした。

ファシリテーター 小林直樹 (山梨県立科学館)

● 疾患モデルの意義と病態解明にむけて

研究者からの一言	難病の治療開発を進めるには何が必要だと思いますか？
概要	パーキンソン病は難病の一つで、対症療法は存在しますが進行抑制をする術はまだありません。こうした難病の治療開発には、どうしてその疾患を発症するのか解明が必要であり、発症前から発症に至る過程を明らかにすることが極めて重要と考えます。今回は、我々が開発した、パーキンソン病患者さんと共通の前駆症状を再現する前駆期モデルマウスの紹介をもとに、こうした動物モデルの役割や重要性についてお話ししたいと思います。
開催日時	2021年9月17日（金）19:00-20:45
対話研究者	石本 智之（医学部附属病院・特定助教）
対話したいこと	脳や神経の難病では、発症して診断されてもその疾患の進行を食い止める治療が現時点で存在しないものがあります。医療関係者たちも、どのように症状を緩和し一助となれるか日々奮闘するのですが、こうした治療に加え、やはり根本治療の開発は重要であり、そのためには疾患の発症メカニズムを明らかにすることがどうしても必要です。このような研究について興味・関心を持っていただけるような対話にしたいと思います。
対話参加者数	3名
リスナー	123名
ファシリテーター	橋本 裕子（サイエンスライター&エディター）



開催報告

アカデミックデイズ 2021、5日目は、医学部附属病院の石本智之特定助教と田口智之特定助教による「疾患モデルの意義と病態解明にむけて」でした。事前登録者は239名、当日は対話参加者3名、リスナー123名が参加しました。

最初に石本特定助教が、二人が所属する脳神経内科で診ている主な病気を紹介し、その後、今回のモデル動物の対象疾患であるパーキンソン病について説明しました。パーキンソン病は、日本での有病率が1,000人に1人と高く、年々増えていること、また患者さんの脳内で α -シヌクレインが病的な塊を形成してドパミン神経を傷害しているが、どのように障害するかがまだわかっていないという、研究の現状についても紹介。そして、その予防法や治療法開発のためにも、病気になる過程を再現する「動物モデル」の開発が必要であることを指摘しました。さらに、患者さんのレム睡眠異常を記録した動画や、モデル動物に関するクイズなどを織り交ぜながら、和やかな雰囲気でも話が進められていきました。

次に田口特定助教が、実際のパーキンソン病のモデルマウスの作製について紹介。パーキンソン病



の病態と同じく、たくさんの α -シヌクレインが溜まり、塊となって悪い α -シヌクレインができるようにマウスを遺伝子改変した事例を、わかりやすく説明しました。モデルマウスの脳では、 α -シヌクレインが蓄積し、ドパミン神経細胞が徐々に減少します。その様子も組織染色等で紹介されました。また田口特定助教は、実験により、このマウスが人のパーキンソン病でも観察される腸管運動低下や嗅覚の低下やレム睡眠行動障害を示したことを示し、今後さらに研究を進めて、パーキンソン病発症前の症状を解明し、新たな予防法や治療法につなげていきたいと語りました。

その後、石本特定助教が遺伝子改変マウスを見分けるために使用するPCR装置やアガロースゲル電気泳動の実物を紹介。リスナーの方々は研究室の様子を見るのをとても楽しみにしていたようで、チャット上には楽しそうなコメントが寄せられました。

最後に、実験動物の愛護に関する国際的な基本理念である 3R (Replacement : 代替え、Reduction : 削減、Refinement : 改善) と、京都大学医学部に設置されている実験動物慰霊碑が紹介されました。

モデル動物は、疾患研究に限らず、基礎研究を含めたライフサイエンス研究全般を支える基盤技術です。そのテーマを公開対話に取り上げた研究者たちの真摯な思いを感じるイベントでした。リスナーの方々も、疾患研究における動物モデル開発の苦労や治療開発における意義を素直に感じたのではないのでしょうか。パーキンソン病という、未だ確定的な治療法がない難病をテーマとする重くなりがちな話題ではありましたが、二人の研究者の明るい人柄や話上手な会話で、リスナーは飽きずに参加できていたようです。

ファシリテーター 橋本裕子

● マイクロ加工技術で創る“イノチ”の器

研究者からの一言	微細なチップが生体を理解・制御する窓口になります。
概要	ヒトの体は、多様な機能を持つ分子や細胞からなり、生体内の場所によってその機能が異なります。我々は、マイクロ加工技術により製作したマイクロ流体デバイス（チップ）を用いて、分子や細胞を取り巻く物理化学的な環境を再現することにより、生体機能を模倣したシステムを開発しています。モータータンパク質の駆動力を利用した分子デバイスや、ヒト iPS 細胞由来のオルガノイドを培養するためのオンチップ血管網を紹介します。
開催日時	2021年9月22日（水）19:00-20:45
対話研究者	横川 隆司（工学研究科・教授）
対話したいこと	生体の機構や組織を工学的に捉える生体工学の歴史は長く、柔らかくかつ揺らぐ生体機能を定量的に捉えることが可能になってきました。逆に、分子や細胞を取り巻く環境を定量的に規定するとどうなるのでしょうか。例えば、iPS 細胞の培養環境を変えると、神経や皮膚、血管など様々な細胞に分化させることができます。工学的に生体材料の環境を規定することで何ができるのか、どこまで生体に近づけるのか議論したいと思います。
対話参加者数	3名
リスナー	118名
ファシリテーター	楠見 春美（芸術・科学コミュニケーション研究所）



開催報告

アカデミックデイズ 2021、6 日目は、工学研究科の横川隆司教授による「マイクロ加工技術で創る“イノチ”の器」がテーマでした。マイクロ (μm) とは、1,000 分の 1 ミリの単位を示します。横川教授は、マイクロメートル、あるいはそれよりも小さなナノメートル ($\text{nm}=10$ 万分の 1 ミリ) の単位で構造体を設計・加工して極小のデバイスをつくり出し、ヒトの体内のマイクロ～ナノレベルの生体現象を再現しようと試みています。ホームページの告知で紹介された研究概要に多くの人たちがひきつけられたようで、事前登録者は 220 名を超え、そのうちの約 3 分の 1 が学生という、若い世代の関心の高さも窺わせるものでした。当日の対話には 3 名が、リスナーには 118 名が参加しました。

はじめに横川教授から、研究の具体的な内容が紹介されました。現在の研究対象は、マイクロ～ナノスケールの中でもヒトの細胞 (平均約 $20 \mu\text{m}$) よりも大きな組織や器官などが主であり、また近年の研究では、生体外での培養が難しい肺や腎臓の臓器細胞などをデバイス上で培養する実験を行っているそうです。そして、その極小デバイスの作製にはなんと半導体技術が使われていて、マイクロマシニング (微細加工技術) でチップをつくり、その上に、酸素や栄養を細胞へ送るための血管や、代謝・循環等をつかさどる膜機構などを構築し、細胞が生きるための“イノチ”の器にするのだといいます。液体の流路など、機能やシステムを備えたその装置は「マイクロ流体デバイス」とよばれ、いまや二次元だけでなく三次元の構造体も作製可能とのこと。日常生活ではなかなか出会う機会のない先端研究の事例を受けて、リスナーの方々は驚きの言葉をチャットに投げたりしながら熱心に聞き入っている様子でした。

“イノチ”の器の話はさらに広がりました。横川教授の研究室では、培養細胞に血管を付ける技術も成功し、その血管は組織の中へ自ら血管網をのばしていくのだといいます。これを応用すれば、例えば、がん細胞を培養し、その細胞にできた血管網に薬剤を投与することで、薬の効果を確認できると横川先生はいいます。また、細胞を三次元形状に培養してオルガノイド (ミニ臓器) を作製できれば、動物実験に代わる新たな生体実験の方法になり得るであろうし、生体組織が形態を形成するしくみの解明にも役立つとも。しかし、はたしてそんな夢のような技術の「実現はいつ」なのか？ リスナーからの問いかけに、横川教授は、「ヒトの臓器機能の一部の模倣については実現化レベルにきているが、何を“イノチ”の器に実現するのかの目的によって、実用化の年数も変わる」と答えました。

会が中盤に入ると、別棟で待機していた学生にバトンが渡され、実験室からの実況中継が始まりました。実験室の一つ、クリーンルームでは、チップの作製工程が紹介され、少し離れたバイオメカニクス実験室では、生きた細胞の保管や培養を行う道具類などが映し出されました。他に顕微鏡やナ

ノメトリクスに特化した実験室もあり、工学・生物学・化学・情報学が融合する研究室ならではの現場の醍醐味を体験する貴重な機会だったと思います。途中、時間を気にしながら忙しくラボを巡って案内する学生に、リスナーたちが声援を送るなど、ライブ感あふれる一幕もありました。

終盤、再び横川教授の研究室にもどると、1960年代以降のマイクロ～ナノ加工技術の発展からここ四半世紀のバイオ研究への活用へと至る大きな時の流れを学び、また、マイクロ流体デバイスが今後、病気の解明や創薬の基盤技術にどう活かされるのかの未来観を得ることもできました。

当初、リスナーの方々の申し込みの動機には、「先端研究の今を知りたい」「純粋に面白そう！」といったシンプルな好奇心がよせられました。これに対し、事後のアンケートには、「全く知らない世界だが、わかりやすかった」「改めてじっくりと（今日の話）ふりかえりたい」「小さくも、大きな可能性のある世界が広がっていて大変興味深かった」といった、充実感とさらなる好奇心を窺わせる言葉が目立ち印象に残っています。未だ研究室の中でしか見えていない真新しい科学技術にシンプルな好奇心で向き合い、その研究の可能性を共感し、対話することのうれしさをしみじみと感じたイベントでした。

ファシリテーター 楠見 春美

● 修学旅行生は、どこに行く？

研究者からの一言	修学旅行の研究をしています
概要	私たちの研究チームは、実際の修学旅行生の行動情報を収集、分析し、そのデータを元に安否確認・避難誘導・分散誘導を行う技術やソフトウェアの開発を目指すプロジェクトを立ち上げました。修学旅行生の行動情報は、防災や防疫、観光政策にとって有用です。例えば、有名観光地に集中している修学旅行生を分散させ、感染リスクを下げる施策に役立てることができます。
開催日時	2021年9月24日（金）19:00-20:45
対話研究者	笠原 秀一（学術情報メディアセンター・特定講師）
対話したいこと	パンデミックが現実となった今、感染症の蔓延を防ぐという意味でも、オーバーツーリズムの再来は避けなければならない課題となった。観光地が主体的に観光客の情報を収集、分析、提供することで、こうした課題に対応出来るのか。修学旅行という日本最大の団体教育旅行の関連から、参加者と対話する。
対話参加者数	3名
リスナー	119名
ファシリテーター	渡邊 吉康（学術研究支援室、URA）



開催報告

9月24日（金）実施の京都大学アカデミックデイズ2021、オンラインでも膝詰め対話第7回目。本イベントでは学術情報メディアセンター笠原秀一特定講師、そして共同研究者の情報学研究科馬強准教授、経営管理研究部増田央特定講師の3名の研究者にご登壇いただき、「修学旅行」を題材にしながら、観光地における「密集」を回避する情報技術についてお話いただきました。本イベントの見どころの一つは、知能情報学や観光情報学、サービス工学など専門の異なる3名の研究者から直接お話を伺い、異なる視点を知ることができる点。本イベントは、このような先生方の三者三様のバックグラウンドの紹介、そして「中学や高校の修学旅行はどこに行きましたか？」というリスナーへの問いかけから始まり、本題に突入しました。

本イベントでは、笠原先生が中心となってお話いただきつつ、リスナーからの質問に応じて馬先生、増田先生からも意見を伺う形式で進行しました。最初の話題は、修学旅行の起源や修学旅行を研究対象として取り上げた理由について。修学旅行生を含む観光客の密集に起因する問題（オーバーツーリズム）や昨今のパンデミックの状況から観光客の密集の回避・分散の必要性についてお話いただき、その密集の回避と観光の持続を両立させるにはどうすればよいか、リスナーから zoom の Q&A、チャット機能を使ってアイデアを募りました。リスナーからは混雑時間や場所を予測し回避する案、空いている観光地へ誘導する案、その他様々な観点のアイデアが集まり、笠原先生からもリスナーからのアイデアを受け、京都の観光客の動線に関する課題や情報技術での解決可能性について提示していただきました。

その流れで、話題は研究プロジェクトの紹介に移りました。情報技術によって観光客が次に訪れそうな観光スポットを予測できれば、類似の空いている観光スポットの推薦や間をつなぐ交通ルートの調整ができ、混雑を緩和できるかもしれない。そのような観点で、観光客（修学旅行生）の GPS 軌跡データを使って次に訪れそうな観光スポットの確率を計算するモデル開発に着手したことが語られました。研究の過程で修学旅行生が想定外の場所に行くことがあるという新たな発見、そしてモデル化やデータ収集の課題についても話題になり、研究の面白さと大変さの両側面を伺える機会となりました。その後、道に迷っている個別の観光客を見つけて支援できれば混雑を緩和できるのではという着想に至り技術開発に取り組んだこと、そして嵐山における地図を使った実証実験を実施したことについても紹介されました。

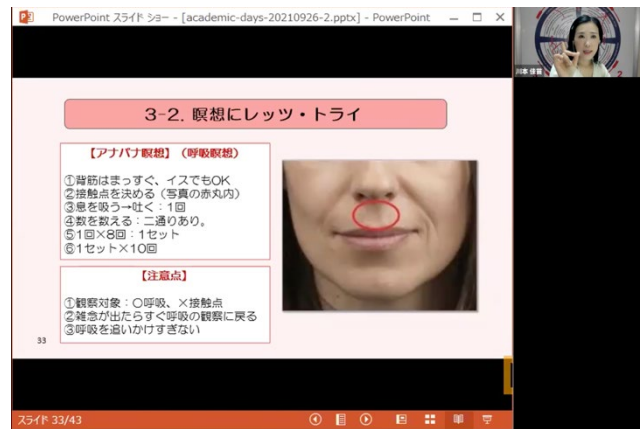
終盤には、共同研究者である馬先生と増田先生から本研究プロジェクトとの関わりについてお話いただき、最後に各先生からリスナーの皆様へのメッセージで、本イベントは締め括られました。どの先生も生き生きとお話されていたのが印象的で、情報技術を使って社会的課題を学際的に解いていく研究の面白さや、情報技術の力で皆さまの生活を支えていきたいという想いが伝わってきました。

リスナーからは「研究者のこだわりや考え方に触れられて面白かった」というような感想も寄せられ、本イベントを通して、研究者の考え方や学際研究の面白さをリスナーと共有することができたのではないかと思います。同時に、実際に研究を行っている研究者から直接、研究の試行錯誤の様子を分かりやすく語っていただくことで、このような大型研究を推進していくことの大変さも伝わったのではないかと思います。私自身も、大学だけではなく企業や自治体との連携を強化していくこと、そして国民の皆さまから研究者の研究に対する理解をいただくことの重要性について、URA として改めて考えていきたい。そう思えるようなイベントでした。

ファシリテーター 渡邊吉康

● ミャンマーの仏教瞑想について

研究者からの一言	軍事クーデター以外のミャンマーの姿をお伝えします！
概要	今日、心を静める方法として世界的に広がる「マインドフルネス」は、仏教用語の「サティ」（気づき）の英訳であり、心の要素の一つです。その実践である瞑想法がミャンマーには多数存在しますが、どのようにしてそれらが確立されてきたかを調査すると、戦争や政治との関連も分かっています。私の研究では、瞑想の普及をある種の仏教復興運動と捉えて、「仏教瞑想」を理解するための一つの視点を投げかけたいと考えています。
開催日時	2021年9月27日（月）19:00-20:45
対話研究者	川本 佳苗（東南アジア地域研究研究所・連携講師）
対話したいこと	参加者が疑問に思われることは率直に質問していただき、適宜お答えしたいです。参加者ご自身の体験やお考えもぜひ教えていただきたいです。
対話参加者数	3名（1名は都合により当日キャンセル）
リスナー	164名
ファシリテーター	藤田 弥世（学術研究支援室、URA）



開催報告

京都大学アカデミックデイズ 2021、9月27日（月）は、東南アジア・地域研究研究所の川本香苗連携講師による「ミャンマーにおける仏教瞑想」がテーマでした。冒頭、Zoomの背景にモーゴックの十二縁起ダイアグラムを背負い、気合十分で登場された川本先生。まずはご自身のバックグラウンドやミャンマーの基本情報を、写真や投票機能を用いたクイズも交えながら紹介されました。その後、ミャンマーで仏教瞑想が盛んに行われている理由について、いくつかの仏教瞑想の種類や、それらの実践法を確立した老師たちに触れつつ、ミャンマーにおける瞑想の歴史の流れを主軸に説明されました。また、リスナーから複数寄せられた「女性が出家する割合は？」や「軍事政権はなぜ瞑想を推奨したのか？」という質問を通じ、ミャンマーの出家事情や軍事政権と仏教の関係など、歴史的視点だけではなくミャンマーと仏教瞑想との関わりについても語っていただきました。

そして、話題はより深い仏教瞑想のお話へ。まずは投票機能を用いて、リスナーに「瞑想をしたことがありますか？」という問いを投げかけます。すると、「全然したことがない」、あるいは「興味はあるけれどしたことはない」という人から、「数回ほどしたことがある」人、そして少数ながら「毎日実践している」人までいるという結果に。幅広い層のリスナーが興味を持ってこのイベントに参加していることが伺えました。そうした人たちに向け、仏教瞑想とマインドフルネスとの関係や、現代の仏教瞑想の系譜を説明された後、実際にアナパナ瞑想をリスナー全員に体験してもらいました。今日が瞑想初体験という方にも実践してもらえよう丁寧に実践方法をレクチャーし、いよいよ1分間のアナパナ瞑想に入ります。対話を重視するアカデミックデイでは異例の長い沈黙が続き、各々が瞑想に静かに集中—体験終了後には、投票機能に Q&A、チャットから今の気持ちや感想が続々と寄せられ、オンラインという「場」に集う人々全員がそれぞれ抱く思いを共有しイベントの盛り上がりは最高潮に。

熱冷めやらぬまま、先生が経験されたミャンマーの瞑想センターでの生活へと話題は進みます。先生の口から語られるセンターを取り巻く環境やタイトな一日スケジュールに興味津々のリスナーから、ここでも質問や感想が止めどなく寄せられました。

そして最後は時間が許す限りの質疑応答へ。この時点で 70 にも及んだ質問に対し、先生からはさながら千本ノックのようなテンポ良い回答をいただき、話題はいつしか瞑想を超え、ミャンマーの人々に深く根付く仏教的思想にまで及びました。

「ロヒンギャの大虐殺や軍による弾圧など、暴力的なイメージが付き纏うミャンマーですが、仏教の素晴らしい面、自分が最初に惹きつけられ仏教の道へ進むきっかけとなった、大きな美德を多分に持つミャンマーのことを少しでもわかっていただけたら嬉しいです」という言葉で締め括られた川本先生。他の回とは異なり、先生ご自身のご研究内容というよりは、ご自身の経験を踏まえたミャンマーと仏教瞑想の関係について今、わかっていることの紹介が中心でしたが、そこには過酷な状況の中、それでも懸命に生きるミャンマーの人たちのリアルな “生” を知って欲しいという、川本先生の思いが込められていたように思います。

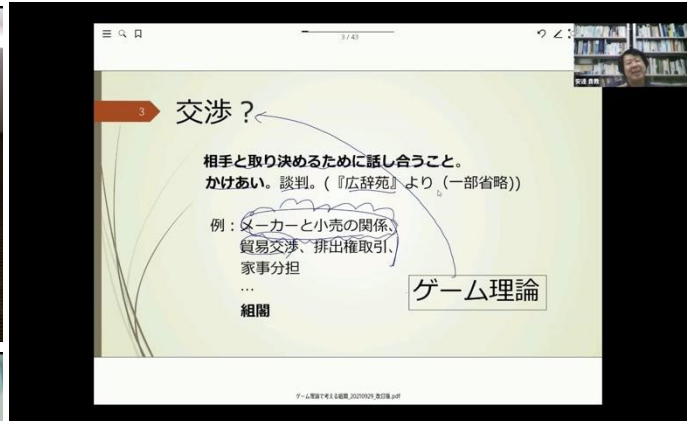
ファシリテーター 藤田弥世

● ゲーム理論で考える組閣

研究者からの一言	経済学も数学に負けず劣らず自由な学問です。
概要	現代の経済学は、景気や財政といった問題のみならず、人間社会のあらゆる問題（例えば、コロナ対策など）を対象とします。その肝は、経済学が、何が起きているのかを観察しようとする「データの科学」としての側面と、なぜそれが起きるのかを考えようとする「モデルの科学」としての側面を兼ね備えていることにあります。今回は、「自民党を中心とする政権の組閣」を対象として、そのような現代経済学的一端をご紹介します。
開催日時	2021年9月29日（水）19:00-20:45
対話研究者	安達 貴教（経営管理大学院（大学院経営管理研究部）・准教授）
対話したいこと	二つの軸が設定できると思います。一つは「方法」に関わるもので、今回ご紹介する内容は、ゲーム理論の分野の一部である「交渉理論」に基づいているので、その観点から、「組閣」というテーマに限らず、社会における交渉の役割について議論をしてみることです。もう一つは「対象」に関わるもので、「組閣」を学問の対象として捉えることによって浮き彫りにされる、近現代の日本政治の一端についての理解を深めることです。



対話参加者数	3名
リスナー	152名
ファシリテーター	大西 将徳（学術研究支援室、URA）



開催報告

アカデミックデイズ 2021 最終日は経済学を専門とする安達貴教 経営管理大学院・准教授による「ゲーム理論で考える組閣」がテーマ。1 か月間にわたって実施されたオンラインでも膝詰め対話のトリとして、複雑な人間社会の一端を経済学の視点で炙り出す対話イベントにリスナー152名が参加しました。

イベント当日の2021年9月29日は、なんと自由民主党の総裁選挙の当日。タイムリーなテーマと日程について、安達先生は「たまたま」と表現しましたが、複雑な人間社会も学問の力を使うと未来がある程度見通せる、という研究者の洞察力の一端が垣間見える一コマです。「アカデミズムは、生々しいものから距離を置いてみるということ。」と安達先生。自然を対象とする自然科学と同じように、社会にも秩序や法則があると考え、データ分析とモデル分析の両輪によって社会を理解しようとするのが経済学の立場だという話からは、理系、文系といった枠で隔てられがちな学問分野の壁へのメッセージが込められていたように感じます。

さて今回扱おうとする問題設定は「(議院内閣制において)ある政党にとって、どの大臣の(相対的)価値が高く、どの大臣の(相対的)価値が低いのか?」。日頃なかなか考えたこともない問題設定ですが、アカデミックデイ恒例のリスナーへの投票で、どの大臣の価値が高そうかイメージをつけることからスタート。財務大臣、外務大臣が人気のようですが、これから出てくる解析結果は国民にとっての重要性ではなく、政党にとっての重要性だというのがポイントです。では、“組閣”という生々しい社会現象をどのように経済学で扱うのか。一つ目はデータ分析。ここでは新聞などで目にする「総理：安倍晋三(細田派)、財務：麻生太郎(麻生派)、総務：高市(無派閥)、・・・」といった情報をデータにしていきます。縦軸に大臣ポスト、横軸に派閥をとったマトリックスに1と0

を入れていくことで、複雑な社会現象がデータとして整理されます。もちろんどのようなデータに整理するかは研究者によって違います。逆に言えばここが研究者の腕の見せどころ、オリジナリティが現れる場面です。そして二つ目がモデル。複雑な現象にストーリーを与え、メカニズムを数学的に表現するのがモデルです。今回は、ゲーム理論を用いて、組閣を交渉ゲームとイメージしてモデル化します。派閥によって大臣の価値は大きく変わらないという仮定や、55年体制時の自民党を対象になど、プロセスも丁寧に説明しながら、いよいよ結果は？

「首相に続き、運輸・建設の価値が高い」という結果に「これは真実ではないが、一つの見方を示している」、「当たり前の結果が出てくることも重要」と安達先生。複雑な社会をどう切るかも研究者の腕の見せどころならば、出てきた結果を客観的に、どう解釈するかも研究者の底力と感じさせる対話でした。そして最後に安達先生から「政治現象みたいなものも分析できるように社会科学はなっている。アカデミックデイな雰囲気も感じていただけたでしょうか。」

ファシリテーター 大西将徳



2-2. オンラインでも座談会

一つのテーマに沿ってみんなで語り合うトークライブ「オンラインでも座談会」。

今回のテーマは：

「アカデミックデイ」がどうやってつくられているのか、企画の裏側を実際の現場からお伝えします

研究者と市民の「対話」の重要性が認識された東日本大震災から 10 年。新型コロナウイルス感染症により、再び困難な状況にあるなかで、これまでアカデミックデイが行われてきた現場（京都大学時計台）とオンラインをつなげ、アカデミックデイの昔を振り返りつつ、これから京都大学が市民の方々とどのように対話していくのか、アカデミックデイの今後について、語り合います。

現場では、当時のアカデミックデイの様子を可能な限り再現、今年度のアカデミックデイズ 2021 「オンラインでも膝詰め対話」とはまた違った、懐かしくもリアルな雰囲気の中で、「アカデミックデイにいっぱい参加してきた“来場者”」、「アカデミックデイにいっぱい参加してきた“研究者”」、「アカデミックデイを 10 年間視てきた人」、「アカデミックデイを作ってきた人」が対談。対面で密なイベントであったかつてのアカデミックデイ、そして、これからのアカデミックデイの未来の姿が対話の中から浮かび上がりました。

日時 2021 年 9 月 7 日（火）19:00-20:30

登壇者

児玉聡 （アカデイにいっぱい参加してきた、研究者）

田根佐和子 （アカデイにいっぱい参加してきた、来場者）

塩瀬隆之 （アカデイを 10 年間、視てきた人）

白井哲哉 （アカデイを 10 年間、作ってきた人、URA）

大西将徳 （アカデイを 4 年前から中で見てきた人、URA）





開催報告

京都大学アカデミックデイズ 2021、9月7日（火）は「オンラインでもお茶を片手に座談会」を開催しました。座談会は1つのテーマについて研究者と一緒に語りあう企画で、2019年度まで毎年アカデミックデイで開催してきました。今回のテーマは「アカデミックデイ」そのものについて。10年続いてきたアカデミックデイを振り返りつつ、これから京都大学が市民の方々とどのように対話していくのか、アカデミックデイの今後について語り合いました。

登壇者は、今までのアカデミックデイにいっぱい参加していただいた“来場者”の田根佐和子さん、同じく今までのアカデミックデイにいっぱい参加していただいた”“研究者”の京都大学文学研究科の児玉聡准教授、アカデミックデイを10年間視てきた京都大学総合博物館の塩瀬隆之准教授、そしてアカデミックデイを作ってきた京都大学学術研究支援室の白井哲哉 URA と大西将徳 URA です。

オンラインでの初の座談会でしたが、白井 URA と大西 URA は対面で実施されていた頃のアカデミックデイの会場であった京都大学百周年時計台記念館から中継での参加。会場には例年開催されていた企画「研究者と立ち話」「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」のセットが生まれ、今までのアカデミックデイで使われてきたポスター・チラシ・ノベルティ・報告書といった各種コンテンツもずらっと展示されました。まずは2人の URA からそれらを紹介する形で、今までのアカデミックデイの背景・歴史・裏話などが語られました。

URA による今までのアカデミックデイの紹介の後には、研究者が市民と対話をするこの話題に。一般来場者の田根さんからは「実際アカデミックデイに行って研究者と話をすると、人柄や人間性がわかり研究者に対する見方が変わった」といった実体験や、塩瀬先生からは「小学生が『エネルギー』って何？」と言う質問をし、研究者が固まった」といったエピソードなど、対話によって研究者・来場者の見方・考え方が変化することについて語られました。

また児玉先生からは「アカデミックデイは、研究者の研究のプロセスや、研究者の生態・動機を知ってもらうのには良い機会だと思った」といった感想が。そして塩瀬先生から「研究者の途中を知ってもらいたい。研究に関してのファンを増やしたい。学問っていうものを見守れる街になればよいな」といった話題が。そこから、研究者が京都の街中に出て行き、もっと市民と対話ができるようになるアイデアや将来像について語り合いました。様々な今後の可能性が挙がる中で、まだまだ「場」のあり方に進化の可能性を秘めていることが示されたアカデミックデイ。その根底には「研究対象を、誰よりも近くで誰よりも長く見つめている研究者がひたすらに感じている“ワクワク”を、その場にいる全員が“お茶を片手に”フラットな立場で共有する場」であってほしいという作り手側の思いが今も昔も、そしてこれからも込められているようです。

白井哲也

3. アンケート

3-1. 対話参加者・リスナーアンケート

■ 3-1-1. アンケートの設計とねらい

京都大学アカデミックデイでは、対話参加者並びにリスナーの方達にイベント前後で、2種類のアンケートへの回答にご協力いただきました。イベント前のアンケートは、事前申し込みの際に付随したアンケートです。先生に聞いてみたいことや、どのような人が参加を申し込まれたのかについて、主催者が知ることがこのアンケートの目的でした。

もう1種類は、イベント後にご協力いただいた「事後アンケート」です。対話参加者への事後アンケートでは、イベントの印象や研究者との対話の中での気づき、イベント内にあった仕掛けの是非などについて、主催者が知ることがこのアンケートの目的でした。一方リスナーへのアンケートでは、研究者とファシリテーターとの対話やその視聴で印象に残ったこと、オンラインで実施することの是非などを、主催者が知ることが目的でした。

● 事前申込・アンケート（リスナー）

〈方法〉

- ・アカデミックデイズ 2021 ホームページより、イベント申込みの際にアンケートもウェブフォームに埋め込み、回答
- ・申込兼アンケート受付期間：各回当日午前8時まで

〈項目〉

- ・お名前（回答必須）
- ・メールアドレス（回答必須）
- ・ご年齢（回答任意）
選択肢：10代、20代、30代、40代、50代、60代、70代以上
- ・ご職業（回答任意）
選択肢：小学生、中学生、高校生、高等専門学校生、京大生、京大以外の大学の学生、京大教員・研究者、京大職員、京大以外の大学の教員・研究者、京大以外の大学の職員、公務員・団体職員、教員・研究教育関連、会社員・自営、主婦、無職・アルバイト、その他（※ その他の場合は自由記述）
- ・お住まいの地域（回答必須）
選択肢：京都市、京都府、その他（※ その他の場合は現在住んでいる都道府県名（海外の場合は国名）を自由記述）
- ・参加を希望する企画（複数回答可・回答必須）
選択肢：①9月1日（水）19:00-20:45「昆虫と植物とのコミュニケーション」高林 純示（生態学研究センター）、②9月6日（月）19:00-20:45「モノの形と素材で機能を再生する」青山 朋樹（医学研究科）、③9月8日（水）19:00-20:45「がんばれば見えてくる！細胞のキモチ」平塚 徹（生命科学研究科）、④9月13日（月）19:00-20:45「熱帯地域の感染症 マラリアについて」白川 康一（東南アジア地域研究研究所）、⑤9月17日（金）19:00-20:45「疾患モデルの意義と病態解明にむけて」石本 智之（医学部附属病院）、⑥9月22日（水）19:00-20:45「マイクロ加工技術で創る“イノチ”の器」横川 隆司（工学研究科）⑦9月24日（金）19:00-20:45「修学旅行生は、どこに行く？」笠原 秀一（学術情報メディアセンター）、⑧9月27日（月）19:00-20:45「ミャンマーの仏教瞑想について」川本 佳苗（東南アジア地域研究研究所）、⑨9月29日（水）19:00-20:45「ゲーム理論で考える組閣」安達 貴教（経営管理大学院（大学院経営管理研究部））
- ・対話研究者に聞きたいこと、この企画に期待すること（自由記述・回答任意）
備考：この企画に期待すること、当日に聞いてみたい話などありましたら、自由に記入してく

ださい。複数の企画にお申し込みの方は、どの企画に対するコメントか明記ください。いただいた内容は、対話研究者、ファシリテーター、京都大学アカデミックデイ事務局でのみ共有します。

- ・アカデミックデイズ 2021 を知ったきっかけ（複数回答可・回答必須）
選択肢：ポスター（高校）、ポスター（京都大学）、ポスター（その他の大学）、ポスター（その他の公共施設）、チラシ、市バス、地下鉄、新聞記事、京都大学ホームページ、京都大学学術研究支援室（KURA）ホームページ・K.U.RESEARCH、Twitter、Facebook、Instagram、YouTube、メール案内、知人からの紹介、Peatix の案内・広告、その他（※その他の場合は自由記述）
- ・参加しようと思われたきっかけ（自由記述・回答任意）
備考：今回参加しようと思われたきっかけがありましたら、自由に記入してください。
- ・京都大学アカデミックデイへの参加（回答任意）
選択肢：初めて、その他（※その他の場合は何回参加したかを記入）
- ・京都大学の他のイベントへの参加（回答任意・複数回答可能）
選択肢：春秋講義、京大ウィークス、京都大学オープンキャンパス、ホームカミングデイ、その他（※その他の場合は自由記述）
- ・京都大学 HP 等の閲覧（回答任意）
選択肢：よく閲覧する、数回閲覧したことがある、閲覧したことがない・知らない
- ・科学・技術に関心がありますか？（回答任意）
選択肢：とても関心がある、関心がある、関心があるともないとも言えない、関心がない、全く関心がない、わからない
- ・科学・技術に関する情報を積極的に調べることはありますか？（回答任意）
選択肢：はい、いいえ、わからない
- ・過去、科学・技術に関する情報を調べた際に、探している情報を見つけることができましたか？（回答任意）
選択肢：見つけられた。大抵、その内容は容易に理解できる。 / 見つけられた。しかし、ほとんどの場合、その内容を理解することは難しい。 / 見つけられなかった。ほとんどの場合、探している情報は見つけられない。 / わからない。
- ・メール配信（希望者のみチェック）

● 事後アンケート（対話参加者）

〈方法〉

- ・ウェブフォームから回答

〈設問〉

- ・問 1. どの企画に参加されましたか？（回答必須）
選択肢：①9月1日（水）19:00-20:45「昆虫と植物とのコミュニケーション」高林 純示（生態学研究センター）、②9月6日（月）19:00-20:45「モノの形と素材で機能を再生する」青山 朋樹（医学研究科）、③9月8日（水）19:00-20:45「がんばれば見えてくる！細胞のキモチ」平塚 徹（生命科学研究科）、④9月13日（月）19:00-20:45「熱帯地域の感染症 マラリアについて」白川 康一（東南アジア地域研究研究所）、⑤9月17日（金）19:00-20:45「疾患モデルの意義と病態解明にむけて」石本 智之（医学部附属病院）、⑥9月22日（水）19:00-20:45「マイクロ加工技術で創る“イノチ”の器」横川 隆司（工学研究科）⑦9月24日（金）19:00-20:45「修学旅行生は、どこに行く？」笠原 秀一（学術情報メディアセンター）、⑧9月27日（月）19:00-20:45「ミャンマーの仏教瞑想について」川本 佳苗（東南アジア地域研究研究所）、⑨9月29日（水）19:00-20:45「ゲーム理論で考える組閣」安達 貴教（経営管理大学院（大学院経営管理研究部））
- ・問 2. ご年齢（回答任意）
選択肢：10代、20代、30代、40代、50代、60代、70代以上
- ・問 3. ご職業（回答任意）
選択肢：小学生、中学生、高校生、高等専門学校生、大学生・大学院生（京都大学）、大学生・大学院生（京都大学以外）、大学教員・研究者（京都大学）、大学教員・研究者（京大

学以外)、大学職員(京都大学)、大学職員(京都大学以外)、教員・教育関係者、研究者、会社員・自営業者、公務員・団体職員、主婦・主夫、無職・アルバイト、その他(※ その他の場合は自由記述)

- ・問4. 本イベント全体の感想を教えてください。(回答必須)
選択肢: 非常に良かった、良かった、どちらとも言えない、あまり良くなかった、良くなかった
- ・問5. 上記で選んだ回答に対して、そう感じられた理由を教えてください。(自由記述・回答任意)
- ・問6. 研究者との対話の中で、研究内容や研究者自身について気づいたこと、発見したこと、印象に残ったことがあれば教えてください。(自由記述・回答任意)
- ・問7. ファシリテーター(司会)の進行はいかがでしたか?
(今後の改善ため、率直なご意見を頂けますと幸いです。)(自由記述・回答任意)
- ・問8. どのデバイスで参加されましたか?
選択肢: PC、iPadなどタブレット、その他(※ その他の場合は自由記述)
- ・問9. 今回の企画はZoomでのオンライン開催となりましたが、オンライン開催で良かったこと、或いは、不便に感じたこと、困ったことなど、感想を教えてください。(自由記述・回答任意)
- ・問10. アカデミックデイズ2021のよかった点、改善点について教えてください。
(自由記述・回答任意)
- ・問11. オンラインでのアカデミックデイに参加しやすい曜日や時間帯を教えてください。
(回答任意)
選択肢: 平日の午前中(9:00ごろ~12:00ごろ)、平日のお昼間(13:00ごろ~16:00ごろ)、平日の夕方(16:00ごろ~18:00ごろ)、平日の夜(今回の時間帯)、土曜日の午前中、土曜日のお昼間、土曜日の夕方、土曜日の夜、日曜日の午前中、日曜日のお昼間、日曜日の夕方、日曜日の夜、その他(※ その他の場合は自由記述)
- ・問12. オンラインでのアカデミックデイについて「こんなことをしてほしい」企画のアイデアや、要望などありましたら、教えてください。(自由記述・回答任意)
- ・問13. これまでにアカデミックデイに参加されたことがある方へ質問です。オフライン(京大へ足を運ぶ)開催とオンライン開催、どちらの方が良かったと感じましたか?また、その理由について教えてください。(自由記述任意)

● 事後アンケート(リスナー)

〈方法〉

- ・ウェブフォームから回答

〈設問〉

- ・問1. どの企画に参加されましたか?(回答必須)
選択肢: ①9月1日(水)19:00-20:45「昆虫と植物とのコミュニケーション」高林 純示(生態学研究センター)、②9月6日(月)19:00-20:45「モノの形と素材で機能を再生する」青山 朋樹(医学研究科)、③9月8日(水)19:00-20:45「がんばれば見えてくる!細胞のキモチ」平塚 徹(生命科学研究科)、④9月13日(月)19:00-20:45「熱帯地域の感染症 マラリアについて」白川 康一(東南アジア地域研究研究所)、⑤9月17日(金)19:00-20:45「疾患モデルの意義と病態解明にむけて」石本 智之(医学部附属病院)、⑥9月22日(水)19:00-20:45「マイクロ加工技術で創る“イノチ”の器」横川 隆司(工学研究科)⑦9月24日(金)19:00-20:45「修学旅行生は、どこに行く?」笠原 秀一(学術情報メディアセンター)、⑧9月27日(月)19:00-20:45「ミャンマーの仏教瞑想について」川本 佳苗(東南アジア地域研究研究所)、⑨9月29日(水)19:00-20:45「ゲーム理論で考える組閣」安達 貴教(経営管理大学院(大学院経営管理研究部))
- ・問2. ご年齢(回答任意)
選択肢: 10代、20代、30代、40代、50代、60代、70代以上
- ・問3. ご職業(回答任意)
選択肢: 小学生、中学生、高校生、高等専門学校生、大学生・大学院生(京都大学)、大学生・大学院生(京都大学以外)、大学教員・研究者(京都大学)、大学教員・研究者(京都大学以外)、大学職員(京都大学)、大学職員(京都大学以外)、教員・教育関係者、研究者、会社員・自営業者、公務員・団体職員、主婦・主夫、無職・アルバイト、その他(※ その他の場合は自由記述)



場合は自由記述)

- ・問 4. 本イベント全体の感想を教えてください。(回答必須)
選択肢: 非常に良かった、良かった、どちらとも言えない、あまり良くなかった、良くなかった
- ・問 5. 上記で選んだ回答に対して、そう感じられた理由を教えてください。(自由記述・回答任意)
- ・問 6. 研究者とファシリテーターの対話を視聴して、研究内容や研究者自身について気づいたこと、発見したこと、印象に残ったことがあれば教えてください。(自由記述・回答任意)
- ・問 7. どのデバイスで参加されましたか?
選択肢: PC、iPad などタブレット、その他 (※ その他の場合は自由記述)
- ・問 8. イベント中の Q&A 機能での質問への回答について、取り上げるタイミング、取り上げる質問の選び方は適切でしたか?良かった点、改善すべき点など感じられたことを教えてください。(自由記述・回答任意)
- ・問 9. 今回の Zoom でのオンライン開催で不便に感じられたこと、困ったことがあれば教えてください。(自由記述・回答任意)
- ・問 10. オンラインでのアカデミックデイに参加しやすい曜日や時間帯を教えてください。(回答任意)
選択肢: 平日の午前中 (9:00 ごろ~12:00 ごろ)、平日のお昼間 (13:00 ごろ~16:00 ごろ)、平日の夕方 (16:00 ごろ~18:00 ごろ)、平日の夜 (今回の時間帯)、土曜日の午前中、土曜日のお昼間、土曜日の夕方、土曜日の夜、日曜日の午前中、日曜日のお昼間、日曜日の夕方、日曜日の夜、その他 (※ その他の場合は自由記述)
- ・問 11. オンラインでのアカデミックデイについて「こんなことをしてほしい」企画のアイデアや、要望などありましたら、教えてください。(自由記述・回答任意)
- ・問 12. これまでにアカデミックデイに参加されたことがある方へ質問です。オフライン (京大へ足を運ぶ) 開催とオンライン開催、どちらの方が良かったと感じましたか?また、その理由について教えてください。(自由記述・回答任意)

■申込者・参加者人数の内訳

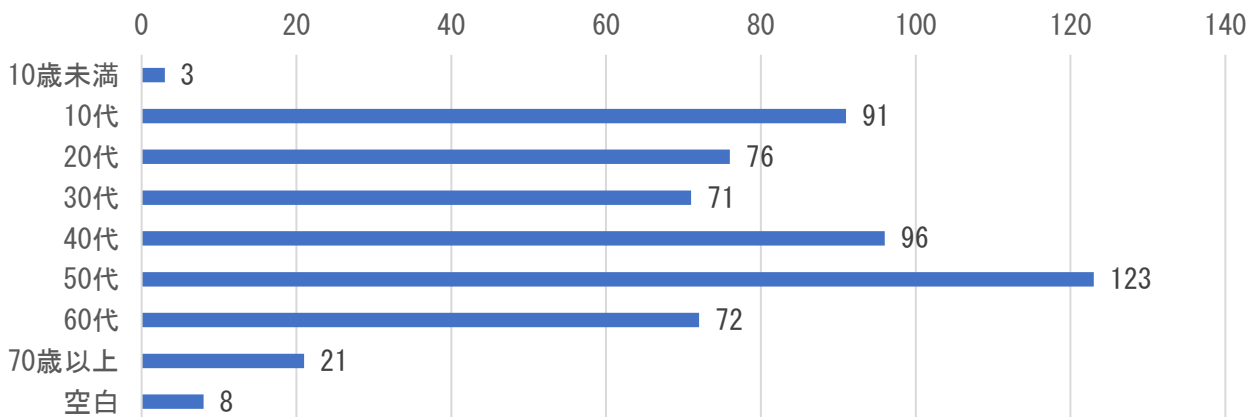
- ・対話参加者 27 人 (9 月 1 日: 4 人、9 月 6 日: 3 人、9 月 8 日: 3 人、9 月 13 日: 3 人、9 月 17 日: 3 人、9 月 22 日: 3 人、9 月 24 日: 3 人、9 月 27 日: 2 人 (※1 名当日キャンセル)、9 月 29 日: 3 人)
- ・「オンラインでも膝詰め対話」リスナー事前申込数 566 人
- ・「オンラインでもお茶を片手に座談会」リスナー事前申込 / 登録数 92 人
※ 同一人物が複数イベントに申し込んだ場合、重複カウントはしない
- ・「オンラインでも膝詰め対話」リスナー登録数 2232 人 (9 月 1 日: 234 人、9 月 6 日: 221 人、9 月 8 日: 283 人、9 月 13 日: 234 人、9 月 17 日: 235 人、9 月 22 日: 228 人、9 月 24 日: 220 人、9 月 27 日: 273 人、9 月 29 日: 304 人)
※ Zoom 招待メールが配信エラーだった場合、カウントはしない
- ・「オンラインでも膝詰め対話」リスナー当日視聴数 1299 人 (9 月 1 日: 164 人、9 月 6 日: 143 人、9 月 8 日: 179 人、9 月 13 日: 137 人、9 月 17 日: 123 人、9 月 22 日: 118 人、9 月 24 日: 119 人、9 月 27 日: 164 人、9 月 29 日: 152 人)
- ・「オンラインでもお茶を片手に座談会」リスナー当日視聴数 71 人
- ・事後アンケート回答者数
 - ・対話参加者 21 人 (回収率約 78%)
 - ・リスナー 531 人 (回収率 約 41%)

■事前アンケートの結果

回答はリスナーのみ。「オンラインでも膝詰め対話」と「オンラインでもお茶を片手に座談会」は、企画内容の趣旨や広報媒体に掲載の情報に違いがあるため、分けて結果を表示。

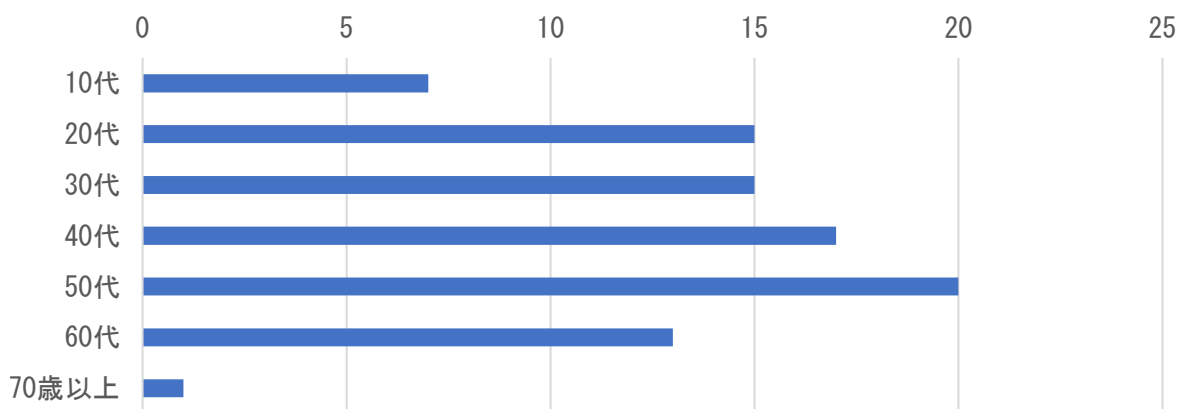
● 事前申込者はどのような方だったのか？

・オンラインでも膝詰め対話：年齢層



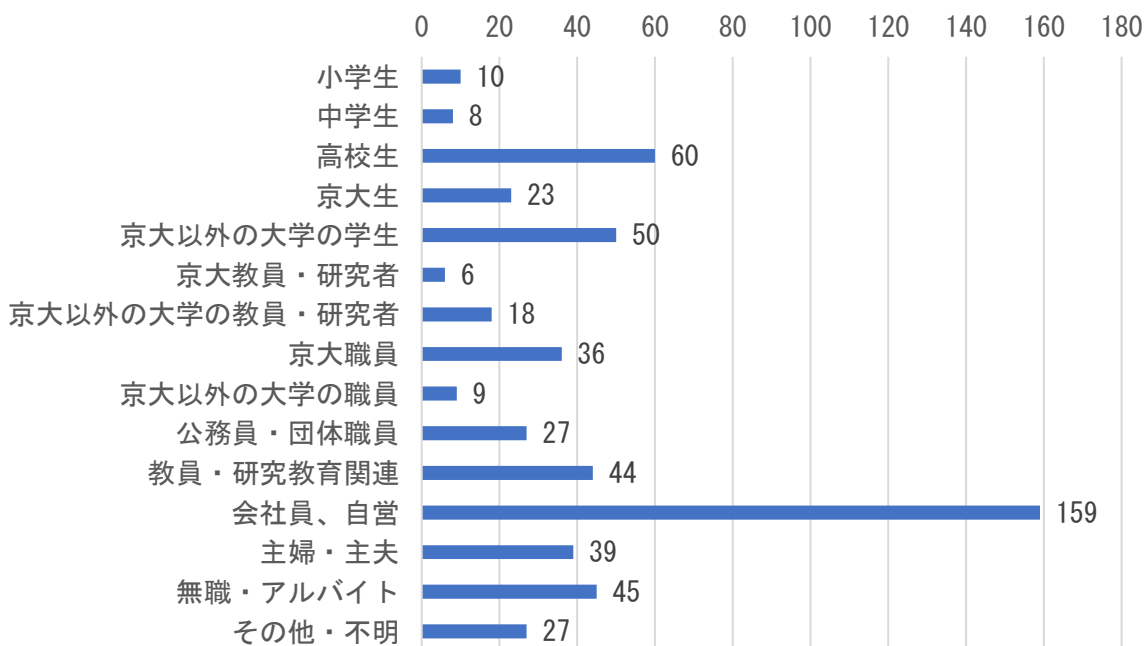
(単位：人)

・オンラインでもお茶を片手に座談会：年齢層



(単位：人)

・オンラインでも膝詰め対話：所属

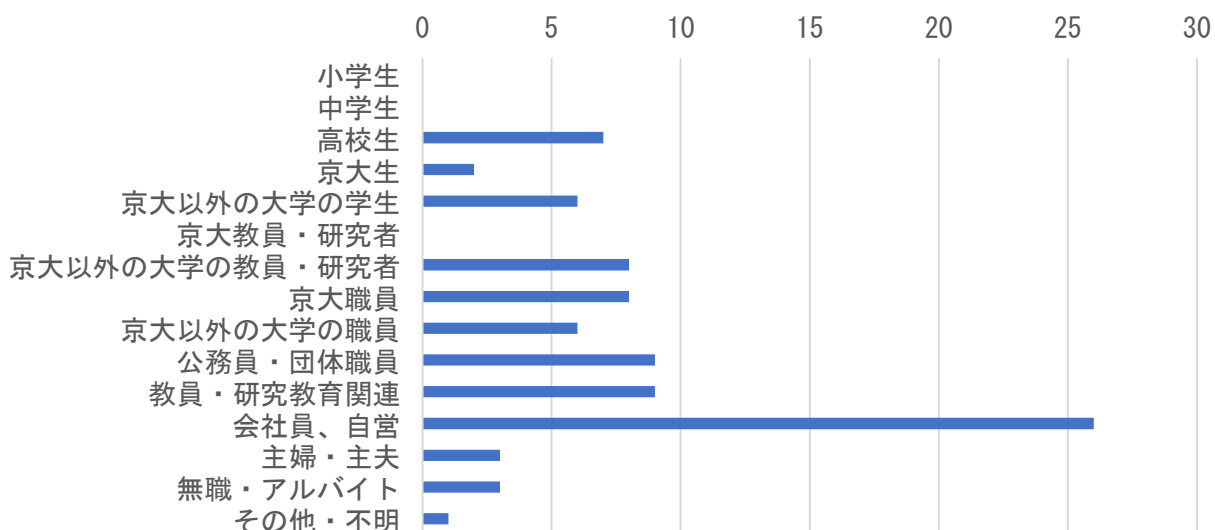


(単位：人)

※ 「その他・不明」は事前アンケート設問「問2. ご職業」で「その他」と回答された18名並びに空白9名より集計。

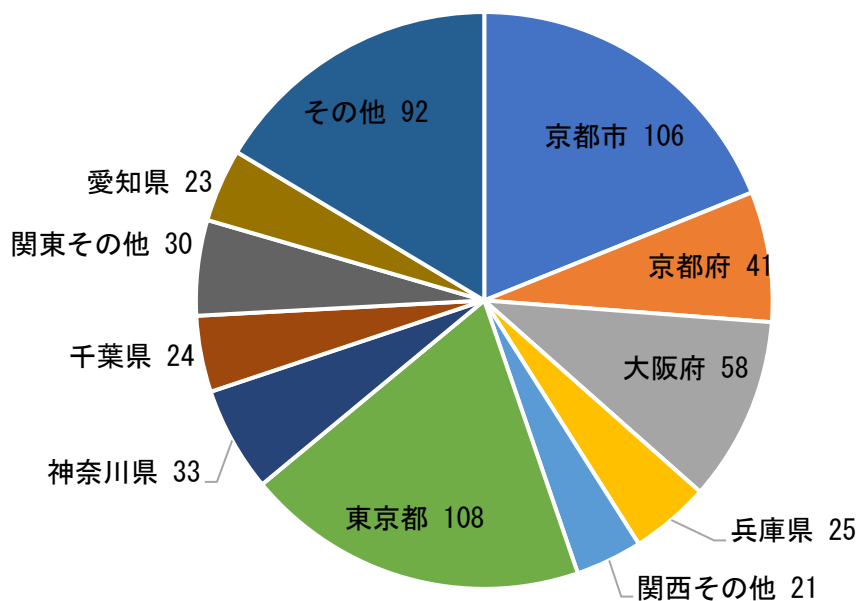


・オンラインでもお茶を片手に座談会：所属



(単位：人)

・オンラインでも膝詰め対話：住まい



(単位：人)

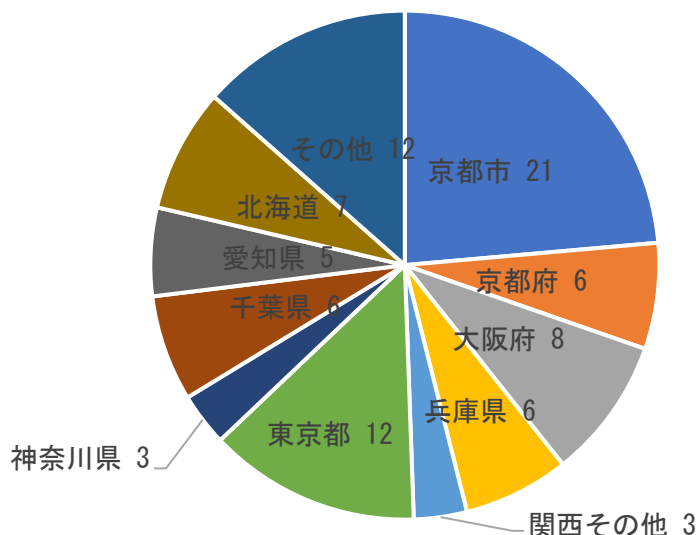
※その他の内訳：

関西その他：滋賀 10、奈良 9、和歌山 2

関東その他：埼玉 18、茨城 6、群馬 2、栃木 4

その他：北海道 7、青森 2、宮城 7、山梨 5、長野 3、静岡 5、新潟 3、富山 3、石川 3、岐阜 6、三重 1、島根 1、鳥取 2、岡山 5、広島 6、山口 1、徳島 2、高知 1、香川 1、福岡 14、長崎 2、宮崎 1、鹿児島 2、沖縄 1、海外 8 (ミャンマー、タイ、シンガポール、カナダ、ニュージーランド、フランス)

・オンラインでもお茶を片手に座談会：住まい



(単位：人)

※その他の内訳：

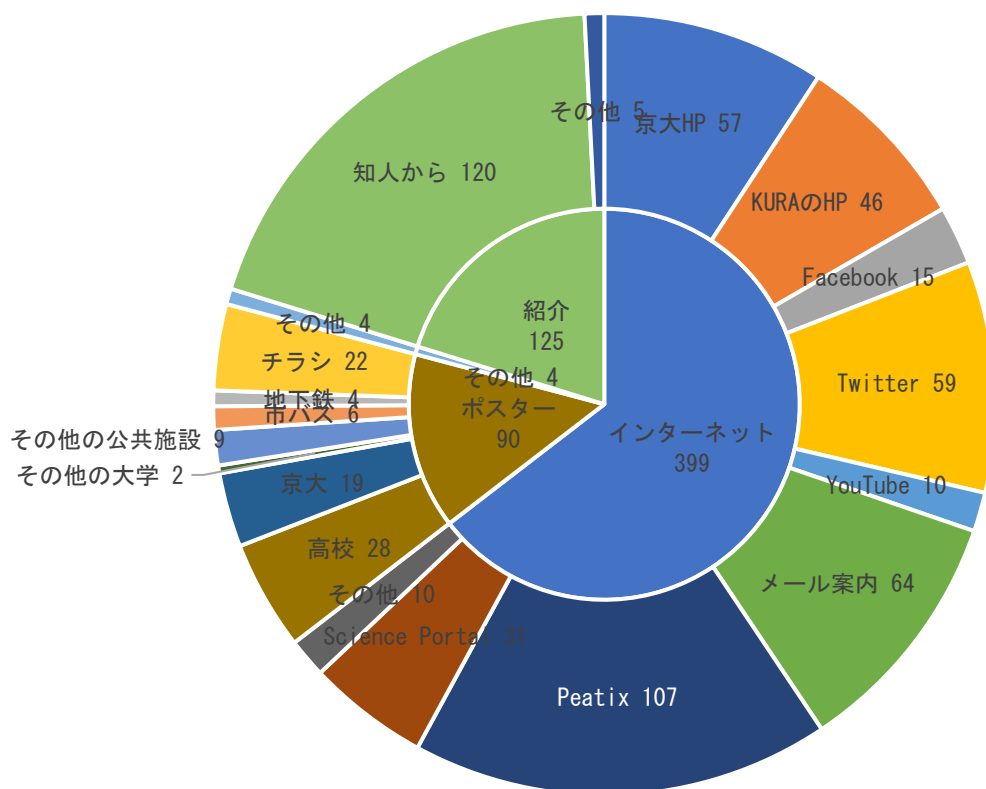
関西その他：滋賀 2、奈良 1

その他：青森 1、宮城 1、新潟 1、茨城 1、埼玉 2、神奈川 1、岐阜 1、岡山 1、香川 1、福岡 1、海外 1 (フランス)

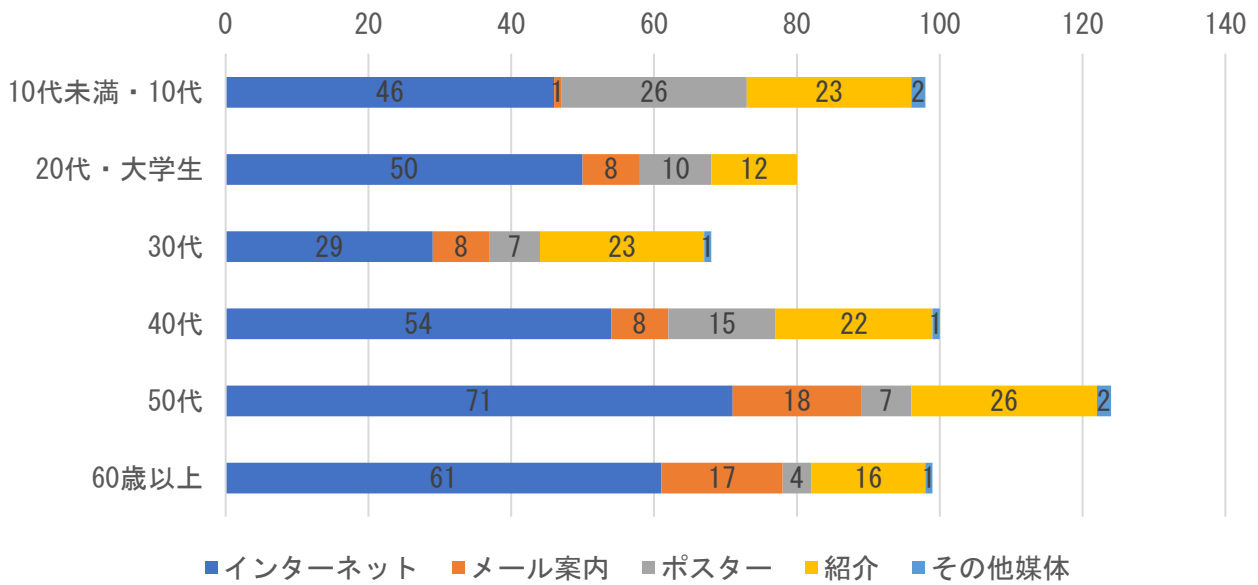
● リスナーは京都大学アカデミックデイをどこで知ったのか？ (いずれも複数回答含む)

・オンラインでも膝詰め対話：開催を初めて知ったところ (全体)

(単位：件)

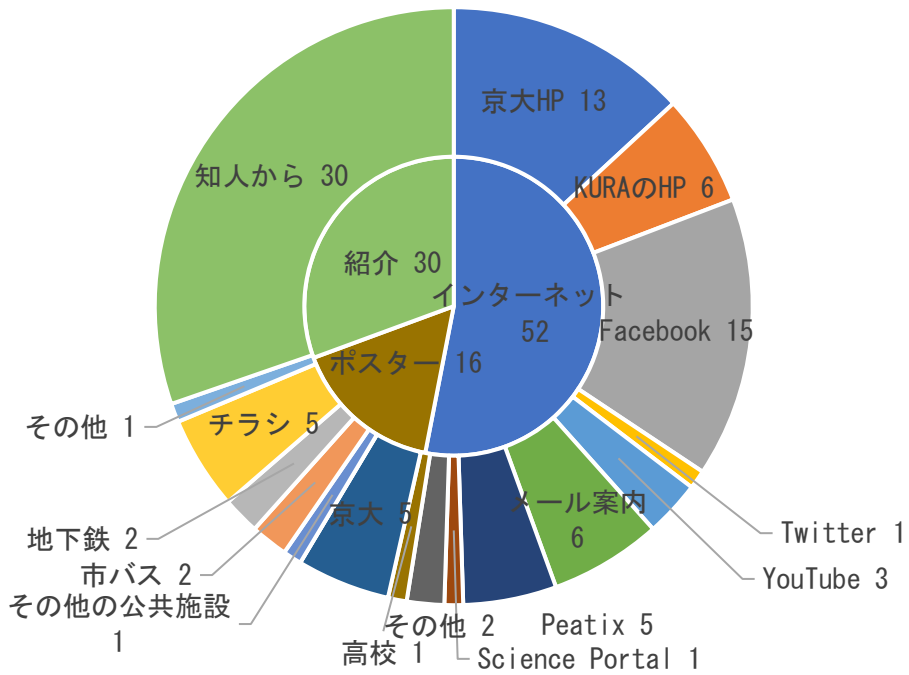


・オンラインでも膝詰め対話：開催を初めて知ったところ（年代別）



(単位：件)

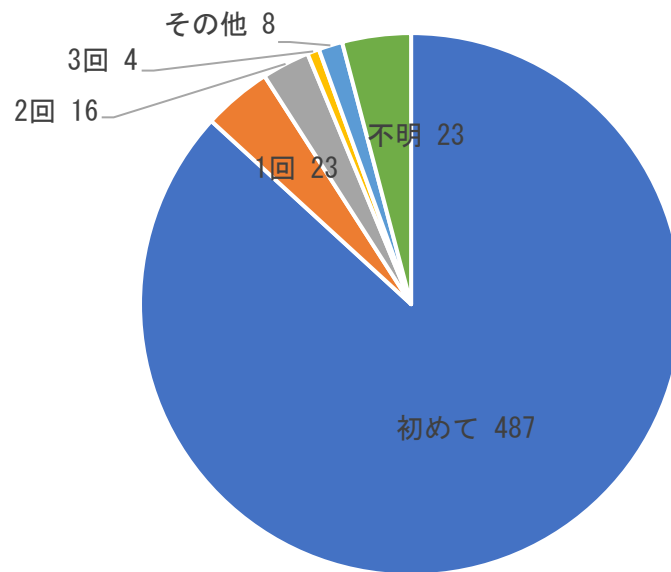
・オンラインでもお茶を片手に座談会：開催を初めて知ったところ（全体）



(単位：件)

● 京都大学のイベントに参加したことはありますか？

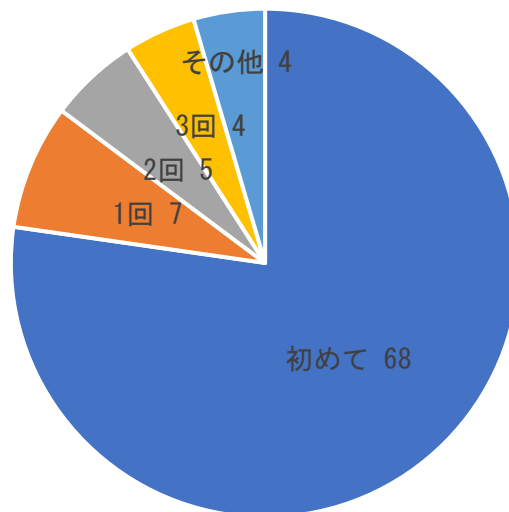
・オンラインでも膝詰め対話：京都大学アカデミックデイへの参加回数



(単位：人)

※「その他」は1回以上参加しているが正確には何回目の参加か不明の人たちをカウント。

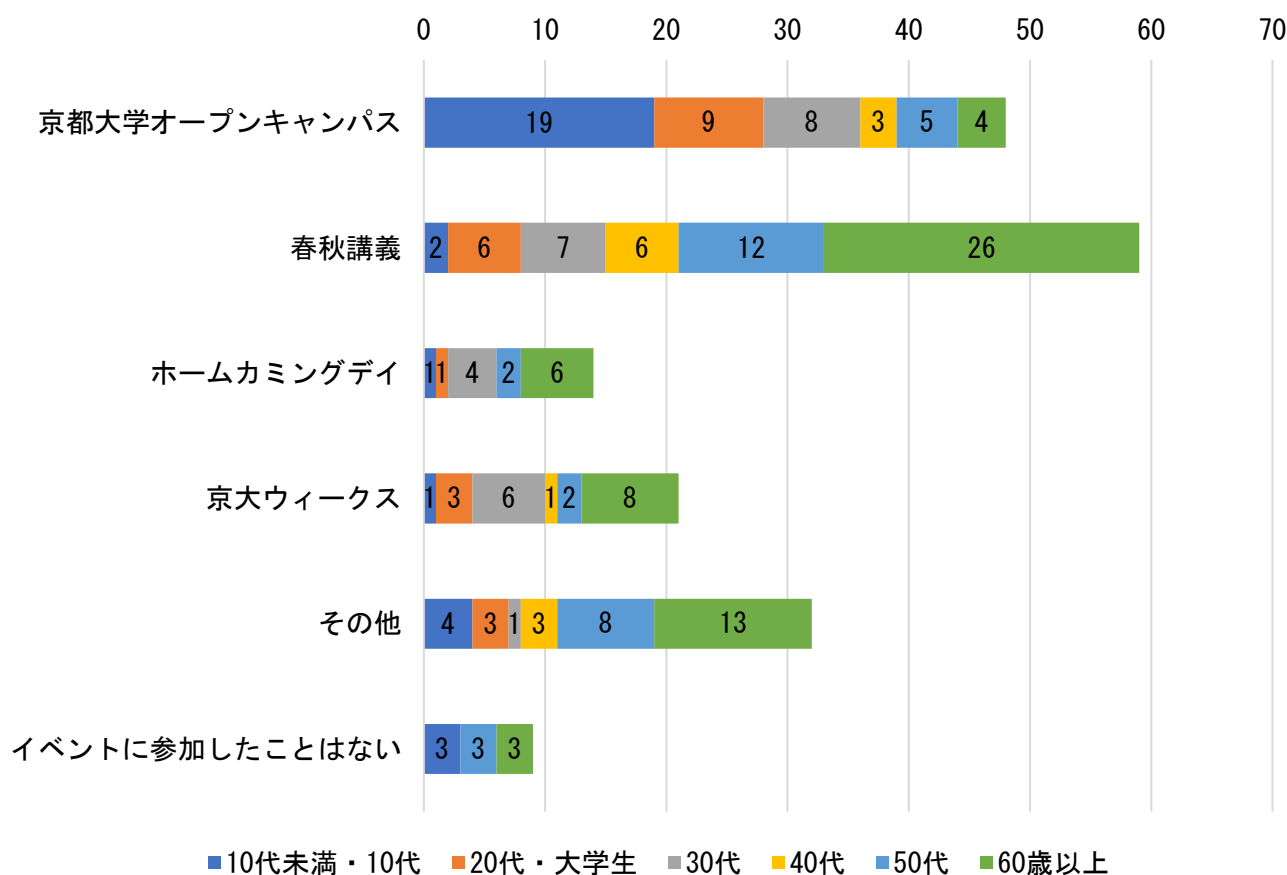
・オンラインでもお茶を片手に座談会：京都大学アカデミックデイへの参加回数



(単位：人)

※「その他」は1回以上参加しているが正確には何回目の参加か不明の人たちをカウント。

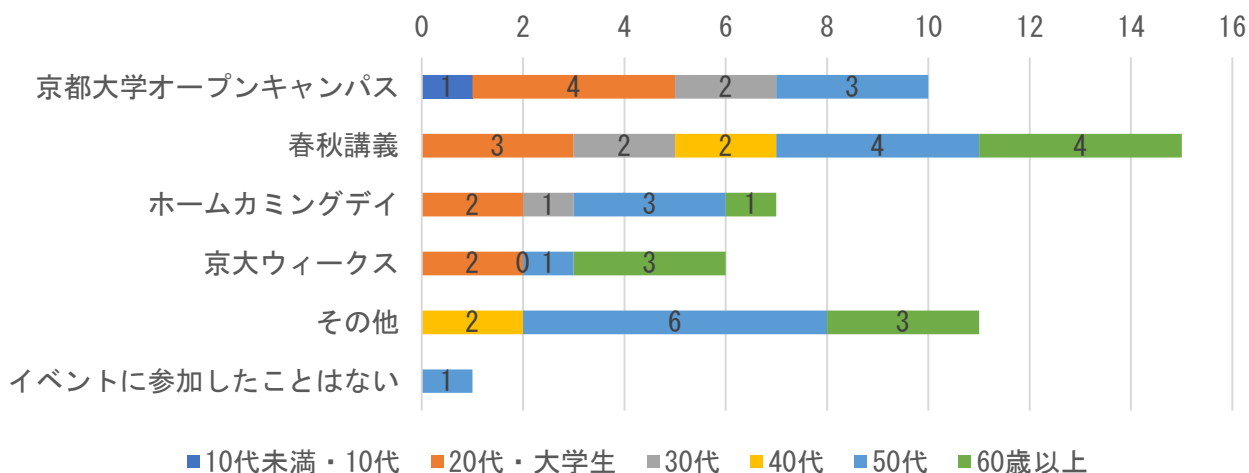
・オンラインでも膝詰め対話：他に参加したことがある京都大学のイベント（複数回答可）



(単位：人)

※「講演会・シンポジウム等（上記以外）」及び「その他」は、アンケート設問「問10. 京都大学のその他のイベントへの参加（回答任意・複数回答可）」で「⑥その他」と回答されたものより集計。いずれの回答もなかったのは418名。

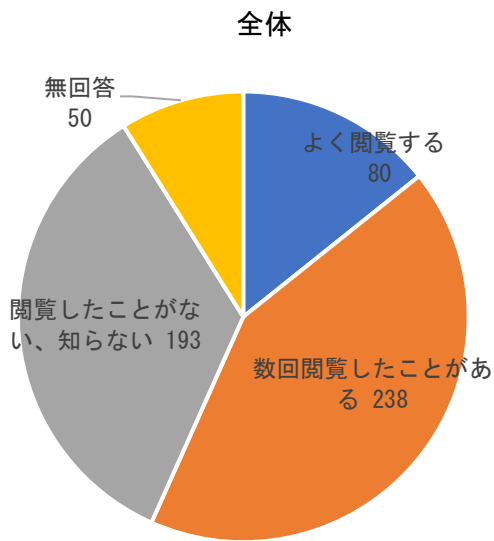
・オンラインでもお茶を片手に座談会：他に参加したことがある京都大学のイベント（複数回答可）



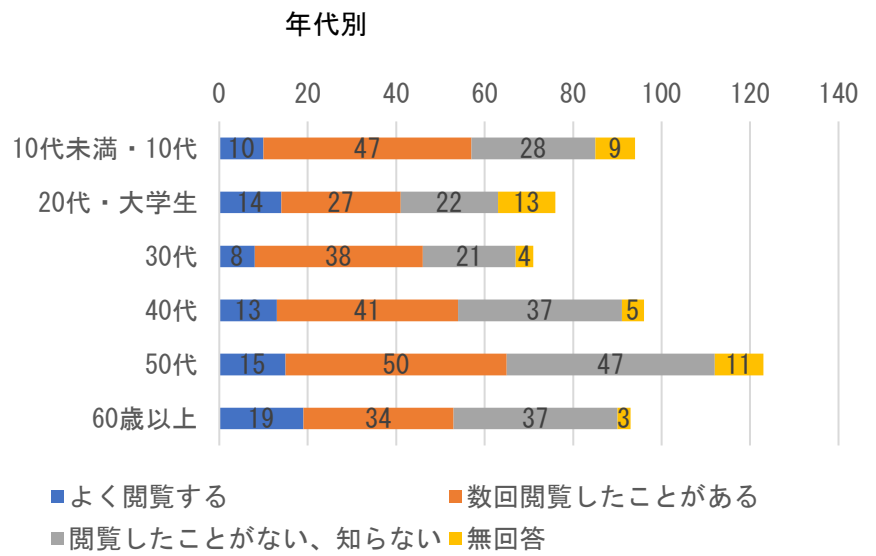
(単位：人)

● 京都大学のホームページや京都大学 Facebook サイトを閲覧されたことはありますか？

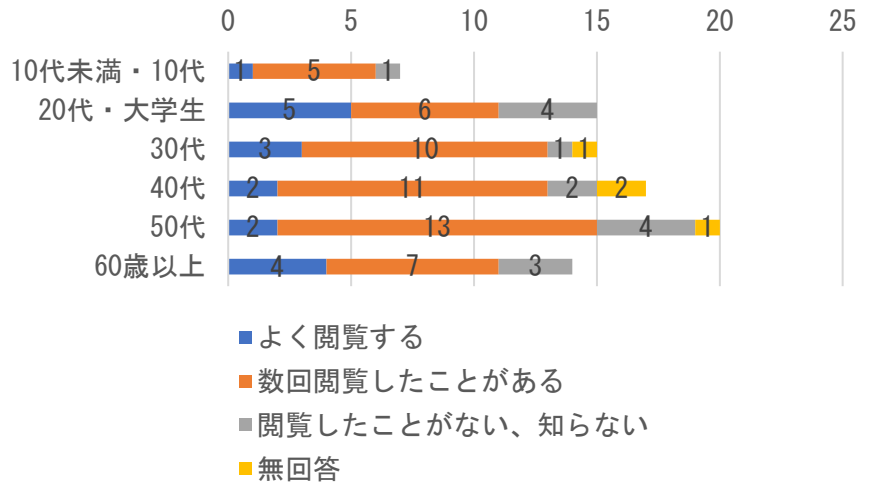
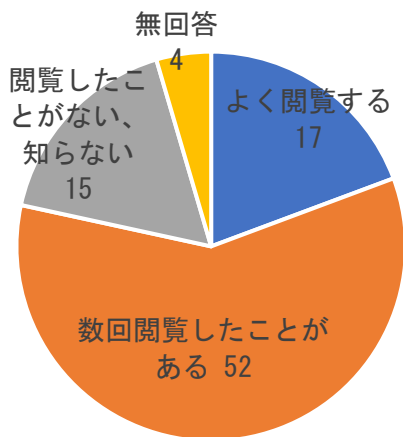
・オンラインでも膝詰め対話



(単位：人)



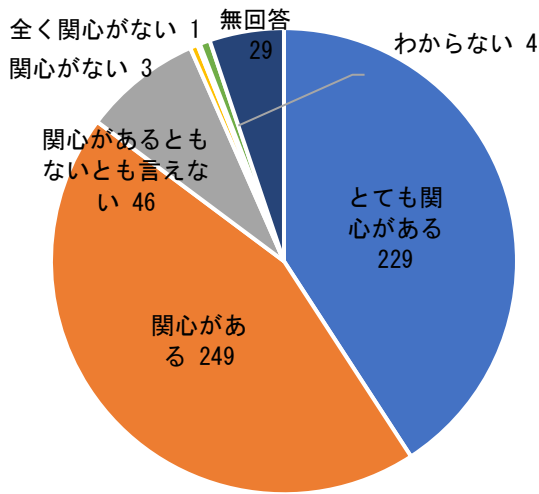
・オンラインでもお茶を片手に座談会



(単位：人)

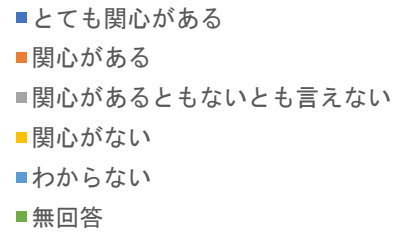
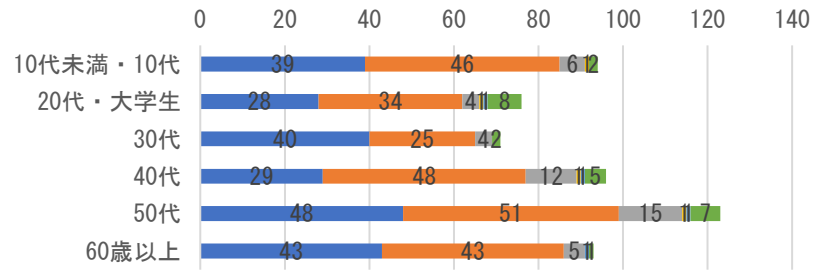
● 科学・技術に関心がありますか？

・オンラインでも膝詰め対話
全体

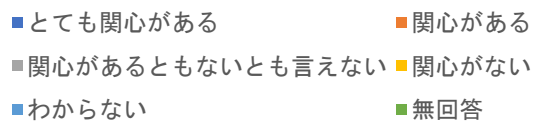
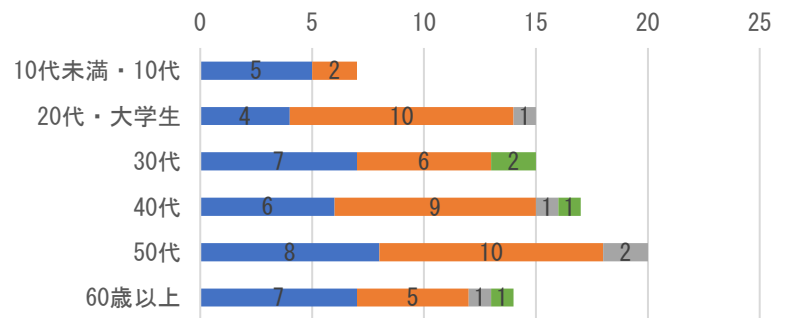
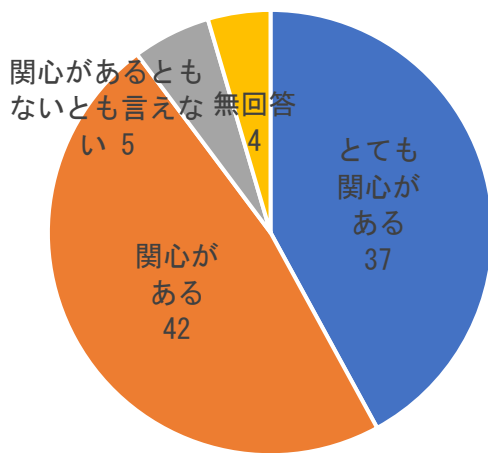


年代別

(単位：人)



・オンラインでもお茶を片手に座談会

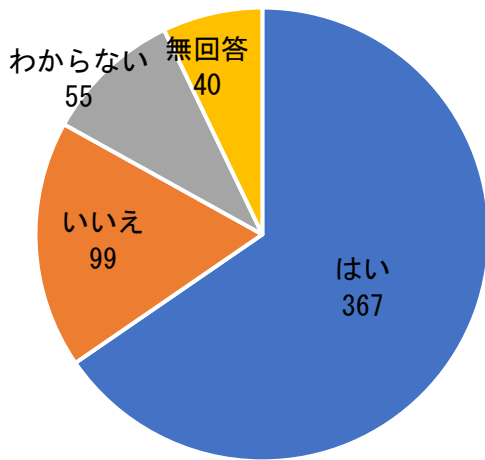


(単位：人)

● 科学・技術に関する情報を積極的に調べることはありますか？

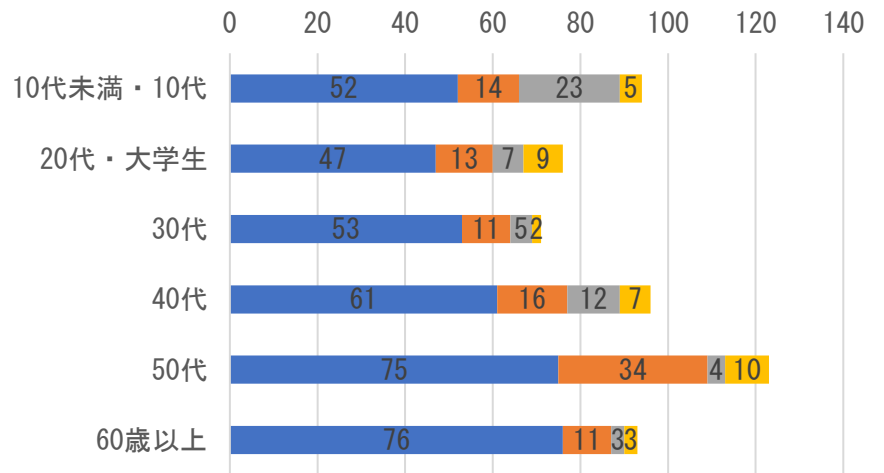
・オンラインでも膝詰め対話

全体



■ はい ■ いいえ ■ わからない ■ 無回答

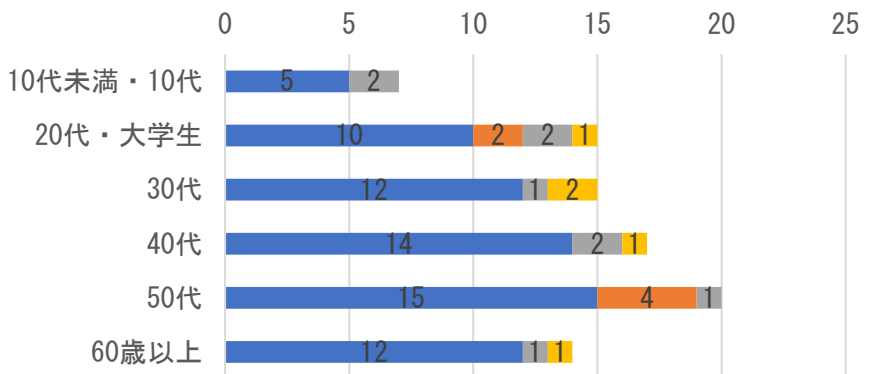
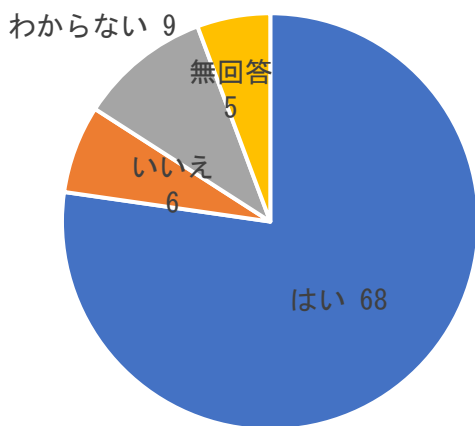
年代別



■ はい ■ いいえ ■ わからない ■ 無回答

(単位：人)

・オンラインでもお茶を片手に座談会



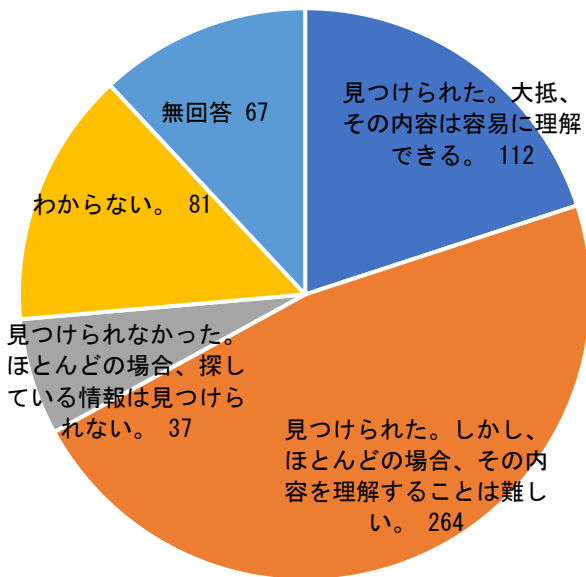
■ はい ■ いいえ ■ わからない ■ 無回答

(単位：人)

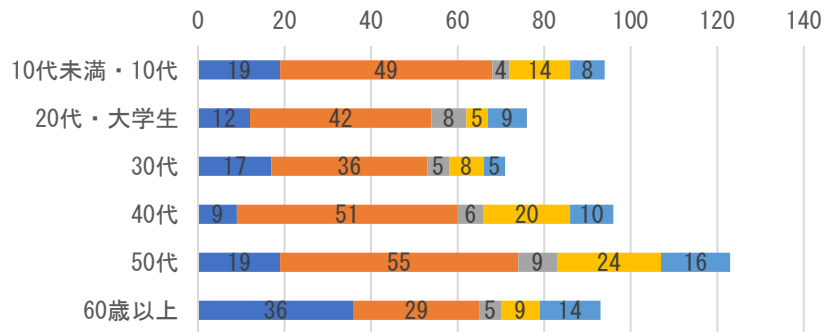
● 過去、科学・技術に関する情報を調べた際に、探している情報を見つけることができましたか？

・オンラインでも膝詰め対話

全体



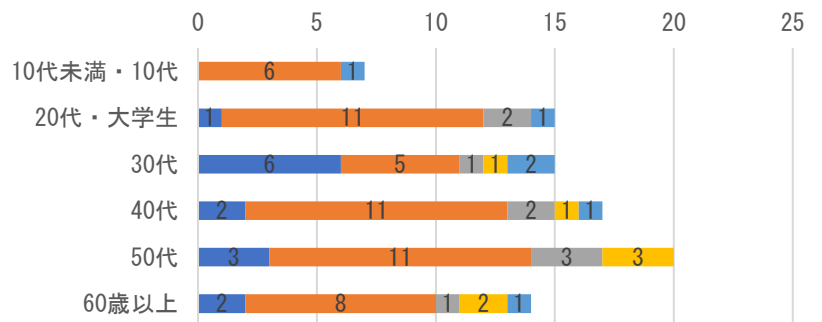
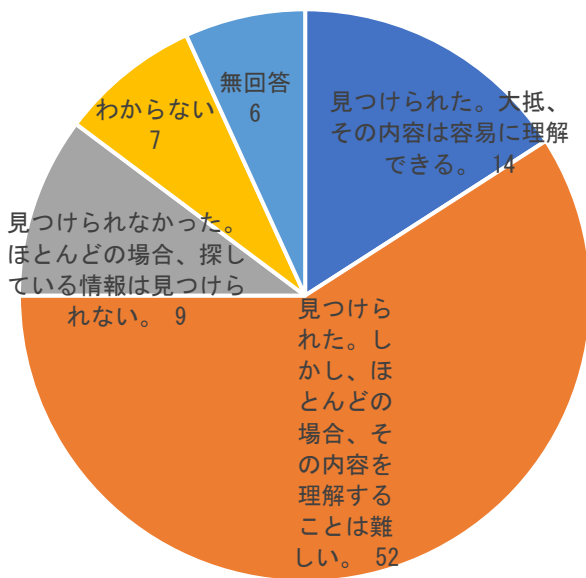
年代別



- 見つけられた。大抵、その内容は容易に理解できる。
- 見つけられた。しかし、ほとんどの場合、その内容を理解することは難しい。
- 見つけられなかった。ほとんどの場合、探している情報は見つけられない。
- わからない
- 無回答

(単位：人)

・オンラインでもお茶を片手に座談会



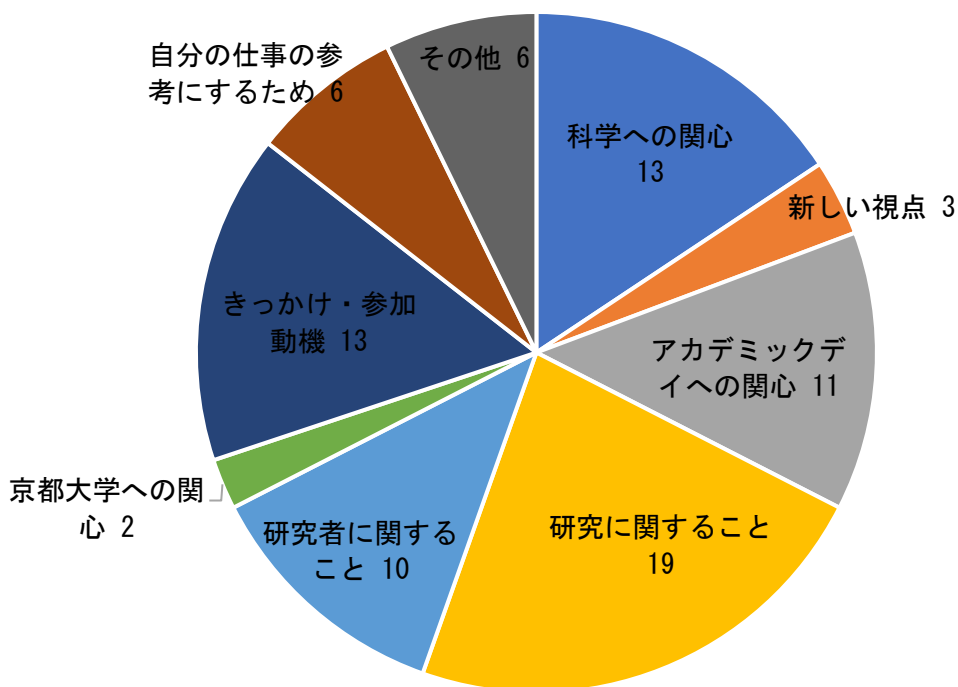
- 見つけられた。大抵、その内容は容易に理解できる。
- 見つけられた。しかし、ほとんどの場合、その内容を理解することは難しい。
- 見つけられなかった。ほとんどの場合、探している情報は見つけられない。
- わからない
- 無回答

(単位：人)

- アカデミックデイ 2020 にリスナーとして参加するにあたって、質問・意気込み等

※ 質問項目「参加しようと思われたきっかけ（無回答 302 名）」と「対話研究者に聞きたいこと、この企画に期待すること（無回答の 489 名）」を合わせて記載。

・オンラインでも膝詰め対話



(単位：件)

※ 無回答の 114 名については、上記の図からは除外。

・主な意見

〈科学への関心 (28 件)〉

- 「東京で学ぶ京大の知」「京大生物学教室」など京大の市民向けの催しは面白いから。生物が好きだが専門家ではないので、市民向けの催しで知識を深めたいから。(東京都 50 代、会社員・自営)
- 以前、京都大学の mooc に参加して、非常に好奇心をくすぐられた。(東京都 50 代、教員・研究教育関連)
- ちょっと難しい話を聞いてみたいと思ったから。(宮城県 20 代、会社員・自営)
- 知への愛 (京都市 10 代、京大生)
- 知識欲があり、コロナでオンラインセミナーが発達していると考え、インターネットで検索をしていたところ偶然発見することができました。(福岡県 20 代、京大以外の大学の学生)
- 新しい学びのために (大阪府 50 代、会社員・自営)
- 情報収集のために参加を希望しております。(大阪府 50 代、会社員・自営)
- 元々関心を持っていたテーマもあるが、普段は見るものの取捨選択を自分の狭い感覚で行っているため、今回の場で掲げられた研究を全て見てみたいと思ったため。(千葉県 50 代、主婦・主夫)
- 科学に興味があり、専門家や教授の研究内容を聴くことで、科学の面白さをさらに知りたいと思ったから。(広島県 10 代、高校生)
- 大学で行う研究について興味を持ち、知りたいと思ったから (神奈川県 10 代、高校生)
- 「研究」というものにふれたいから (とくに京大の「研究」なので) (宮城県 50 代、京大以外の大学の職員)
- 最新の研究動向を知りたい (千葉県 60 代、会社員・自営)

- 研究世界を知りたいから（東京都 50 代、その他：フリー編集者）
- 化学・科学が好きだから（山口県 60 代、会社員・自営）
- 子どもと一緒に色々な世界を知ってみたいと思ったので。（兵庫県 40 代、主婦・主夫）

〈新しい視点（14 件）〉

- 興味の幅を広げたいと感じたから（宮城県 20 代、京大以外の大学の学生）
- 自分の仕事と異なる知識に触れてみたかったから。（北海道 40 代、公務員・団体職員）
- 自分の知らない分野の研究について聞きたいと思ったから（群馬県 20 代、京大以外の大学の学生）
- 新しい価値観を取り入れたいから。（京都市 10 代、京大以外の大学の学生）
- 本などを選ぶときに自然科学に偏ってしまうので、いろいろなジャンルの研究者のお話が聞けるチャンスだと思ったので。（山梨県 40 代、会社員・自営）
- 生命科学系の知識をつけたい、自分の視野を広げたいという思いから参加を希望しました。（神奈川県 10 代、京大以外の大学の学生）
- 対話の視聴を通じて、自分だけでは得られない気づきを得たいと思っています。（宮城県 10 代、京大以外の大学の学生）

〈研究に関すること（165 件）〉

興味関心

- 息子(中 2)が昆虫が好きなので、一緒にお話を聞いてみたいです。（愛知県 40 代、無職・アルバイト）
- 植物と昆虫の不思議な関わり方の中でも匂いがツールとなっていることに興味があります。そんな不思議な世界を教えている子どもにも伝えたいです。（フランス 60 代、教員・研究教育関連）
- 昆虫と植物の関係に興味があったので申し込みました。また中学校の卒業論文でにおいとひとの関係について調べているので、つながることがあればおもしろいのではないかと思います。（東京都 10 代、中学生）
- 医学や生物学に興味があり、タイトルに魅力を感じたため。（京都市 20 代、無職・アルバイト）
- 細胞とマラリアはどちらも小学生の娘が大変興味を持っており、是非お話を聞いてみたいと希望したため。（東京都 50 代、主婦・主夫）
- 修学旅行の研究をされている先生がいらっしゃることを始めて知ったので、興味を持ちました。（東京都 50 代、会社員・自営）
- 仏教瞑想に興味があるから。また私は看護学科なので看護の学習に活かしたいから。（京都市 10 代、京大以外の大学の学生）
- ゲーム理論を最近、独学で勉強してるので理解を深めるきっかけになると思ったから（滋賀県 20 代、京大以外の大学の学生）
- 総裁選が近く、ホットな話題だから（京都市 20 代、高校生）
- 研究支援の方法を知りたかったため（東京都 30 代、京大以外の大学の教員・研究者）
- タイムリーなテーマから、珍しいテーマまで充実したラインナップで興味を持ちました（千葉県 30 代、その他：科学ライター）
- タイトルが魅力的！難しい内容かもしれないけれど、聴いてみたいな、と思い申し込みました。（愛知県 40 代、主婦・主夫）
- 無料で普段関わらない話を聞けそうだった為（東京都 30 代、会社員・自営）
- 企画のタイトルと講座が気になり、ウェブの概要・おすすめしたい本なども見て、さらに興味を持ちました。（東京都 50 代、会社員・自営）

先生への質問

いずれも各先生のご研究内容に関連する質問のため、ここでは割愛



〈研究者に関すること（30件）〉

興味関心

- 全企画に共通していますが、専門分野の話しをしているときの研究者の方々から伝わる感覚に触れることを期待しています。（京都府 30 代、京大以外の大学の職員）
- 京大の先生方がどのような想いで研究に情熱を注がれているのか、そして視聴者やファシリテーターとどのようにコミュニケーション（対話）をしたいのかを知りたいと思ったためです。（京都市 30 代、京大職員）
- 研究なさっている方のモノの見方なども含めて触れてみたいと思いました。（フランス 60 代、教員・研究教育関連）
- 自ら問いを立て追求する姿勢を学びたい。（京都市 30 代、会社員・自営）
- 一般市民との対話に大学広報、研究者が何を期待されているのか興味あります。（東京都 40 代、会社員・自営）

先生への質問

- 今回のリサーチクエストを立てたきっかけ、またいつもどのようにしてリサーチクエストを探しているのか（京都市 20 代、高校生）
- 研究している中で 1 番楽しいと感じることは何ですか？（兵庫県 10 代、高校生）
- 研究者になる方法と大切なこと。研究を行う上で大変なことと面白いこと（東京都 10 代、京大以外の大学の学生）
- 研究していて思わぬことがあったことがありましたか。たとえば、研究のテーマとは少し違うことに発見があったなどです。（東京都 50 代、会社員・自営）
- タイトルの研究を始めたきっかけやその研究の魅力や気づき（発見）について知りたい。（京都市 50 代、京大職員）
- みなさんに：なぜその研究をテーマにしようと思われたのか、きっかけやモチベーションを聞いてみたいです（東京都 40 代、会社員・自営）
- すべての対話研究者の方に対して、学生時代の学問の興味や学部選択などについてお聞きしたいです。（北海道 10 代、高校生）
- 今後の日本の展望について、それぞれの研究者の方から知見をいただきたい。（京都市 20 代、会社員・自営）

〈京都大学への関心（16件）〉

- オンライン講義「立ち止まって考える」が非常に刺激的だったことがきっかけとなり、京都大学の講座に興味を持ちました。（愛知県 50 代、会社員・自営）
- 大学での研究がどんなことなのか知りたい（東京都 10 代、中学生）
- 以前京都大学の学祭に伺った事があり大学に好感を持っていた事（神奈川県 30 代、会社員・自営）
- 京大の開かれた形がどんな風に運営されているかを見たい（ニュージーランド 50 代、会社員・自営）
- 京都大学の企画に参加できたら面白そうだから（埼玉県 40 代、その他：病院職員）
- 京都大学への憧れ（東京都 60 代、会社員・自営）
- 京都大学に興味がある。（北海道 10 代、高校生）

〈アカデミックデイへの関心（19件）〉

- 毎年楽しみにしています（大阪府 30 代、会社員・自営）
- 対面の時に参加していて、毎回、おもしろかったため。（京都市 40 代、教員・研究教育関連）
- いつも知らない世界を知る機会に生まれています（愛知県 50 代、会社員・自営）
- アカデミックデイという企画に非常に魅力を感じたため。（京都府 30 代、京大以外の大学の職員）
- 様々な研究者の話が聞けるから（京都市 50 代、京大職員）
- このような面白い取り組みがなされていることを知らなかったのでぜひ聴いてみたいと思いました。各回の紹介ページに研究者の本の紹介が載っているのも素敵。（東京都 40 代、主婦・主夫）

- 山梨県立科学館のツイッターで紹介され、子どもが大変興味を持ちました。（山梨県 10 歳未満、小学生）

〈開催形式（10 件）〉

- 興味のあるテーマについて面白く、気軽に知ることができそうだったから。（東京都 20 代、京大以外の大学の職員）
- リスナー枠であれば、気楽に参加させてもらえと思ったから。（東京都 50 代、会社員・自営）
- オンラインの平日夜で時間も一時間なので、参加しやすいから（新潟県 50 代、会社員・自営）
- 対話の形式が魅力的だと感じたから（東京都 40 代、公務員・団体職員）

〈開催期間中の追加申込（4 件）〉

- 他の企画に参加して、どれもおもしろかったのもっと他のお話も聞いてみたくなりました。（東京都 10 歳未満、小学生）

〈きっかけ（16 件）〉

広報媒体経由

- ポスターを見て、興味を持ったから。（京都市 10 代、高校生）
- 案内文を読み、興味をもった。（大阪府 60 代、会社員・自営）
- 京都に旅行中、バスの中で本件広告が気になった。（千葉県 50 代、公務員・団体職員）

人からの紹介

- 家族からの勧め（滋賀県 10 代、中学生）
- 学校の司書さんに教えて頂きました。（東京都 10 代、高校生）
- ミャンマー語の先生からミャンマーの仏教についてお話をきいて興味をもちました。（北海道 40 代、会社員・自営）
- 担任の先生から今回のイベントがあるということを知り、興味を持ったテーマがあったから（京都市 10 代、高校生）
- 同僚がファシリテーター参加するため（愛知県 30 代、京大以外の大学の職員）
- 知人のジャーナリストからの紹介（千葉県 60 代、その他：ジャーナリスト）
- 家族のプレゼンで興味を持ったので参加しようと思いました。（京都府 30 代、会社員・自営）
- 知人からの紹介（東京都 30 代、会社員・自営）
- 普段の生活の中では、大学で行われている様々な分野の研究内容について直接目にする・耳にする機会が乏しいため、今回のイベント開催の案内を友人からもらって、興味を持ちました。（京都市 30 代、その他：専門職（ソーシャルワーカー））

〈自分の仕事・進学への参考（18 件）〉

- 将来の夢をさがしている（京都市 10 代、中学生）
- 子供の受験でホームページを検索中にイベント案内を見て、聞いてみたいと思い、申し込みました。（大阪府 50 代、会社員・自営）
- 生物に興味があって将来学者になりたいです、こういった実際に研究している方から話を聞けるイベントを探していました。（京都市 10 代、高校生）
- 貴学を志望し、様々な知識を身に付けたいと考えている上に、特に今回の御講演の内容に心を惹かれたためでございます。（大阪府 10 代、高校生）
- 特に経済学についての知識がある訳では無いが興味を持ったので学科選びの参考になればと思って参加しました。（大阪府 10 代、高校生）

- 進学したい研究科に所属する研究者の話を聞けるから（埼玉県 10 代、京大以外の大学の学生）
- 自分の将来の選択に役立ちそうだったから。興味を持っている分野に近そうだったから。（京都市 10 代、京大以外の大学の学生）
- 画家として活動する中で、科学や医療の視点を応用して表現することで芸術の可能性を模索したいと思い、そのためヒントを得たいと考えています。（京都市 20 代、無職・アルバイト）
- 自身の研究に参考になりそうのため。（京都市 40 代、京大教員・研究者）
- 健康系のメディアなので常に関連テーマの情報を入手したい（東京都 60 代、その他：メディア）

<学びの姿勢（10 件）>

- 社会人経験が本来の学びを制限していた日常から、学びをとりいれた社会人生活の実現を目指している。本来、会場での対話を希望するところ、遠方につき、移動制限が予想され、オンラインでのリスナー参加であれば、問題ないかと思ったから。（東京都 50 代、会社員・自営）
- コロナで人と会う機会が少なくなり、インプットする物事が減っているので。（兵庫県 40 代、会社員・自営）
- 自分が在籍しているのとは別の大学から研究者の話を聞いてみたいと思ったから（東京都 10 代、京大以外の大学の学生）
- 色々なことに興味を持つきっかけとなればいいなと思ったから。（京都府 10 代、高校生）
- 来春に定年退職しその先は色々と学びの場に参加したいと考えています。そのひとつとしてどのようなものか体験したいと思いました。また子供のころから生物が好きでしたが仕事は畑違いだったのでもう一度学び直したいと思っています。（千葉県 60 代、会社員・自営）

<その他（21 件）>

- なかなか無い機会だと思ったので（千葉県 10 代、高校生）
- 夏休みが暇で刺激が欲しいから（京都市 10 代、京大生）
- 様々なコミュニケーションの方法をしりたい（愛知県 60 代、その他：音楽療法士）
- ファシリテーターの役割を学びたい（京都府 30 代、会社員・自営）

アカデミックデイズ 2021「オンラインでもお茶を片手に座談会」にリスナーとして参加するにあたって、アカデミックデイというイベントについて聞きたいこと、この企画に期待すること、参加しようと思ったきっかけ

<科学・技術への関心（11 件）>

- 科学と技術の関係性について。両者は対立・牽制することで世の中の均衡を保っているのか、協調して社会を加速的により良い方向に導くことができるものなのか、いずれでもないのか、いかがでしょうか。（京都府 40 代、会社員・自営）
- 全く違う分野の人の話から自分の世の中への関心や問いを広げたい。深めたい。（兵庫県 30 代、会社員・自営）
- ユニークな研究はどうやって生まれるのか？（京都市 60 代、会社員・自営）
- 何やるのかワクワクします。（千葉県 60 代、会社員・自営）

<対話への関心（8 件）>

- 東日本大地震との関わり。なぜ対話が大事になったのか。（奈良県 10 代、高校生）
- 京大内の他分野研究者たちがどんな共通言語で、研究を議論するのか、そのコミュニケーションに関心があります。（北海道 40 代、京大以外の大学の教員・研究者）



- どれだけ易しく説明されるのか、その工夫をお聞きしたいです。（兵庫県 50 代、教員・研究教育関連）
- 京都大学のサイエンスコミュニケーションの形（京都府 50 代、教員・研究教育関連）
- 「学問」は内側に向かうイメージを私は持っています。人とのつながりも分かり合える者同士の内輪の話し、というイメージ。社会とのつながり、学問をどこで実験・実践するのか？という事がこのアカデミックデイズで語られているのかどうか、それを聞きたくてリスナーとして参加します。（東京都 50 代、会社員・自営）
- アカデミアが一般の人へのどう開かれていくか（千葉県 30 代、主婦・主夫）
- 京大内の他分野研究者たちがどんな共通言語で、研究を議論するのか、そのコミュニケーションに関心があります。（北海道 40 代、京大以外の大学の教員・研究者）
- 研究のおもしろさを伝えるのに、どのような工夫をされているか（宮城県 50 代、京大以外の大学の職員）

<京都大学への関心（5 件）>

- 少しでも多く京大の魅力を知りたい、感じたい（千葉県 10 代、高校生）
- 京大に興味がある。（奈良県 10 代、高校生）
- 京大の研究成果が実社会の未来に与える影響を知りたい（京都市 60 代、会社員・自営）

<アカデミックデイへの関心（9 件）>

- 開催するに当たって困難だったこと（千葉県 20 代、京大以外の大学の学生）
- 今後も継続して実施して欲しいです。（北海道 40 代、公務員・団体職員）
- リアルの対話をオンライン、となったとき、今のカタチを築かれた経緯を教えていただけたらと思います。（愛知県 40 代、京大以外の大学の職員）
- 企画のテーマの選び方、講座の組み立て方（神奈川県 50 代、教員・研究教育関連）
- 質問ができる場があったから。異分野との共通点を知るのが興味深い。できれば対面式の方が良いが、オンラインでの工夫などがどのようにされているのかや、登壇者の選び方などを知ることができたらと思いました。（京都市 50 代、京大以外の大学の教員・研究者）
- イベントのメイキングを知りたい（神奈川県 50 代、教員・研究教育関連）
- 京大 URA が 10 年間やってきた「国民との科学・技術対話」の活動に大変興味があります。（茨城県 40 代、京大以外の大学の職員）

<きっかけ（39 件）>

アカデミックデイへの関心

- 以前参加してとても有意義だったから（大阪府 40 代、会社員・自営）

異分野などへの興味関心

- 自分の仕事とは異なる知識に触れてみたかったから。（北海道 40 代、公務員・団体職員）
- 新しいことを知るよい機会だと思ったので。（東京都 40 代、会社員・自営）
- 塩瀬先生をはじめ、様々な研究をされている先生のお話を聞くことができるので（京都市 20 代、公務員・団体職員）
- オンラインで参加しやすく、内容も多岐で、楽しめると思ったので。（京都市 40 代、教員・研究教育関連）

京都大学への関心

- 受験を考えている為（香川県 10 代、高校生）
- 昨年からオンライン講義「立ち止まって考える」を視聴するようになり興味が深まったため（愛知県 50 代、会社員・自営）
- 元京大生で大学の知見の発信に興味があるから（千葉県 30 代、主婦・主夫）

自分の仕事への参考

- 自分の研究分野に関係したテーマであったため。（京都市 20 代、京大生）
- 興味関心を沸き立たせて 授業に活かしてみたい（対象は子どもですが）（フランス 60 代、教員・研究教育関連）
- オンラインの対話イベントを企画していて、試行錯誤しているので。（愛知県 40 代、京大以外の大学の職員）

広報媒体経由

- 市バスのポスターを見て興味を持った（京都市 50 代、京大以外の大学の職員）

人からの紹介経由

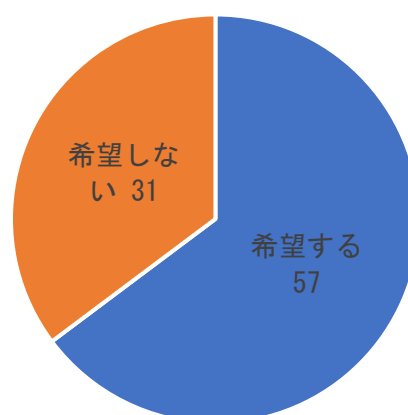
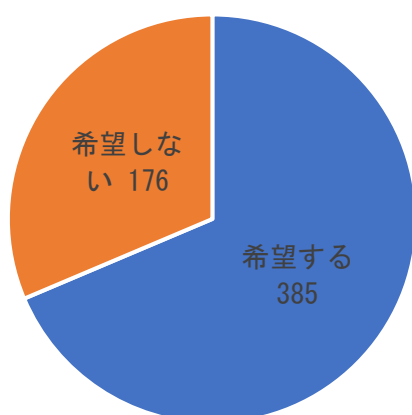
- おすすめと伺ったため。（京都市 20 代、京大職員）
- 塩瀬先生の呼びかけなので。（兵庫県 50 代、教員・研究教育関連）

<その他（6 件）>

- 中学生の娘と一緒に視聴したいと思いました（兵庫県 40 代、教員・研究教育関連）

● 今後、アカデミックデイ事務局からのメール配信を希望しますか？

- ・ オンラインでも膝詰め対話
- ・ オンラインでもお茶を片手に座談会



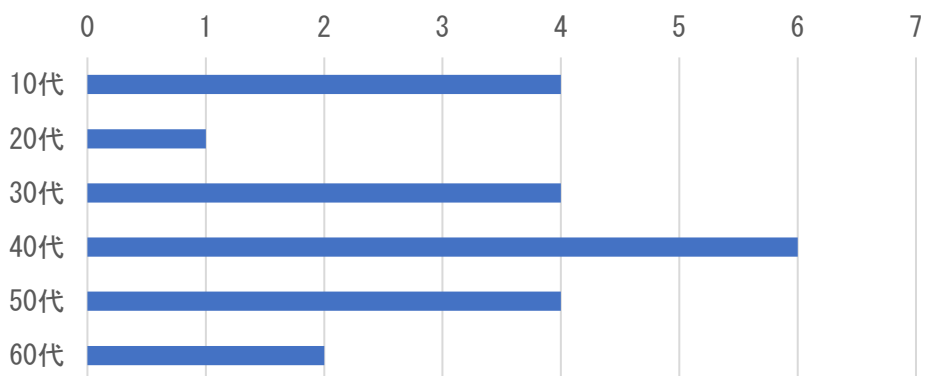
(単位：人)

■ 事後アンケートの結果

[対話参加者への事後アンケート]

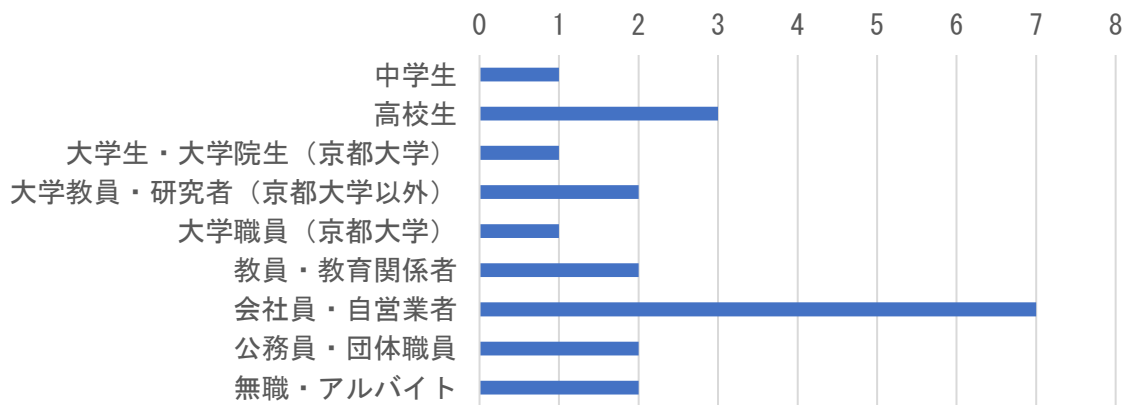
● 回答者はどのような方だったのか？

・ 年齢層



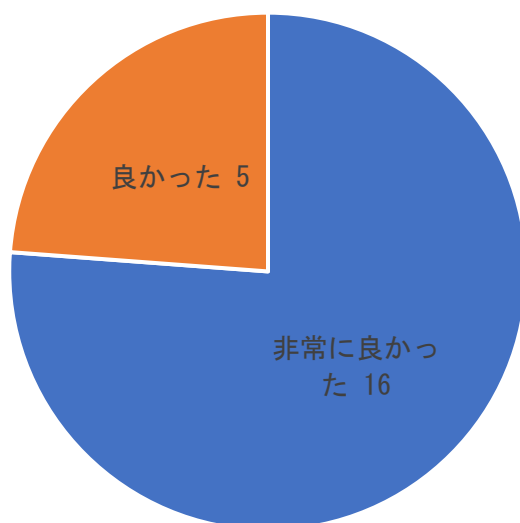
(単位：人)

・ 所属



(単位：人)

● 京都大学アカデミックデイ全体の感想（9日間合算）



● 上記を選んだ理由（主な意見）：対話参加者

- 研究者がフレンドリーで、かつ説明も分かりやすかった。また、URA も独自の興味で切り込んでおり、かけ合いの雰囲気もよかった。ただ、話題の多くが研究そのものに関する突っ込んだトピックに集中したため、もう少し参加者が多ければ（申し込みが少なかった？）、参加者が研究者の新たな一面を知れたり、研究者にとって新たな視点が得られたりしたかもしれない。（9/1、30代、会社員・自営）
 - オンラインでありながら、「ひざを突き合わせて」いるような感覚で先生のお話を伺うことができた。（9/1、20代、京大生）
 - 研究者が一般の方に研究のおもしろさを伝える工夫（画像、ストーリー、ツアー）が多彩だった。（9/8、30代、公務員・団体職員）
 - 内容も面白かったし、調べて出てくるのよりも詳しく、分かりやすく説明してもらえたから（9/1、10代、中学生）
 - 幼少期に未だ原因不明の重病に罹患した原体験から、今回のテーマ自体に興味があった。対話内で納得するまではいかなかったが、現状は少し理解が進んだ。ファシリテーターの対話のドライブ（ライターさんなので、インタビューになっており、対グループの対話にはなっていない。1対1になってしまい、参加者が本当に聴きたいところをひきだせていない）に少し工夫が必要と感じたため、上記評価になった。（9/17、50代、教員・研究教育関連）
 - 単純に知らないことをすることができて、面白かったですし、未来に対して期待をもつことができました。先生の人柄も素敵でした。（9/22、40代、京大以外の大学などの教員・研究者）
 - これまた情報量のおおい内容だったので、そのあと対談で質問が回収できたのはよかった。話はそれで基礎研究者がどうやってアウトリーチを実践するかという話になったのも面白かった。（9/22、40代、会社員・自営）
 - 研究者と直接話すことで、研究している分野の面白さや理解が深まったため。（9/24、10代、高校生）
 - Q&A 機能でもある程度聞きたいことは聞ける仕組みにはなってはいますが、直接研究者と対話できるというのは貴重な機会だと思います。人によっては関心が高い内容を専門の研究者にぶつけてみたい場合もあることを理解しました。（9/27、30代、京大職員）
 - 研究の内容を素人にも興味を持てる形で紹介していただき、とても面白かったです。司会との対話があったのも、わかりやすくなって良かったです。（9/29、30代、京大以外の大学などの教員・研究者）
- 研究者との対話の中で、研究内容や研究者自身について、気づいたこと、発見したこと、印象に残ったこととは何ですか？

・ 主な意見

- 一見複雑なコミュニケーションが進化のしくみによって生み出されていること。（9/1、30代、会社員・自営）
- 先生の研究の発展の先には、今苦しんでいる人達のたくさん笑顔があると感じました。イキイキとお話しなさる先生を目にして、私も将来このようになりたいと思いました。（9/6、10代、高校生）
- 本当に興味のある分野を突き詰め、放棄してしまわないのが研究者なんだなと思いました。何より楽しそうでした。（9/8、40代、会社員・自営）
- 説明が分かりやすかった。薬を作ってもそれに耐えるのができて、一朝一夕では病気はなくなるんだな、と思った。（9/13、10代、中学生）
- ワクチン接種有効率95%の意味が良くわかりました。「偽の抗マラリア薬が出回っている」ことがとても印象に残りました。（9/13、40代、公務員・団体職員）
- パーキンソン病の前駆的症状のファクターが、現状は嗅覚障害・便秘・レム睡眠行動障害であることを動物実験を通じて、可視化と実証を行なっていること自体に説得力はあった。また、なぜマウスが動物実験で最も使われるのはコスト面からかと思っていたが、遺伝子が均一であることがメリットという点も発見であった。生物を知ること、人間を知れるが故に、命をもっとリアルに感じる実験に意義を感じる。AIの活用は、確かに今後不可欠とも思われる。AIを活用する為には、人間にとってどう活用するのかを知ることが大切だと感じた。意外に生物の無駄とも思える振る舞いの中にこそ、そのヒントがあるのかも知れないという思いが参加後に生じた。（9/17、50代、教員・研究教育関連）
- 凄く重要で将来性もあるものなので、お金儲けが出来るシステムがあったらいいなと思ってしまいました。（9/22、60代、無職・アルバイト）
- 動物実験がなくなり、細胞実験に置きかわることで、人への実験のハードルが下がることを願っています。細胞は物ですか？輸出入が可能なのでしょう？色々考えてしまいました。（9/22、40代、京大以外の大学などの教員・研究者）
- 研究の内容も凄く面白かったですが、先生の人となり印象深かったです。話の仕方が、メチャクチャわくわくしたし、今後も先生の研究の今後の進捗を知りたい。（でも基礎研究だとなかなか知るタイミングがないので残念。ここは京大アウトリーチ頑張って）生物を専攻していない来歴で、工学的なアプローチで医療の最先端にアプローチされている先生の来歴は、視聴者である若者達にもかなり興味深かったんじゃないかなあ。大学の研究室だから



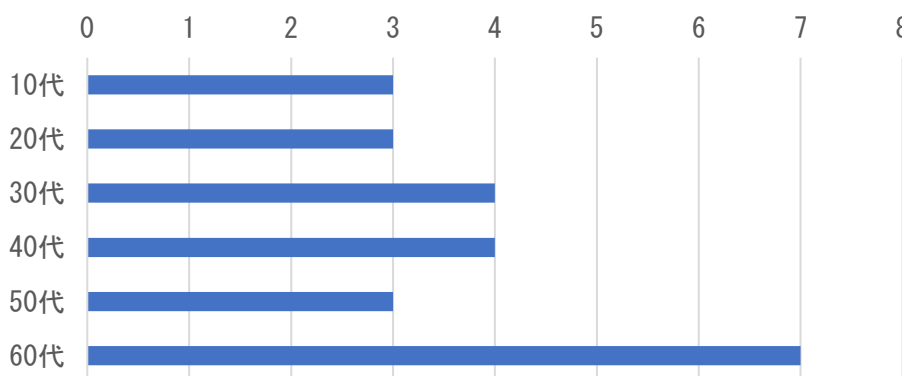
- こそ、ジャンル問わない研究者がいるから、こういう研究ができるのかなど。(9/22、40代、会社員・自営)
 - アフターコロナ？ウィズコロナ？の世界では、コロナ以前の概念ではうまくいかないのではないかと思います。普段の学校の生活もしっかりですが、修学旅行のような日常とは別のもので新しい手法が求められていると思います。また、災害の対応ともただ、運が悪くではなくあわてず行動できるための手法が求められると思います。東日本大震災の時は大学生の息子が自転車部の合宿で四国にいましたが、メールも電話もつながらない状況の中で mixi で連絡が取れました。その時 mixi はまだあまりなじみのないものでしたが、その後 FB や TW、インスタと便利に使うようになっていきます。旅行での行動指針も一般的な手法になる日があるのではと思います。(9/24、50代、教員・研究教育関連)
 - いいものを作ったあとの実現させることの難しさ、それを知りながら果敢にチャレンジしている素晴らしさ(9/24、50代、会社員・自営)
 - 今回3人の先生がお話を伺いましたが、3人ともとても興味深い研究をされていてとても面白そうだなと思いました！迷子をしっかり目的地に案内するためには「迷子」の定義を決めなくてはいけないのがとても面白かったです。(9/24、10代、高校生)
 - 瞑想はやはり実践が大事だなと改めて思いました。(9/27、50代、会社員・自営)
 - 意見をぶつけてみたい対話参加者に真摯に対応したり、多くのリスナーが興味を持ちやすいように、専門分野のど真ん中とは少し異なる内容でアカデミックデイに参加しているなど、研究者のおもてなし精神に勝手に感謝していました。(9/27、30代、京大職員)
 - 自分の分野に応用できないのかな、という視点でお話を聞き、質問もできました。(9/29、30代、京大以外の大学などの教員・研究者)
 - 安達先生はやっぱり持っています。(9/29、60代、無職・アルバイト)
- 今回の Zoom でのオンライン開催で不便に感じられたこと、困ったことがあれば教えてください。

- これまで気にはなっていたが、遠方のため一度も参加できておらず、今回はようやく楽しめた。(9/1、30代、会社員・自営)
- 気安く参加しやすいこと。質問なども大人数ではしにくいですが、オンラインだと質問しやすい。スマホなので画面が小さく図が見にくかった。(9/6、40代、会社員・自営)
- 京大なのに東京から参加できるとは！オンラインならではの。どのくらいの人の方が視聴されているかわかると嬉しかったです。(9/22、40代、京大以外の大学などの教員・研究者)
- どこからでも参加できるというのは良いですが、直接面と向かってではない物足りなさはやはり感じました。(9/27、30代、京大職員)
- オンラインだと研究所見学が出来てそこはとても面白いです！(9/22、40代、会社員・自営)

[リスナー（オンラインでもお茶を片手に座談会）への事後アンケート]

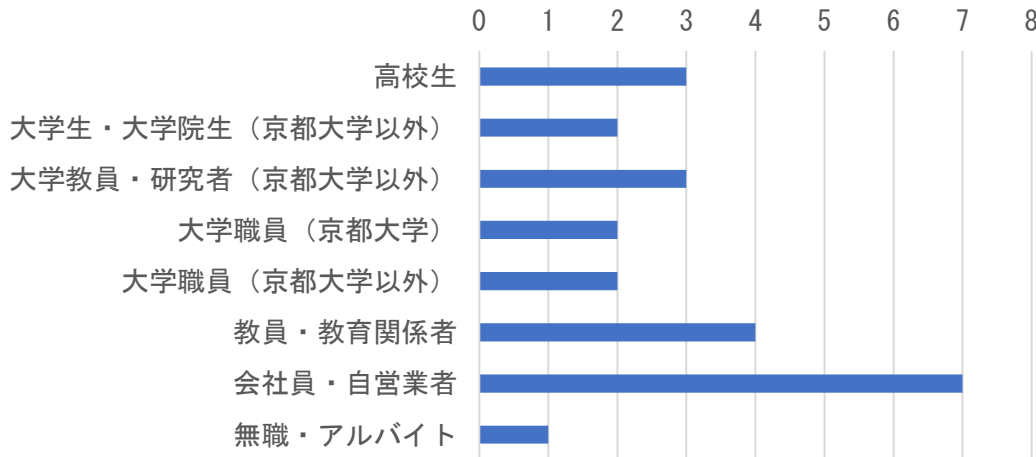
- 回答者はどのような方だったのか？

・年齢層



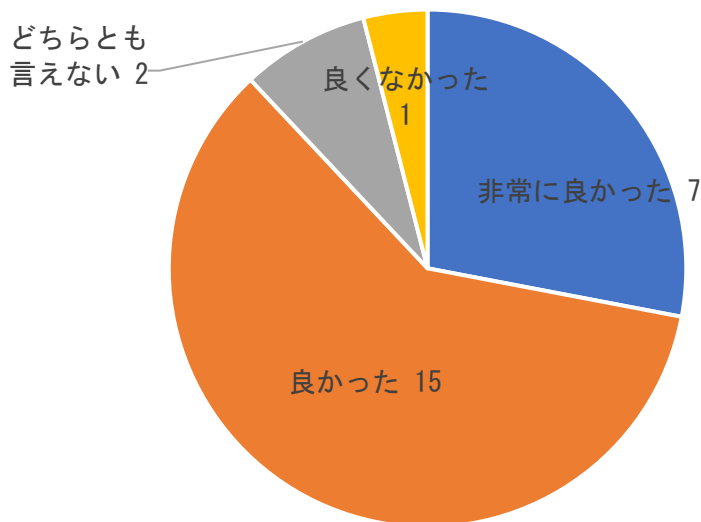
(単位：人)

・所属



(単位：人)

● 京都大学アカデミックデイ オンラインでもお茶を片手に座談会の感想



(単位：人)

● 上記を選んだ理由（主な意見）

- リラックスした雰囲気が共有できて和みました。（30代、京大以外の大学などの教員・研究者）
- 中の人のお話が聞けて、おもしろかったです。研究者の方々が自主的に、参加されていると聞き、おどろきました。
- ありがたいです。（準備などめんどくさいのではないかと考えていたので）（40代、教員・研究教育関連）
- 普段は聞けないお話を伺えました。移動カメラや膝詰め対話のセットなど、配信方法も飽きのこないものでした。（20代、京大職員）
- スピーカーの皆さんから、今までのご苦労と熱意を感じることができました。（60代、会社員・自営）
- 登壇者の間の厳しくも愛のある掛け合いから、アカデミックデイの空気感の一端を感じることができました。（30代、会社員・自営）
- アカデミックデイの開催に対してどのような思いでされているのかとても伝わりました。開催者側の熱い思いを聞ける機会はとても貴重でした。URAの思いや、参加される研究者のみなさんの想いやイベントを通しての気づきなどを知ったうえで参加するとまた見えるものも変わってくるのかなと思いました。（20代、京大職員）
- 研究者と一般市民（というざっくりとしたタグ付け）のハードルを下げる努力がわかった。また提供者の視点ではなく、参加者目線にも向き合っているところが共感が持てた。エネルギーの質問の下りは、そういう質問も拾い上げる姿勢がいいと思った。（50代、京大以外の大学などの教員・研究者）

- 塩瀬さんのつつこみが容赦ないところが、最後まで楽しめました。白井さんのポスター発表の時も「相手が知りたいたいと思っていないことを話すのは、対話ではない」や、大西 NHK は思い出すとニヤニヤしてしまいます。URA と研究者とのからみも大変参考になりました。来年は私も 201 系統に乗りたいです。(40 代、京大以外の大学職員)
- まさに「ひらかれた大学」を京大アカデミックデイ全体で実践しておられ、興味深く、面白く思いました。市民も研究者たりえると思っていますし、研究者も一般市民であるという考え方に深く共感します。そのバックヤードの公開もまさに「ひらかれた企画」です。首都圏の大学で広報関係の仕事をしてはいますが、京大ならではの、また京都という町ならではの内容をうらやましくも感じました。コンテンツと運営を合わせた「10 年間の継続」に敬意を表します！(60 代、京大以外の大学職員)

● 座談会を視聴して気づいたこと、発見したこと、印象に残ったことがあれば教えてください。

・主な意見

- 児玉先生がシールを貼ってもらって、とおっしゃってましたが、それ、張ったことあるって思いました。でも児玉先生ではなかったかも。共同研究者の方だったのかな？と思いました。楽しくお話できたのを覚えています。(40 代、教員・研究教育関連)
- 結果だけでなく過程や携わる人についても発信することでより深い対話が実現すること。(50 代、教員・研究教育関連)
- 毎年新しい試みがあること(60 代、会社員・自営)
- エネルギーの質問の時に固まったところ。またパネル展示のパネルが情報でぎっしり埋まって読む気を起こさせないところ。でも、ネットで一部をカメラをフォーカスすると、それだけでもスライド1枚の価値があるので、見せ方でちゃんと読ませることは可能だなと感じた。そう言う意味で Prezi で全体をパネルにし、プレゼンするのはそれぞれの部署をフォーカスするのはありだなと。あと、田根さんみたいなアクティブリスナーはごく少数で、そのもうひとつ外側のレイヤーにどうアプローチするのが課題かなと勝手に思っていました。(50 代、京大以外の大学などの教員・研究者)
- 市民からの率直な問いかけや疑問などに答え、それをさらなる研究につなげていっているというお話。(60 代、教員・研究教育関連)
- 京都市内を巻き込んだ、アカデミックデイの企画案。206 系統や地下鉄に研究者が出現、というのは面白い。京都市民としての実感ですが、大学のまちに住む方々はそれを受け入れてくれる土壤があると思います。ぜひいつか、実現して欲しいです。(20 代、京大以外の大学などの学生)
- リアルイベントの復活を期待しています。(30 代、会社員・自営)
- 市民の方もパネリストとしていらっしゃったため、京大の情報や京大自体がどのように見られているのかや、何を疑問に思われるのかを知れたのが印象に残りました。(20 代、京大職員)
- Zoom の登壇者 ID を、移動カメラに使っていたのは目から鱗でした。(40 代、京大以外の大学職員)
- URA の方々の活躍はますます期待されるものだと感じました。研究や学問でも、ビジネスでも、「境界」を取り払うことをよと考えていますが、URA の方はその境界線を越えて行き来されるわけですね。(60 代、京大以外の大学職員)
- 色々な人が URA になれるように何らかの要件やスキルは定義してもよいのではないかと。(30 代、会社員・自営)

● 「オンラインでもお茶を片手に座談会」のよかった点、改善点について教えてください。

・主な意見

よかった点

- 和やかな分かりやすいトークと、時々入る的確なツッコミで、ラジオのように楽しく聴けました。京都以外からも参加出来て良かったです。(30 代、京大以外の大学などの教員・研究者)
- サイエンスカフェの起源の話がきけたことと、アカデミックデイはその信念を貫いていることを知れたこと。(40 代、京大以外の大学職員)
- 企画者や研究者のイベントへの想いが伝わった。(60 代、会社員・自営)
- 研究者の方々の、生きた声、生々しい対話に触れられたこと。(60 代、教員・研究教育関連)

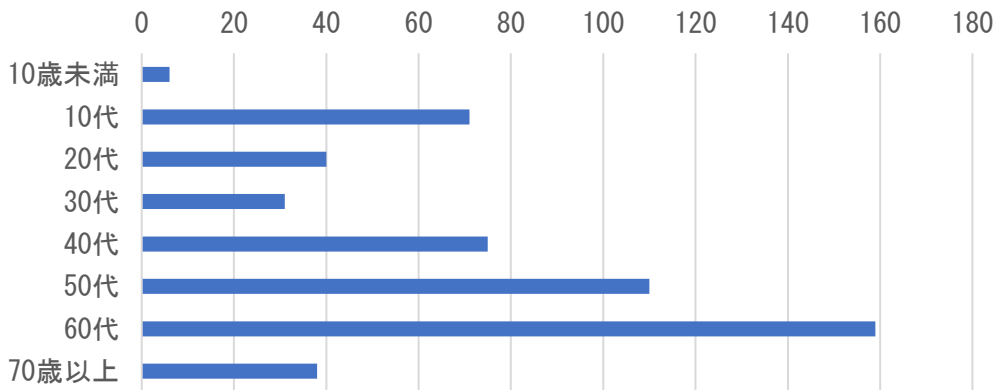
改善点

- リアル座談会の際はパネルの余白を考慮に入れたらいいと思う。あれこそ1日では読みきれない。(50 代、京大以外の大学などの教員・研究者)
- パネリストの方向士が知り合いでありとても楽しそうな雰囲気伝わりました。一方で初めて参加する方が見ると内輪で楽しんでいるように映る可能性もあると思いました。(20 代、京大職員)
- 研究が及ぼす影響、研究の未来について、一方通行ではなく対話したかったです。(60 代、教員・研究教育関連)
- アンケートを多くしてリスナーがもう少し参加できると良いかも。(60 代、会社員・自営)
- chat は臨場感を高める演出だと思いますが、集中力がさかれるようで好きではありません。Q & A と反応ボタンだけで十分な気がしました。(60 代、会社員・自営)
- ライブ配信以外にアーカイブがあるとよい。(60 代、無職・アルバイト)

[リスナー（オンラインでも膝詰め対話）への事後アンケート]

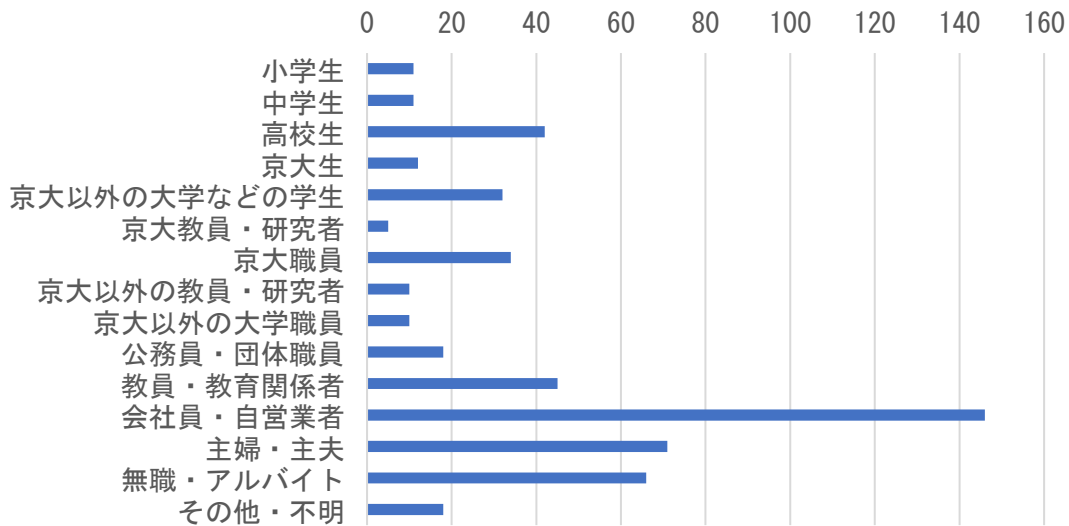
● 回答者はどのような方だったのか？

・ 年齢層



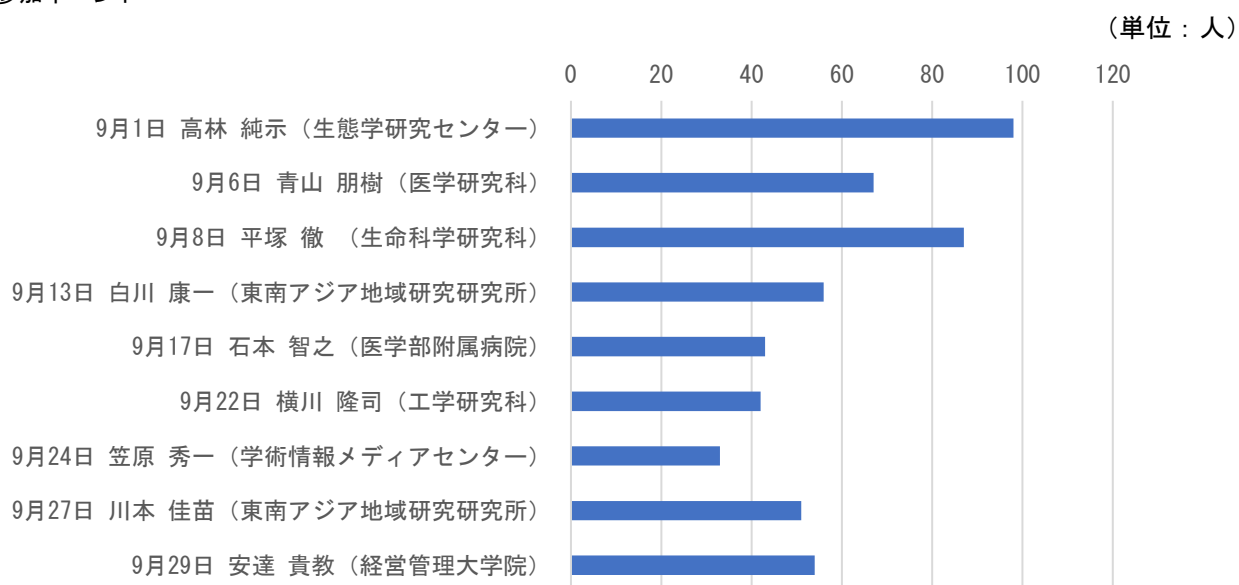
(単位：人)

・ 所属

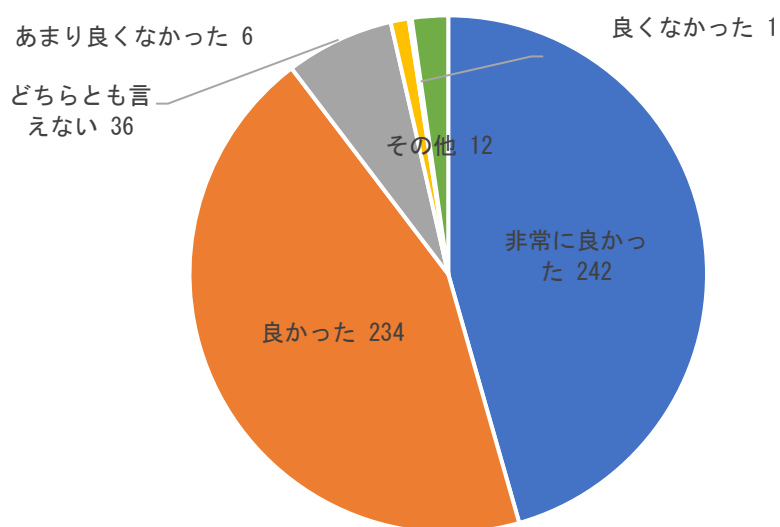


(単位：人)

・参加イベント

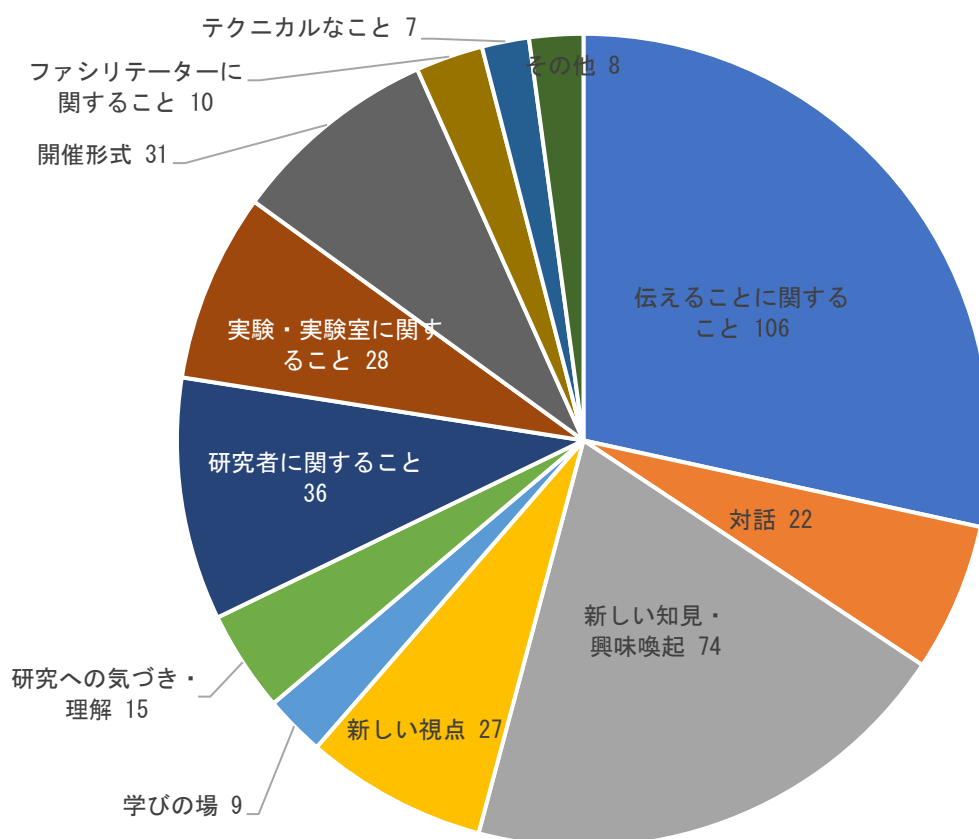


● 京都大学アカデミックデイ オンラインでも膝詰め対話の感想



(単位：人)

● 上記を選んだ理由



(単位：件)

・ 主な意見

〈「伝える」ことに関すること (106 件)〉

- 1 時間半の講演より簡潔でわかりやすかった。(9/1、50 代、京大以外の大学などの学生)
- 学術的な専門用語を使わずに興味ある内容を教えてもらえた。(9/1、60 代、会社員・自営)
- 図や実験の様子などを用いて下さり、理解しやすいように伝えて下さった。初めに天敵の定義をしっかりと伝えて下さったので混乱がなかった。(9/1、50 代、主婦・主夫)
- わかりやすいトピックと丁寧な解説、チャットのコメントも拾ってくださる心遣い、本当に楽しいあつという間の 1 時間でした。(9/1、50 代、会社員・自営)
- 先生の語り口が聞きやすく、内容もわかりやすかった。それにしても、素晴らしい技術だなと思いました！(9/6、40 代、会社員・自営)
- とてもわかりやすく、先生が明るく話されていてとても好感がもてました。(9/6、60 代、京大以外の大学などの教員・研究者)
- 最後のネルソンマンデラの引用もよかった。(9/6、50 代、京大以外の大学職員)
- 経験として語られた辺りがリアルでした。今時流行りのどここの論文には、とかいうのではなく。(9/6、50 代、無職・アルバイト)
- いろいろな顕微鏡が見られたこと、若い先生がたががんばっていらっしゃるがよくわかった。京都大学のこれからの可能性が大きいこともわかった。自由な京都大学だからこそ、新しい発想もあるのだと思う。『細胞の気持ち』という表現もすごくぴったりきていた。(9/8、50 代、教員・研究教育関連)
- 子供でもわかりやすい言葉で、それでありながら大人でも楽しめる内容でした。(9/8、30 代、京大以外の大学などの教員・研究者)
- マラリア撲滅のネックとなっているのが偽薬の販売・供給と聞いて、ワクチンと治療薬の開発普及さえ進めばよいと単純に考えていたので、一筋縄でいかないことがよく分かりました。(9/13、70 歳以上、会社員・自営)

- 知らない事を知れたのはよかった。ただ、講義形式で一般的な知識を得た、という風にも見えてしまったのもうちょっと先生独自の研究の様が知れたらなおよかった。ポルネオに行かれていて、という話が一瞬出たけど、例えばそこでどんな風に研究をなさっているとか。(9/13、40代、会社員・自営)
- 「大変シンプルでわかりやすい説明+実験」という構成がよかったです。(9/17、60代、京大以外の大学職員)
- α -シヌクレインがパーキンソン病に関連するという蓋然性の高い仮説から、そのメカニズムをより詳細に解明しようとする科学的な考え方が、具体的な実験を通して、文系にもわかりやすく語られていた点。(9/17、50代、京大以外の大学職員)
- 疾患モデルがどの様に検証されているかがわかりやすく説明されていたため。動画を見せてもらったことで、実際にイメージがとてもしやすかった。研究の方法も、話に聞くだけと実際に見るのでは、全く違う。たくさん気付ける場所があってイメージがしやすかったです。電気泳動法もゼラチンのようなところで展開するんだとか、光を当てて見やすくなっているんだとか。興味深かったです。実験も根気強く、また結果に対しても慎重に検証しているということがよく感じられました。(9/17、50代、会社員・自営)
- 小学生と中学生の子供と一緒に見ました。子供には、専門的な話を聞くまたとない機会、分かりやすく説明していただき、興味深く身を乗り出して聞いていました。(9/17、40代、主婦・主夫)
- 縁遠い分野のお話でしたがとても分かりやすく、また研究者のみなさんの姿を拝見して、身近に興味深く感じました。3Rの理念についても、最後のスライドだけでなく先生方の発表全体からも伺うことができましたと思います。非常に強く温かいメッセージとして受け取りました。(9/17、30代、教員・研究教育関連)
- 最先端の研究を分かりやすく解説していただき、めったに入れない研究室見学もさせていただいたため。(9/22、30代、京大職員)
- 最新のデータに基づく分析、また研究が紹介されていた。(9/24、50代、教員・研究教育関連)
- あまり話題を広げ過ぎずに瞑想にしっかりと留め置いたことがわかりやすくいいと思いました。(9/27、50代、会社員・自営)
- ミャンマーの最近の国情に関する講座だと思って視聴しましたが、川本先生がミャンマーに仏教の修行のために留学されたと聞いてびっくりし、瞑想などの内容の密度に感激しました。上座部仏教は戒律が厳しいと聞いていましたが、1日の瞑想や読経の行程表でその厳しさがよく分かりました。しかし、その一方で軍事政権は、なぜ躊躇なく市民に銃を向けるのかという疑問が湧いてきました。(9/27、70歳以上、会社員・自営)
- ゲーム理論を用いて、物事を新しい切り口で再考する、という手法には賛同しますし、ゲーム理論を用いて組閣を考えるという題材も興味を引くものだったのですが、検証する、という作業が見られず、その結果の妥当性について確信が持てませんでした。アカデミアというからには、何をどう示せば検証したことになるのかという課題設定も含めて検証作業が最も醍醐味のある所だと考えていたのですが、それがこのセミナーの中では認められなかった点が、非常に残念でした。(9/29、60代、会社員・自営)

<対話 (22件)>

- 進行スタイルが、一方的な講話とその後のQ&Aではなく、会話をしながらであったことと、その間チャットで参加者間の交流があったこともとてもよかったと思います。理解が促されるだけでなく、参加している感じを強く持つことが出来ました。(9/1、60代、京大以外の大学職員)
- 参加者の皆さんと再生の方法(素材や形)に思いを巡らせることができ、絵やキーワードを見ながらの楽しい時間、これまで経験のない対話イベントでした。皆さんの発想に対する青山先生のコメントから、頭を柔らかくして色々な可能性を自由に想像した先に、何かのきっかけやヒントが見つかるのかもしれないということを実感できました。(9/6、50代、会社員・自営)
- オンラインなので一方的な形式なのかと思ったら、参加者からもどんどん意見が出て話が発展し、面白かった。研究者の先生の専門的な話や、参加者の斬新なアイデアが聞けて楽しかった。研究者の先生のみが話すのではなく、先生と司会の方との対話という形式も非常に聞きやすく、また画面の使い方も工夫されていて見やすく、わかりやすかった。(9/6、20代、京大以外の大学などの学生)
- 前半が超速で詰め込まれたのでそのあとの対話で補完されました。元々経済学の先生であられる安達先生が政治学の分析に参戦されているというところだけでも聞き出したいネタは倍増するので、そもそも時間が足りづらいと思っていたので丁度良かったです。(9/29、40代、会社員・自営)

<新しい知見・興味喚起 (74件)>

- 食害された植物が化学物質を放出して天敵を誘引したり、近くに生えている別の株も防衛反応をしたりするらしいというところまでは聞き覚えがあったのですが、もっと詳しいお話も色々聞けて非常に興味深かったです。(9/1、30代、教員・研究教育関連)
- 非常に興味深く、楽しかった。彼らは自分たちの身近に存在しているのに知り合うきっかけもツールもなかった。彼らのことを、自分たちと同じ生きもの、というレベルで感じ、知ることができたのがとてもうれしい。かねてか

ら、そう感じ、思っていたがどう伝え表現すればいいか、方法も手立てももっていなかった。(9/1、50代、京大以外の大学などの学生)

- 初めて知ることが多く、大変面白かったです。また、高校時代の生物の学習とも繋がるのが多くワクワクしました。(9/1、10代、京大生)
- においを通して、植物が身を守るために虫と共生していること、初めて知りました。お話を伺わなければ、知らずに通り過ぎていたことでした。植物は、見えづらいですが動物のように大胆なサバイバル能力を持っていること、驚きでした。(9/1、60代、主婦・主夫)
- とてもむずかしかったけれど、普段なかなかできない経験で、刺激を感じた。(9/6、10代、中学生)
- イクラの皮で肺胞の再生には驚いた！「拒絶反応さえなければOKです」という先生のご説明に激しく納得、明るい未来が描けました！(9/6、60代、会社員・自営)
- 傷口を治すために細胞が波打つように動いてくるのを見て感動した。(9/8、40代、京大職員)
- DNAレベルでの生命現象の理解も面白いが、やはり生命の基本単位の細胞レベルでの研究、特に顕微鏡を使った研究は、そこに今ある現象をとらえることができるので面白い。(9/8、60代、無職・アルバイト)
- マラリアを通して、「疫学とは」の概略を知ることが出来ました。(9/13、60代、無職・アルバイト)
- 偽薬の問題など、マラリアに関する現在の課題が分かった。(9/13、60代、会社員・自営)
- マラリアの語源から、最新のワクチン情報まで多彩な展開で参考になりました(9/13、60代、その他：メディア)
- パーキンソン病の知識が増えました。「遺伝子の調節領域」は初めての言葉ですが、感動しました。(9/17、60代、会社員・自営)
- 難しく感じる部分もありましたが、大学で勉強したことが研究でどのように使われているのかが分かって非常に面白かったからです。これからもっと勉強して、またいつかセミナーに参加できたときの理解度を深めたいと感じました。(9/22、10代、京大以外の大学などの学生)
- 多領域が融合した研究室の様子、さらに様々な領域の先生方が集まることの重要性など、大変勉強になりました。(9/22、30代、公務員・団体職員)
- 斬新なテーマに惹かれて参加しました。まさに新しい取り組みに感動しました。(9/24、60代、会社員・自営)
- 徹頭徹尾知らない世界で面白かった。技術的な研究の話も面白いけど、人文学的な研究の話の聞けるのはアカデミーのよいところ！オンライン瞑想のレクチャーも面白かった。またやってみようと思います。(9/27、40代、会社員・自営)
- テーマが興味深く、またプレゼンターの熱意を感じた。(9/29、40代、公務員・団体職員)

〈新しい視点 (27件)〉

- 全く知らなかったことで、驚きました。これから、植物の香りの感じかた、とらえ方が変わります。人生が少し変わるかも!?(9/1、40代、主婦・主夫)
- スタートから15分ほど、仕事で視聴が遅れたのがホントに残念な楽しい企画でした。日頃、仕事で医療情報に接することが多いのに基礎医学のベーシックな理解が欠けている部分を、今日のセミナーでいくばくか埋めて頂いた感じです。(9/8、60代、会社員・自営)
- 色のついた細胞の画像が綺麗でした。色んな機械が研究室にあってすごかったです。他の生物から色をもらったりして細胞に色をつけるところなどもすごかった。(9/8、10代、小学生)
- 普段の生活では得られない、研究者のしているマラリアの世界を見ることができました。(9/13、50代、会社員・自営)
- 研究の世界、研究室、方法など、初めての事ばかりで感動しております。(9/17、60代、主婦・主夫)
- 全く知らない医療に関する技術を知ることができたから(9/22、60代、主婦・主夫)
- 普段思いもしないテーマで、大いに世界観が広がりました。(9/27、50代、会社員・自営)
- 新しい視点で細閣人事を見れるので参考になりました。(9/29、50代、会社員・自営)

〈学びの場 (9件)〉

- 最先端の先生の話の聞けるだけでも価値があるが、自分で考える時間が設けられ、アクティブな学びができました。短く感じた60分でした。(9/6、20代、京大以外の大学などの学生)
- 学ぶ、考えるということはそもそも楽しいことなんだ、と再認識させてもらった。(9/6、40代、教員・研究教育関連)
- 細胞の活動など見えるようにする技術や顕微鏡の発達はスゴイ。今、理系離れなど一部いわれているが、このような機会(聴講)があれば興味を持つ若い人も増え、未来の研究者も多く育っていくように思う。(9/8、60代、無職・アルバイト)



〈研究への気づき・理解（15件）〉

- まだまだ解明できていないことがあり、研究の余地があると分かり、楽しみ。（9/1、60代、会社員・自営）
- 植物や昆虫についてまだ未知のことが多いのですが、これらを解明していけば、害虫駆除や最適な植物栽培など人間にも害のあるような薬を使用しなくても自然にコントロールできそうです。あらためて生物の複雑さ・特徴に驚かされます。（9/1、60代、無職・アルバイト）
- イベントの内容が普段は気が付かないが共に生きている植物と寄生蜂のことで、自然の営みに大切であると気が付きました。（9/1、70歳以上、公務員・団体職員）
- 3Dプリンターと細胞団子という技術で、生体機能が回復するだけでなく、拡張する可能性も感じられた。技術も人間（生物）と親和性のあるものが、生き残っていくということも示唆されるような内容であった。（9/6、50代、教員・研究教育関連）
- 感染症に関する様々な対策が、ひとつずつ細やかな数値・データの積み重ねによって導き出された研究結果によって提言されてきていることを含め、遠い世界の出来事のように感じていた事柄が、ずっと身近に感じられたので、拝聴できてよかったと思います。（9/13、30代、その他：医療機関職員）
- 難病であるパーキンソン病は、まだまだ発症メカニズムなどが明確ではなく、効果的な治療方法を見出すために様々なデータ収集が行われている途上だと感じています。特定疾患治療研究事業から脈々と続いてきている難病医療に対する知見は、先生方の研究の蓄積の賜物であり、その成果が多くの患者さんを救う希望の光になるのだと感じました。（9/17、30代、その他：医療機関職員）
- 修学旅行を研究対象に選んだのは、すばらしい試みだと思いますが、具体的な研究内容の目的や方向性が今ひとつ理解できませんでした。修学旅行の対象地域やテーマなどの改善するため方策検討につながるような研究テーマであるべきだと思いますが、いかがでしょうか。（9/24、70歳以上、会社員・自営）
- 京都市は将来財政難が予想されているが、観光視点でも見直し（オーバーツーリズムなど）のためにもビックデータや位置情報の活用で地元の資本にお金も落としてもらえ工夫を期待したい（9/24、60代、主婦・主夫）

〈研究者に関すること（36件）〉

- 科学的に解明されようとしつつ、自然に対して謙虚な姿勢を持っておられるような高林先生も素敵でした。（9/1、60代、京大職員）
- 高林先生が、本当に植物と昆虫という生物の営みに敬意と興味を持たれていることが、講座内で伝わってきた。（9/1、50代、教員・研究教育関連）
- 病気や怪我で身体の組織が使えなくなり苦労されている方は多いと思います。これからの青山先生やお仲間の皆様のご研究とご活躍、先生方ご自身のご健康を心からお祈りして応援しております。（9/6、50代、会社員・自営）
- テーマもおもしろかったが、後半の即興に、先生が答えていくのがスゴイと思った。（9/6、50代、京大以外の大学職員）
- 研究という難しいイメージがあるが、先生も堅くなく、わかりやすく説明していただき、質問にもフランクに答えていただけたので研究に対する敷居が下がったように感じた。（9/6、20代、京大以外の大学などの学生）
- 先生が楽しそうに話されていたので、とても興味が持てました。（9/6、50代、会社員・自営）
- 研究の中身・意義だけでなく、先生の明るい人となりも分かって良かった。（9/6、20代、公務員・団体職員）
- 先生のバックグラウンド・これまでの御経歴をご紹介頂き大変感慨深かったです。再生医療研究者として活躍されていた際にやり残したことを、数十年後に、ご友人の助けを借りて成し遂げられたというのは、運命のようなものを感じ、さらに先生が他分野に活動の場を移した後も真摯にその課題と向き合ってきた証かと思いました。恐れ多いことではありますが、自分の境遇と重ね、勇気を頂きました。（9/6、30代、公務員・団体職員）
- 平塚徹先生が、素晴らしかったです。同時に、平塚先生のこれからご将来に期待が生まれ、ある種の推しの気持ちも生まれたところも良かったと思います。（9/8、30代、京大以外の大学などの教員・研究者）
- 先生の研究が楽しくてたまらない表情・説明が印象だった。（9/8、60代、無職・アルバイト）
- 先生の人柄が素晴らしく、普段見られない研究室の内側に近付けた気がした。（9/8、30代、公務員・団体職員）
- 病気の解明に取り組む研究者の人となりがよくわかり、将来の病気の解明に期待が持てた（9/17、60代、主婦・主夫）
- 先生方のお話が親しみやすく、分かりやすく説明していただき、とても楽しかった。内容は充実していて、説明がとても分かりやすく、先生方のお人柄も良さそうだった。（9/17、50代、会社員・自営）
- 先生方が掛け合いをしながら発表される様子が、大変盛り上がり、面白かったです。（9/17、30代、公務員・団体職員）
- 横川先生の話し方、声が心地よかったです。（9/22、60代、京大職員）
- 研究室の学生さんが出て説明してくれるところが楽しかった。（9/22、40代、公務員・団体職員）

- 先生3者でご参加いただいたのも良かったが、増田先生、馬先生のご活躍をもうちょっと聞いてみたかった。(9/24、40代、会社員・自営)
- 川本先生がチャタリングで、天然で惹きつけられました。あっという間の一時間でした。また先生のお話が聴きたいです。(9/27、40代、会社員・自営)
- 何といても、キュートな川本先生のプレゼンに終始癒されました。また、本来であれば、今頃ミャンマーで出家していたはずなので、先生のお話を伺いながら、疑似体験できてよかったです。(9/27、40代、教員・研究教育関連)
- 先生がカメラの横のパソコンを見ながら話されていたため、プレゼン中は正面を向いていなかったのが少し残念でした。(9/27、20代、京大職員)
- 講師の方が生き活きとされていらっやあって、とても好感が持てました。いろんな体験をされていらっやあったので、とてもポジティブなものの伝え方でした(9/27、50代、教員・研究教育関連)
- 講演者の方がとても楽しそうに、ユーモアを交えてお話されていたのも印象的でした。一般の方々に関心を持ってもらうためにはどうしたらよいか、良い手本を見せていただきました。(9/27、40代、京大以外の大学などの教員・研究者)
- ファシリテーターとのテンポ良いやりとりと絶妙な解説で、難しい話でも楽しく聞けたように思います。字が汚いところの話は思わずフツツと笑ってしまいました。そういう場面で、研究者はすごく遠いところにいるイメージだったのが身近に感じられたのが良かったです。(9/29、20代、京大職員)

〈実験・実験室に関すること(28件)〉

- 実際に実験室内の様子を配信していただくことで、講義だけではなく、イメージが直結してとても楽しく拝見することができました。(9/8、50代、主婦・主夫)
- 実験室などなかなか見ることができないので、探検気分が楽しかった。(9/8、40代、京大職員)
- 研究室の見学では、貴重な顕微鏡を見たり、研究生の様子がみられたり、ライブ感があって、面白かったです。オンラインならでは、とても良いイベントだと思いました。(9/8、50代、会社員・自営)
- 最先端の研究をしている研究室や顕微鏡を見られたこと、研究している学生さんも登場して、とてもリアリティーを感じました。(9/8、40代、主婦・主夫)
- ラボツアーを少し減らして、もう少し先生の研究の詳しい紹介を含めてもよかったですと思います。(理系の人には少し物足りなかったのではないかと思います。)(9/8、50代、会社員・自営)

〈開催形式(31件)〉

- 続編か補講をぜひお願いしたいところです。またYouTubeなどアーカイブ化もあれば嬉しいのですが、難しいでしょうか。(9/1、50代、会社員・自営)
- 時間が足りなくなって終盤駆け足になったり、端折られた部分があったのが残念でした。(9/1、30代、教員・研究教育関連)
- クイズなどがあって、小学生も飽きずに楽しめた。(9/1、40代、その他：主婦+小学生)
- 「投票」機能などを駆使しわかりやすく進めていただいたので最後まで興味深く拝見でき、あっという間の時間でした。(9/1、50代、公務員・団体職員)
- クイズ形式や、その回答によって、テーマをフレキシブルに変えられる点は面白く感じました。(9/6、20代、京大職員)
- とてもオープンで楽しい感じがしました(9/6、50代、教員・研究教育関連)
- 問題解答など簡単な参加型は、より聴講に興味をもって参加できて、いい施行だと思う。(9/8、60代、無職・アルバイト)
- オンラインであることを活かしてアンケートに参加できたり、研究室や顕微鏡を見せていただけたりしてとても良かったです。(9/8、30代、主婦・主夫)
- 話が対話形式であったこと、実験の雰囲気も少し見れたこと等よかったです。(9/17、40代、主婦・主夫)
- チャットに書き込みが多々入るので、つい読んでしまうと、講義そのものを聞き逃してしまう。(9/8、60代、主婦・主夫)
- 初めて余裕を持って参加できたのでチャットに書き込んでみた。ただ見ているだけでなく皆が参加できるのは楽しい。(9/17、50代、主婦・主夫)
- 多くの質問がされ、それが参加している方の知識を深める事が、出来るため。(9/22、60代、無職・アルバイト)
- 質問や意見も活発で、「研究」という感じがしました(9/24、10代、中学生)



- 内容も面白かったですし、クイズや瞑想の実践もありあっという間に時間が経ちました。(9/27、20代、京大職員)
- 講演者とファシリテーターの対話形式や、アンケートを挟みながらの進行、瞑想の実践など、誰でも楽しく参加できる工夫が随所にみられて、とても参考になりました。(9/27、40代、京大以外の大学などの教員・研究者)
- クイズ等は不要で、その分、内容の充実や質問に答える時間にあてて欲しかった。(9/27、60代、教員・研究教育関連)

〈ファシリテーターに関すること (10件)〉

- 司会の方が聞き手としても進行役としても素直に自然に話していて、気持ちよく聞けた。(50代、会社員・自営)
- 司会の方が随時挟む質問も興味深く、タメになったが少し頻繁すぎるようにも思う。現に内容がすこし飛ばされた。ただよく場を回しておられたと思う(10代、京大生)

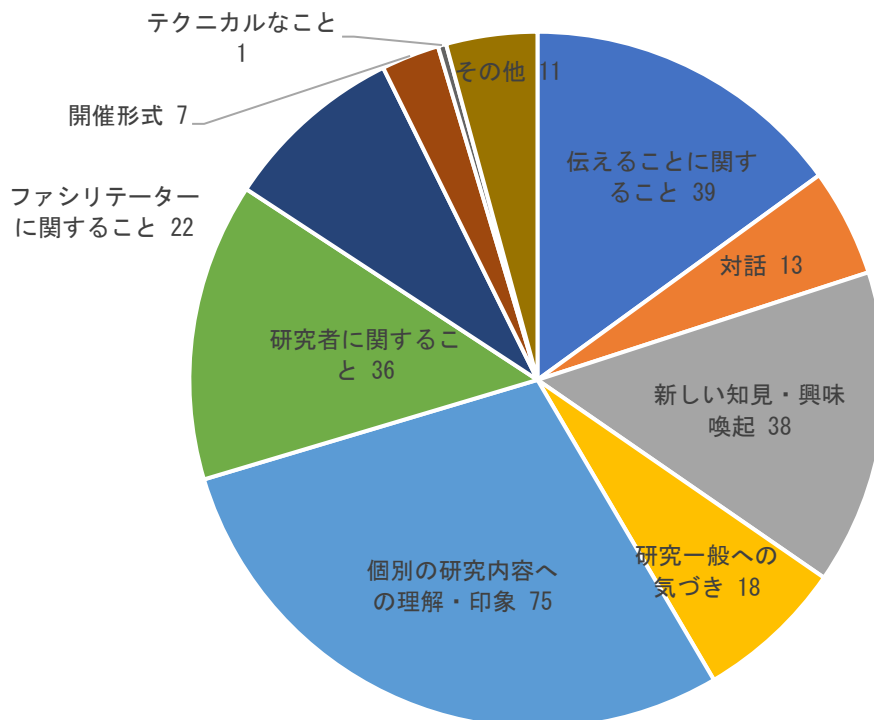
〈テクニカルなこと (7件)〉

- 始まるまでの待ち時間に流れる音楽(2曲ありましたかね)のセンスがすばらしいと思いました。(9/1、60代、京大職員)
- ホワイトボードでのリスナーとスピーカーを可視化する試みも、良かった。(9/6、50代、教員・研究教育関連)
- 冒頭のアナウンスのBGMについて、音量が大きめで、テンポが話すスピードよりかなり速いので、アナウンスに集中しづらかった。登壇者の声が時々わかれて、聞こえなかった。できれば、複数の登壇者の音声の質を揃えるためにも、マイクは高性能のものを支給するのが理想だと感じた。(9/13、40代、公務員・団体職員)

〈その他 (8件)〉

- 瞑想体験するとは思わなかった(9/27、40代、京大職員)
- 修士論文でゲーム理論を扱ったので、懐かしかったです。(9/29、50代、会社員・自営)

- 研究者とファシリテーターの対話を視聴して、研究内容や研究者自身について気づいたこと、発見したこと、印象に残ったことは何ですか？



(単位：件)

・主な意見

〈「伝える」ことに関すること（39件）〉

- 「識る」「考える」「佳き友」よかったです。（9/6、60代、会社員・自営）
- 視聴者のコメントに対して直ぐに発想を取り込んで、話を膨らませつつ進行が進んでいく様子が上手いなと思いました。（9/6、50代、会社員・自営）
- わかりやすく説明しようと気配りしてくださっている姿勢、質問を取りこぼさない気遣いをうれしく感じました。またコメントへの応答は、視聴者として頭を整理する区切りにもなってくれました。（9/8、50代、会社員・自営）
- 研究の言葉を言い換えることに可能性を感じました。例えば、先生はシグナルを気持ちと言い換えていました。極端な平易な言葉で言うことで、逆になぜ？という気持ちが生まれ、その言葉の真意を主体的に理解できるような気がしました。（9/8、30代、京大以外の大学などの教員・研究者）
- わかりやすく、またわからないことは、わからないとはっきりいつていただき、大変良かったかと思います。（9/13、60代、会社員・自営）
- 例示がステキ。原虫と赤血球のサイズ比較は月と地球くらいのサイズ差など。コロナのワクチンのはなしを混ぜたところも時事ネタ的によかった（9/13、40代、会社員・自営）
- 話の流れが組み立てられていて、話題が変わる時もスムーズについていけました。（9/13、50代、会社員・自営）
- 疫学はものすごく広い範囲を網羅する益学であると感じました。いくつになっても学び続ける姿勢が大切という風に教えられたようにも思います。（9/13、30代、その他：医療機関職員）
- 動き難くなる病気があるとか、もしかしてと色々な条件が高齢者にはドキッとしました。簡単なチェックの検査日があったら安心かと思いました。千人に一人だとわかりませんね。予防にはどうしたら良いかのアドバイスがあると嬉しいです。（9/17、60代、主婦・主夫）
- わかりづらい時に少し立ち止まって質問を挟んでいただけるのはとてもありがたかったです。（9/17、50代、会社員・自営）
- さらに専門的な内容を伺う機会があればと思いました。（9/22、50代、会社員・自営）
- 自分が専門用語ではないと思っていた言葉は、他の人にとっては専門用語であるということ（9/22、20代、京大以外の大学などの学生）
- 検査キットなど薬機法の高いハードルの外側で実績を示して頂くと、身近に感じられると思います。（9/22、60代、会社員・自営）
- 工学系の研究室内部を初めて見学できて楽しく、説明した学生さんが頑張っている姿も印象的だった。理系の研究が教授だけでなく、多くの学生やスタッフのチームワークで成り立っているのが実感できた。（9/22、60代、会社員・自営）
- 今回は3名も来てくださっているので、笠原先生以外は発言の機会が少なかったのが勿体なかった。時間の制約があるのかもしれませんが。（9/24、30代、会社員・自営）
- 結構高速で聞いたこともない世界の話が展開されたので、オンラインでよかったかも知れない（メモも取っていたけれど、スクショも撮ってたので後から反芻できるから）。（9/27、40代、会社員・自営）
- 中盤でクイズをし、その答えを最後にもってくる構成が戦略上、巧みでした。個人的には早く答えを教えて下さる方が好みですが。最後の方のチラ見せだけしたスライドの内容が目をついたのも、新刊を買わせる戦略でしょうか。（9/29、70歳以上、主婦・主夫）
- もっとコンパクトに、ゆっくり話して頂けると分かりやすいと思います。携帯の着信音が鳴ったとか、テーマから少し外れるコメントがいくつかあったので、戸惑いました。（9/29、50代、会社員・自営）

〈対話（13件）〉

- 研究そのもののアイデアの素晴らしさが印象的で、ファシリテートして下さる方が通訳のような、架け橋のような、そんな感じでした。（9/1、40代、教員・研究教育関連）
- ひとりで勉強することも重要ですが、対話の機会も重要だと思いました。今はコロナでそれが難しいのでオンラインで学生同士の学びのSNSのような何かができないものかと思うところではあります。（9/6、20代、京大以外の大学などの学生）
- 今回は、先生とファシリテータの掛け合いが効いていてよかった。先生のお話を繋ぐ言葉、興味をそその言葉を挟んだり、リスナーの質問を挟んだりが巧みだった。途中、諸事情あり音声だけで聞いていたが、ラジオのように聞けた。（9/13、50代、会社員・自営）



- 先生の超速説明をファシリテーターが「それはつまりこういうことですね？」と翻訳してくださるのがよかった。テンポの緩急が生まれ聞きやすくなった。(9/29、40代、会社員・自営)

〈新しい知見・興味喚起 (38件)〉

- 初めて知る話が多く、興味深かったです。まだ、解明されていないことも多いとお聞きし、不思議は募るばかりでしたが、良い勉強になりました。(9/1、40代、教員・研究教育関連)
- 植物が食べられた虫それぞれに対応したにおい成分を分泌しているという事実にも最も衝撃を受けました。そのメカニズムをより深く知りたいと感じました。(9/1、10代、京大生)
- 生物の柔軟性って、すごい！そして、アイデア次第でとんでもなく良いものができそうです。ブレインストーミングは奇抜なアイデアが出て面白かったです。(9/6、50代、会社員・自営)
- 細胞ごとの活性化について、赤血球や白血球などについては学んだことがありますが、好中球等は初めて聞いたので印象に残りました。内臓や体の部位ごとに特別な働きをする細胞が存在すると思うと、それぞれの部分で先生の使われているEKAREVが活躍したら日本の医学がより発展するのだらうなとワクワクしました。(9/8、30代、教員・研究教育関連)
- 疫学という言葉は知っていましたが、手法も含めて広く深いのだなと思いました。(9/13、50代、教員・研究教育関連)
- 仮説を証明していく実験の組み立て方に知的な刺激を受けた。最後の慰霊碑の紹介もよかった。(9/17、50代、京大以外の大学職員)
- 2つの瞑想とそれを応用した現代の瞑想が、現代人に及ぼす影響などについて、もっと深く知りたくなりました。(9/27、40代、教員・研究教育関連)
- 多様な考え方が、面白かった。この様なことを専門に研究している学者に驚嘆しました(9/29、60代、会社員・自営)
- 対話だけでなく、全体としてゲーム理論に対する興味は高まりました。(9/29、70歳以上、主婦・主夫)

〈研究一般への気づき (18件)〉

- 研究というのは、1つのひらめきや気づきから、本当に深く深く掘り下げ、広く繋がりをたぐっていくものだと感じました。(9/1、40代、教員・研究教育関連)
- まだまだわからないことがたくさん無尽蔵にあって、勉強、研究していくことの大切さ、面白さを感じました。(9/1、40代、主婦・主夫)
- 生物学の分野は、ほかの分野と比べてまだ明らかになっていないと聞いていたが、今日の話聞いて身近な疑問でもまだ説明できるとは限らないという事実が印象に残った。(9/1、10代、京大以外の大学などの学生)
- つくづく研究を深めるとともに、新たな未知の現象・営みが見いだされるなと思います。(9/1、70歳以上、その他：製造民間企業OB、現在小学校で理科支援員)
- 研究における人脈の重要性を感じました。(9/6、20代、京大以外の大学などの学生)
- ディスカッションをしていくことで、研究の方針を決めるということが印象に残った。(9/6、10代、高校生)
- 将来に直結しなくても、だんだんいろいろなことがつながってくる、とおっしゃったこと。本当にその通りだと思いました。(9/6、40代、教員・研究教育関連)
- 研究デザインを構築する際に、自分にとって得意・不得手な研究方法であっても、より役に立つ研究成果を挙げるためには少なからず様々な方法を組み合わせて、挑戦していく姿勢が必要であることを感じました。(9/13、30代、その他：医療機関職員)
- 科学の実験は、やはり楽しそうだ！(9/17、60代、主婦・主夫)
- 実験、研究には途方もない時間と労力が費やされているんだなと思いました。(9/17、40代、教員・研究教育関連)
- 学ぶということは興味を持って楽しくするものだとして再確認できました。ありがとうございました。(9/17、10代、高校生)
- 実験動物に敬意を払う。これは実験動物に限らず、実験・観察の対象に対しての大事な姿勢だと思いました。綿密に考え設計したスマートな実験観察から、得られるものは多いのだと思います。(9/17、50代、教員・研究教育関連)
- 分野は超えた方が面白い！(9/22、10代、高校生)

〈個別の研究内容への理解・印象 (75件)〉

- 匂いは生物の共通言語。(9/1、60代、無職・アルバイト)

- 食害された植物が、近隣の植物ににおいを与えることで食害されていなくても同じ匂いを出す。まるでリレーのように感じました。においをキャッチする昆虫も小さな体で考えると飛距離が遠いところに発信源があるとしてもその周りにじわじわにおいが広がっているんだらうなと思いました。(9/1、50代、教員・研究教育関連)
- こだまの例えが非常に心に残りました。(9/1、60代、京大職員)
- 当たり前のことかもしれませんが、天敵を呼び寄せる原因を探しだすため、様々の仮説を立てて実験していく手法が印象に残りました。(9/1、60代、無職・アルバイト)
- 対話中に、現在研究中である分野と未解決な研究テーマが多いとの印象を受けました。(9/1、70歳以上、公務員・団体職員)
- 人間もイモリ、ヤモリと同じで再生可能だとわかって、長生きできそうかな？楽しそうなお研究だと感じました。(9/6、40代、主婦・主夫)
- 3Dプリンターと細胞団子という技術と生物の掛け合わせも、記事で知り合いの研究を知り、コンタクトを取るという環境の拡張が活きてなされてきたのだと感じた。末梢神経の再生に必要な環境条件は、研究という知的好奇心と探求行動にも影響している(本能?)かもしれないと思う。植物の細胞や昆虫の生態をこうした再生医療に取り込んでみても面白いかもしれないと思う。(9/6、50代、教員・研究教育関連)
- ガン細胞の気持ちなどを知って、それに相応しい治療を考えることが目的であるとか、私の考えた事がないご発言、治せない病気が多いことに驚いたお話が印象的でした。(9/8、60代、主婦・主夫)
- 臨床の世界から離れて基礎部門に入られたのには残念な感じもしますが、躊躇なく決断したのであれば、例えば膵がんや認知症などの早期診断や確実な治療法につながるような画期的な成果を目指していただきたいと思います。(9/8、70歳以上、会社員・自営)
- 今回の蛍光タンパク質を利用して前回のタンパク質プリンターで部品ごとに色分けして、前々回の匂いセンサーの解明に使ったらどうでしょうか？超高感度のバイオセンサーも夢でないかも。(9/8、50代、会社員・自営)
- 今後、「細胞」と「組織」などの概念を正しく考えるもので、すべての事に役立つものであったのではないかと思います。最近はやりのAI技術に頼らない、人手により極める、また、徹底的に研究されているのが素晴らしいと思いました。(9/8、60代、会社員・自営)
- マラリアは怖い病気で、偽薬に関わる人間も恐ろしいと思いました。マラリアが根絶できない理由はいろいろあるようで、根深そうだと思います。(9/13、40代、教員・研究教育関連)
- 「偽薬の出回りが、死亡率を高める」という事実は、フィールドワークで危険覚悟で探究するからこそ、実感する知なのだと思う。また、疫学の語源(人々の表面で起こっている観察、学問)等を知れた事で、人間が病を作っているのかも知れないという気づきがあった。人間と他の生物を社会を通じて、観察してみる面白さを再発見出来た。(9/13、50代、教員・研究教育関連)
- 感染症対策に疫学が重要であることがよくわかった。また現在、新型コロナウイルスワクチン接種が進んでいるが、外国で製造されたものであり日本人の体質にあっているどうかの確認段階は飛ばしていること、長期的な(悪)影響はどのようなものがあるかはこれから研究されていくものであること、といったコメントが印象的でした。(9/13、10代、中学生)
- 疾患を発症してからの治療のみならず、予防的介入ができるという意味で、どういった経過をたどって病期・病態が変化していくのかをモデルによって明確に把握できることが最大の意義だと感じました。動物モデルで得られた結果が、ヒトと同じ経過ではなかったとしても、統計的データの分析によって多くの事柄が予測でき、次の仮説の立案・具体的な展開につながっているのだと教えていただきました。(9/17、30代、その他：医療機関職員)
- 求めているデータを大量に得るのはなかなか難しいですね。(9/24、10代、中学生)
- ミャンマーの文化、仏教の根底にある美德について思いを巡らせるきっかけをいただきました。その目で今のミャンマーの情勢を見ることができるといのは大切なことだと思います。(9/27、50代、会社員・自営)
- 地域ごとに様々な宗派のある仏教ですが、特にミャンマーという一点にしぼって研究することで得られる気づきがあるということを知りました。(9/27、10代、中学生)
- 瞑想を極めると粒子が見えるとの先生の師匠の言葉。謎ですが、体験できるのであればその域に達してみたいと思いました。(9/27、50代、その他)
- 夜店としての研究という表現は面白かった。(9/29、60代、主婦・主夫)
- あまり政治などを知らない私からすると国交省や経産省はあまり露出がないというか聞かなかったので、必ずしも目によく入る名前が大切ではないのかなと感じました。(9/29、10代、高校生)
- そもそもゲーム理論における分析は「生々しいところから一歩引いた支店・立ち位置で状況に通底するルールを見極める」事が必要だとのこと。先生のように別のジャンルが本職の方の放課後活動で政治分析を行っておられると云うことは理にかなっている気がする。(9/29、40代、会社員・自営)
- データ化によるモデル化で、そのすき間から零れ落ちる社会科学の対象が気になりました。(9/29、60代、その他)



〈研究者に関すること（36件）〉

- わからないことはわからないと言えるのが研究者のあるべき姿だなあと感服した。（9/1、10代、京大生）
- 研究者＝遠背的という印象があったりもしますが、多くの研究職の方々のおかげで、この世界はさらに魅力的で面白く、生きる価値が上がるのだと思います。（9/1、40代、教員・研究教育関連）
- 講師の先生は、淡々と落ちていて、ストーリーとエビエンスをもってお話しいただく姿勢に好感をもった。（9/1、50代、京大以外の大学職員）
- 常に先のことを考えながら研究に取り組まれていることを実感しました。（9/6、50代、京大職員）
- 先端の研究者ほど柔軟で、どんな意見も頭から否定せずに受け止める姿勢をもっていらっしゃるのだなとあらためて感じました。（9/6、50代、会社員・自営）
- 大学で学んでからさらに進路を変えて今の研究をなさっていることを知れてよかった。（9/8、10代、高校生）
- 平塚先生の明るさがとても素敵でした。最初に発見されたときの気持ちなど、研究の楽しさが伝わってきました。（9/8、50代、教員・研究教育関連）
- 先生の「病気って治らないもんなんだな」というお言葉が印象的でした。そこから顕微鏡に向かい、顕微鏡の力を最大限に使って医学研究をされる姿はロマンチックでありながら力強さを感じました。（9/8、60代、その他：自由業）
- 研究者が知りたいことをがむしゃらに突き詰めていっているのかと思っているが、そればかりではなく、頑張っ手にしたスキルが、必要とされてそれが新たな方向が見えてくるとかという、相互関係で研究が進むことがあるんだなと思いました。（9/8、60代、会社員・自営）
- 意外に先生たちのトークがテンポよくて楽しくてあっという間に時間が過ぎました。きっと仲いいんだろうな、と感じた一時間でした。（9/17、40代、会社員・自営）
- サラッと紹介していましたが、研究することの大変さ、何を調べていけばいいのかとアイデアを絞り出すこと、そして動物への敬意を払う気持ち、どれも素晴らしく一流なんだなと思いました。（9/17、30代、教員・研究教育関連）
- 先生自身も学び続けておられること、好奇心を持っておられる様子。（9/22、30代、京大職員）
- 研究者といっても多様なキャリアパスや研究内容があるのだなと思った。（9/24、30代、会社員・自営）
- いい意味で、いろんな人生があるな、と感じた。（9/27、50代、京大以外の大学職員）
- 研究者側の応答スキルが問われる方法で、今回の川本先生は相当に好印象だったけれど、回（研究者）によってはつらいことになるかもしれないと感じた。しかしこれからは、研究者の発信力がこれまで以上に必要とされる時代なのかもしれない。（9/27、50代、京大以外の大学などの教員・研究者）
- 出家体験がそうさせているのか、もともとなのか、川本先生の澄んだ笑顔がとても印象的でした。（9/27、40代、教員・研究教育関連）
- 研究者の人生が個性的過ぎて、瞑想が霞んでしまいました。面白かったです。（9/27、10代、中学生）
- 研究者の方のとても熱意ある取り組みが感じられました。（9/27、50代、教員・研究教育関連）

〈ファシリテーター・進行に関すること（22件）〉

- ファシリテーターは視聴者に代わって、素人が感じるような疑問を研究者にぶつけてくれ、話の掘り下げが多様になり、よかったです。（70歳以上、教員・研究教育関連）
- ファシリテーターの方が、ところどころまとめてくださって、さらにわかりやすくなりました。（9/1、60代、教員・研究教育関連）
- ファシリテーターの方が非常に楽しそうに興味深そうにされていて、知識を得るといことは楽しいことなんだと改めて思いました。（40代、公務員・団体職員）
- 大学の教授がお話されるということで、難しく堅い話かな、と予想していましたが、ファシリテーターの方が質問を拾ってくださったり、噛み砕いて言い換えてくださったりして頂いたので、理解を深めることができたかなと思います。（20代、京大以外の大学などの学生）

〈開催形式（7件）〉

- 研究内容についてはさほど詳しくないけれどZOOM操作に慣れたファシリテーターさんが加わることで、初めて聞く話が多い視聴者にも分かりやすく、さっとアンケートを提案したりされていて、よりわかりやすい配信になっていたと思います。（9/1、30代、教員・研究教育関連）
- 投票機能があると参加している感覚が強まるので楽しかったです。（9/1、40代、京大職員）
- 画面の下にチャットの文字情報が入ると、天ぷらそば食べてる時にわんこそばがドンドン差し出されるよう感じで、消化しきれません。どれもおいしいとは思いますが、処理能力が高くないので、表示の有無を選択できるようにして下さると助かります。（9/1、70歳以上、主婦・主夫）
- ファシリテーターのいる講座は楽しいがその分、1時間では少なく、案内で終わってしまい残念。（9/8、60代、主婦・主夫）

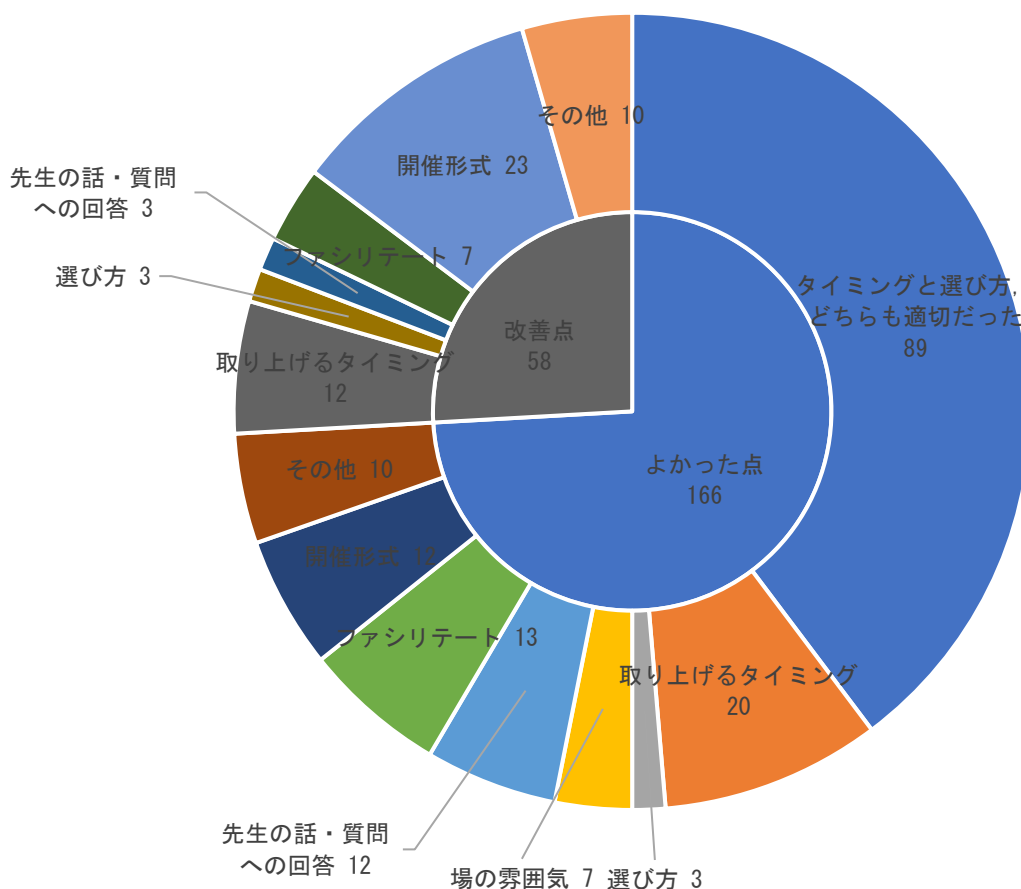
〈テクニカルなこと（1件）〉

- 先生の声がくぐもっていたことだけが難でした。（9/1、60代、教員・研究教育関連）

〈その他（11件）〉

- まだまだわかっていないことがたくさんあって、後日談が気になるのでそれをどこかで発信してもらえたら楽しいだろうなと思いました。（9/1、20代、京大職員）
- 自分が没頭できるものを見つけたいと思えた。（9/1、10代、中学生）

- イベント中のQ&A機能での質問への回答について、取り上げるタイミング、取り上げる質問の選び方は適切でしたか？良かった点、改善すべき点など感じられたことを教えてください。



(単位：件)

※ よかった点への無回答 369 名、並びに改善点への無回答 443 名は上記図より除外。

・主な意見

※ イベント全体を通じて類似意見が多数寄せられたため、代表的なコメントについて日付を除外して記載
 〈取り上げるタイミング・選び方どちらも適切だった（89件）〉

- 全ての質問を上手く纏める等して拾われていて、効率的且つ、適切な拾い方をされていると感じました。（10代、高校生）
- 関係ある内容のときに質問を取り上げてくださってありがたかったです。よく最後にまとめてということがありますが、講義前半に関わる質問だと文脈や意図がわからなくなってしまうことがあって困ることがしばしばなので。（60代、その他：自由業）
- 適切だったと思います。私自身は見ながら聞きながら書くところが非常に苦手で、学生の時もノートが取れない人でしたので、人の質問に乗っかっていろいろ聞けて良かったです。（60代、会社員・自営）

〈取り上げるタイミング（32件）〉

良かった点（20件）

- 途中のはさみ方は適切であったと感じます。あらかじめ先生の講義を50分にして、10分で他の質問回答という道もあったとは思いますが、1時間なので、やむをえないのではないのでしょうか。（50代、京大以外の大学職員）
- 最後にまとめて質問を取り上げるのではなく、関連する話題の最中に随時取り上げられていたので、より一層内容の理解が深まった想いを受けました。（60代、無職・アルバイト）
- よかった。先生のスピードを断ち切るの大変だったと思いますが、果敢に攻めて行かれている感じもまたよかった。（40代、会社員・自営）

改善点（12件）

- 講義の最初に質問を取り上げないほうが良い気はします。後からの説明が出る可能性もあるので。終盤に質問タイムを作ったほうが良かったかもしれません。（50代、京大以外の大学などの学生）
- 丁寧に質問をはさんでくださったので、いいかんに疑問が解決されたが、先生が飛ばされた話題で聞きたい！と思うものがあつたので、そこは残念だった。（40代、その他：主婦＋小学生）
- もっとたくさん質問を取り上げた方が、参加している感が増して、講義に入り込めます。（10代、高校生）

〈選び方（6件）〉

良かった点（3件）

- 皆が気になる内容を的確に質問されていて良かったです！（9/29、10代、高校生）

改善点（3件）

- たくさんの質問を取り上げるより、司会の方が本質的な内容と判断したものを取り上げて、先生にしっかり答えてもらった方が、多くの参加者が納得すると思います。（9/1、50代、会社員・自営）
- 質問内容が視聴者に共有されていないので、やや不便だった（9/6、60代、主婦・主夫）
- 質問が話の流れを変えてしまうことがあつたように思った。ある程度話が区切れたところで、それに関連する質問を入れてほしい。ちょっと横にそれそうな質問は、最後に5分くらい時間を取ってまとめてほしい。（9/17、60代、無職・アルバイト）

〈場の雰囲気（7件）〉

良かった点（7件）

- 非常に良かったです。オンラインにおいて、あれだけ活発な意見の交流ができたのは初めてだったので、参考になりました。（9/6、10代、高校生）
- 終始落ち着きのある、しかし明るくて好感もてる自然な雰囲気で対話が進んでいました。（9/17、50代、会社員・自営）
- 短い時間で、堅苦しくなく楽しい感じで進行してくださり、とても良かったです！（9/22、50代、教員・研究教育関連）

〈先生の話・質問への回答（15件）〉

良かった点（12件）

- 私が送ったものはほとんど答えてくださって、対面で参加しているみたいに講義に深く入り込めてとても良かったです。質問もしやすい環境でした。（9/13、10代、高校生）
- 頻りに質問を取り上げてもらったおかげで、一体感がありました。（9/13、50代、会社員・自営）
- 予想していたよりずっと取り上げてくださったので、対話型の企画だということを再認識しました。（9/22、30代、会社員・自営）

改善点（3件）

- 研究者サイドが面白いと感じる視点と視聴者が面白いと感じる視点が、チャットなどを見ていると、若干のズレがあると感じました（9/8、60代、会社員・自営）
- 内容が多かったので、質問はさらにとだけ答えたイメージがありました。話の合間でリアルタイムで質問に答えていただくのは難しいなとも思いました。（9/8、50代、会社員・自営）

〈ファシリテート（20件）〉

良かった点（13件）

- 質問が多発していたことに対して「回答できなかった分は後日webで！」との案内があつたのはよかった（40代、会社員・自営）
- 先生のお話を尊重しているように感じました（50代、会社員・自営）

改善点 (7件)

- 質問が取り上げられましたが、それに対する答えに対し、さらにつっこんだ質問ができると理想的だと思いました。リスナーの範囲の限界だと思います。(9/6、50代、京大以外の大学などの教員・研究者)
- ファシリテーターの方が先生の話を守る・中断する場面が多かったのが気になりました。

〈開催形式 (35件)〉

良かった点 (12件)

- 本体のトークとの連動があまり無かったが、チャットはチャットで面白かった。(60代、会社員・自営)
- Q&A は初めてでした。一方通行にならず、こちらも参加出来て嬉しい。割合もすぐ表示されるので面白い。(50代、主婦・主夫)
- Q&A 機能があったため、小学校低学年の子どもも、いつ出題されるか集中して参加することができました。(10歳未満)
- QA やチャットで気軽に質問出来たのがよかった。(9/1、20代、京大以外の大学などの学生)
- オンラインのホワイトボードで、付箋を使い、意見やアイデア、質問を可視化して共有することで、意見を出しやすくなった。また、議論の位置がわかり、前回より参加しやすくなった。(50代、教員・研究教育関連)

改善点 (23件)

- オンラインでの開催で講座が1時間では内容が収まりきれないので、スライド等の資料は、例えば参加者に共有する(可能であれば)、Q&A は書き込みだけでなく、用語質問以外は挙手機能を適宜活用する等を検討してもいいのではないかと。(9/13、50代、教員・研究教育関連)
- 最初に全体の目次など、全体の流れがあると素敵だなと思いました。(9/13、20代、無職・アルバイト)
- Q&A とチャットの使い分け方については明確でなかった気がします。(9/29、60代、会社員・自営)
- 匿名だったので他の人がどんなことに疑問を感じているのか少し気になりました。(9/1、20代、京大職員)
- 質問への回答は本当に必要なのかなと思いました。リスナーの反応を見るのはよいのですがこちらが回答している時間分講義が聞けないので残念でした。(9/8、50代、京大以外の大学などの学生)
- 専門用語の質問は、例えばホワイトボード機能等で表示される等を行い、もっと先生と参加者が内容で対話出来るものを取り上げられる時間を作るといいと思う。(9/13、50代、教員・研究教育関連)
- 予め課題があるタイプのイベントも面白いかと思った(9/24、60代、主婦・主夫)

〈その他 (20件)〉

良かった点 (10件)

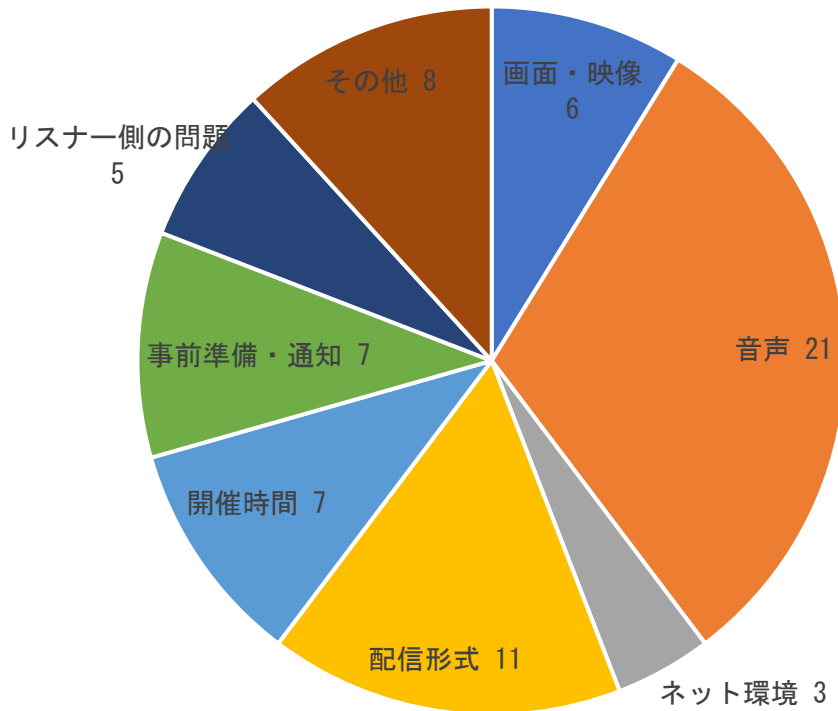
- 私は質問できませんでしたが、皆さんの質問の切り口の鋭さに感激してました。(9/1、30代、教員・研究教育関連)
- 参加型は初めてでしたので、ちょっとした緊張感があって良かったです。(9/6、40代、会社員・自営)
- 質問が出ると、子どもたちが喜んで考え、答えを集中して聞くので、とても良かったです。(9/8、10歳未満、小学生)

改善点 (10件)

- 1時間では、短く感じます。オンラインの場合、あと30分あるとうれしいです。先生方のご負担になると心苦しいですが。(9/13、40代、教員・研究教育関連)
- 頻繁に開催して欲しい(9/29、60代、会社員・自営)

[ここからは、対話参加者・オンラインでも膝詰め対話リスナーへの事後アンケート合算]

- 今回の Zoom でのオンライン開催で不便に感じられたこと、困ったことがあれば教えてください。



(単位：件)

※ 特に問題がなかったと回答した 111 名、並びに無回答の 363 名については上記の図より除外。

・主な意見

〈画面・映像 (6 件)〉

- 画像が若干暗い印象がありました (9/8、60 代、会社員・自営)
- チャットの吹き出しが共有画面の邪魔になったことがありました。 (9/29、60 代、会社員・自営)

〈音声 (21 件)〉

- 先生のお声がかぐもってました。 (9/1、60 代、教員・研究教育関係)
- もう少し声が聞きやすくなるよう音質を良くすると思いました。ちなみに RODE 社のワイヤレスマイクの wireless go2 あたりはすごくおすすめです。 (9/8、30 代、京大以外の大学などの教員・研究者)
- 時々、メールのアラート音が聞こえた気がします。イヤホンマイクを使った方が良いのではないのでしょうか。 (9/13、60 代、会社員・自営)
- 冒頭背景 BGM の音量で、説明が聞きづらかったです。 (9/22、30 代、京大職員)

〈ネット環境 (3 件)〉

- 研究室を移動すると、電波状態の悪いところがあるようで、その時に、画面が乱れます。 (9/8、60 代、無職・アルバイト)

〈配信形式 (11 件)〉

- チャットより本当は声で質問したほうが早いのですが不特定多数が参加するときは会場と違って個人が特定されるのでやめておいた方が良いのかもとも思いました。対面型と違って Zoom は便利ですが個人情報に参加者同士が適切に取り扱うかなど問題も多くてある程度の匿名性が必要なのかもしれません (9/1、50 代、京大以外の大学などの学生)

- 専門用語等の質問があった時、進行や時間配分の関係で割愛するよりも、チャットに返信する等のフォローがあるといいと感じた。(9/1、50代、教員・研究教育関連)
- 出向かなくて済むのは楽ですが対面での雰囲気を感じることがないのでそれが残念でした。(9/8、50代、京大以外の大学などの学生)

〈開催時間 (7件)〉

- 盛り上がっていたら、終了時間も過ぎても大丈夫かな、とも思いました。(9/27、50代、教員・研究教育関連)

〈事前準備・通知 (7件)〉

- スマートフォンのメールアドレスで申込みをして、画面サイズの大きいPCで視聴しようと思っていたのですが、ミーティングパスコードの通知を受けていないため、アクセスできなかったのが残念でした。(9/1、60代、無職・アルバイト)
- リスナー参加者はビデオ画面・オーディオはオフだろうとは思いましたが、あらかじめ画面に映ることはないと明示されていたら安心です。(9/8、50代、無職・アルバイト)
- チャット欄を解放したのは良いことだと思ったが、時々講演内容と関係のないコメントも見受けられたのであらかじめ注意喚起があればよかったのではないかと思った。(9/1、10代、京大以外の大学などの学生)
- もう少し早めに入れて待機できたら心の準備ができてよかったかとも思いました。(9/29、20代、京大職員)
- 資料をダウンロード出来ると良かった。公演中だけでも、資料を自由に見る事が出来れば講義の理解度が深まります。(9/29、60代、会社員・自営)
- 盛り上がっていたら、終了時間も過ぎても大丈夫かな、とも思いました。(9/27、50代、教員・研究教育関連)

〈リスナー側の課題 (5件)〉

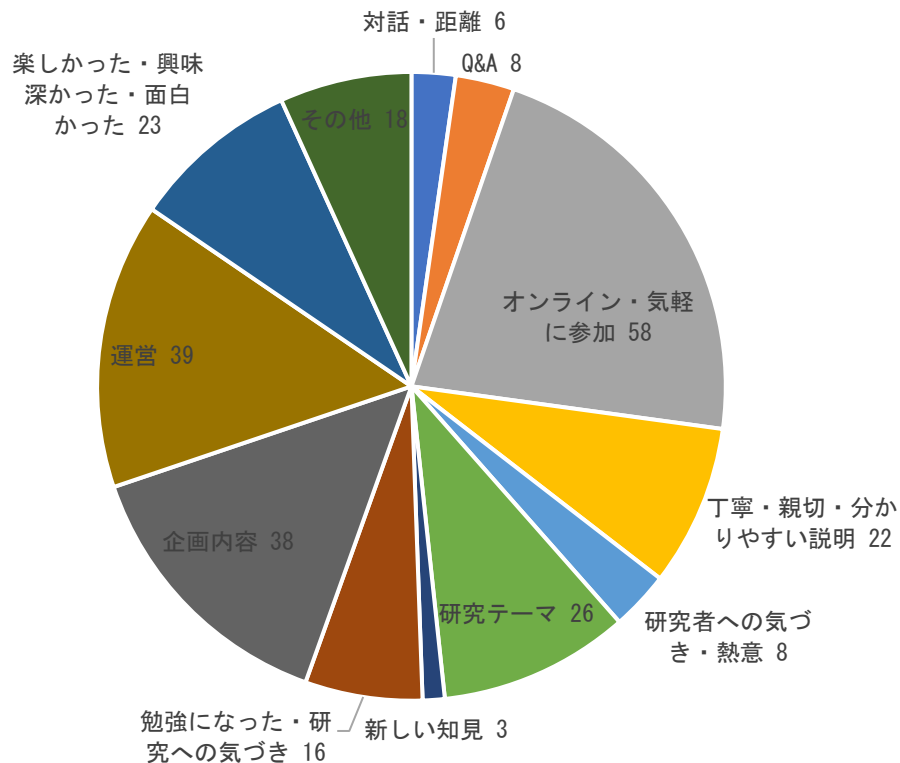
- 最初、音声が聞こえなくて焦りました。スマートフォンの使い方に慣れていないので、適当に操作していたら、音が出ました。(9/27、50代、無職・アルバイト)

〈その他 (8件)〉

- 途中、少しだけスライドの進行が速く見る前に変わってしまうことがありましたが、その後戻していただけたので良かったです。(9/27、60代、会社員・自営)
- スケジュール表を見失ってしまい、タイトルから興味ある内容と思いながらも、仕事をしていたために参加できなかった回が複数できてしまいました。(9/29、60代、会社員・自営)

● アカデミックデイズ 2021 のよかった点、改善点について教えてください。

〈よかった点〉
・全体



(単位：件)

・主な意見

〈対話・距離 (6 件)〉

- オンラインでも投票や Q&A など双方向的な対話がなされる工夫がされていた。(9/6、60 代、京大以外の大学などの学生)
- 双方向になるように意識していたこと (9/6、40 代、会社員・自営)
- チャットへの自由な書き込みがリスナー同士の対話の場になっていた。(9/29、50 代、会社員・自営)

〈Q&A (8 件)〉

- 文字通りアカデミックな質問がチャットに並び、ほお〜でした (9/1、40 代、教員・研究教育関連)

〈オンライン・気軽に参加 (58 件)〉

- 京大は遠くて、大学に入るのもちょっと躊躇するので、オンラインで聞けたこと。参加しやすくて良かったです。(9/17、50 代、会社員・自営)
- 応募の方法も、F&Q の使い方も、全体的に参加しやすかった。(9/27、50 代、京大以外の大学などの教員・研究者)
- 仕事後に自宅で、育児しながら聴けたこと。(9/13、40 代、京大以外の大学職員)
- オンライン開催だったので、リラックスして受講出来た点。(9/22、10 代、京大以外の大学などの学生)

〈丁寧・親切・分かりやすい説明 (22 件)〉

- 一般人にも分かりやすい説明だったので対象分野について、もっと知りたいとの興味を持つことができました。(9/1、60 代、無職・アルバイト)

〈研究者への気づき・熱意 (8 件)〉

- 科学の楽しさと、先生方のお人柄のよさが伝わってきました。(9/17、60 代、京大以外の大学職員)
- 単なる視聴者目線ではなく、研究者の生の言葉から色々なことを感じる事ができた。(9/17、50 代、主婦・主夫)
- 多彩な才能を身近に感じたこと。(9/29、50 代、会社員・自営)

〈研究テーマ (26 件)〉

- テーマが、役に立つ志向でない基礎研究にスポットを当てていることが非常に良かった。今すぐに役に立つものは、すぐに代替されていくので、純粋な興味に好奇心をそえられるテーマを出すことが非常に良いと感じた。(9/1、

50代、教員・研究教育関連)

- 回によって趣向が違うのがいいですね。(9/8、50代、会社員・自営)
- とりあげるテーマが幅広い(9/24、60代、会社員・自営)

〈新しい知見(3件)〉

- 普段接しない研究内容が視聴でき世界が広がる。(9/1、60代、無職・アルバイト)

〈勉強になった・研究への気づき(16件)〉

- 大学でどのような研究が行われているのか知ることができる。(9/6、10代、京大生)
- 研究が持つワクワク感を体験することができる点。(9/6、10代、京大生)
- 研究内容に親しみが持てて良かったです。(9/8、30代、主婦・主夫)
- サイエンスカフェのように研究者と市井の人をつなぐ場であり、大変ためになりました。(9/27、70歳以上、会社員・自営)
- 自分からは知りたと思わなかった事を教えていただいて、物事を見たり考えたりする視点が広がりました。(9/27、50代、無職・アルバイト)

〈企画内容(38件)〉

- リアリティ。テレビの生放送よりも生々しい。(9/8、30代、公務員・団体職員)
- 直接参加ではできない研究室見学ができた。(9/8、30代、教員・研究教育関連)
- 単なる研究内容だけでなく、研究者や教職員の皆さんの体験記を取り上げていただいた点(9/27、70歳以上、会社員・自営)
- 研究者と素人との交流という点でとても良い企画でした。素人からも楽しめる形になっているのが良かったです。(9/29、30代、京大以外の大学などの教員・研究者)

〈運営(39件)〉

- 第二部の対話セッションが非公開で良かったです。一般公開だとかななかのプレッシャーになりそうで、素人参加者にはきついものがあると思います。(9/27、30代、京大職員)
- 次回も見たいと思わせてくれた。(9/6、50代、無職・アルバイト)
- さまざまなテーマで週に1~2回視聴できるのが素晴らしい。(9/13、50代、会社員・自営)
- 時間ぴったりの進行が素晴らしいです。(9/13、50代、教員・研究教育関連)
- 10年間の裏側企画を聞いたこともあり、親しみを受けた。(9/17、50代、京大以外の大学職員)
- 1時間半や2時間ではなく1時間という設定が気軽な参加に繋がると思います。(9/27、20代、京大職員)
- 無料でこのような新しい研究について聞ける機会を提供してくださった。(9/29、50代、会社員・自営)

〈楽しかった・興味深かった・面白かった(23件)〉

- 自分の予想を遥かに超える意外な事実を学ぶことができる点です。また、研究の面白みを感じることができる点です。(9/1、10代、京大生)
- 取り上げる研究が基礎研究的なものが多く、未知の面白さがある。知的好奇心がそられる内容とリスナーの素人意見を面白がってくれる知性を感じられる点も、良かった。(9/6、50代、教員・研究教育関連)
- 学生でもないのに京大の先生のお話が聞けたこと。前知識がなくても十分理解でき、贅沢な時間でした。(9/22、40代、京大以外の大学などの教員・研究者)

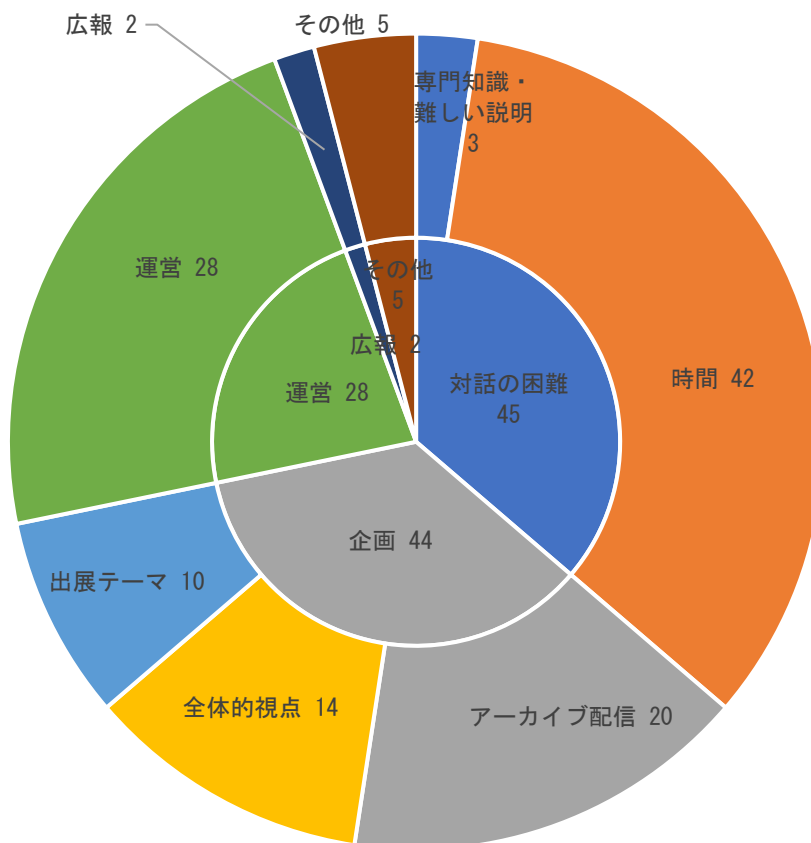
〈その他(18件)〉

- こういった世の中の中こういった機会を与えて下さったことが嬉しかったです。(9/1、10代、高校生)
- 初参加でした。次回も必ず。(9/29、60代、会社員・自営)



〈改善点〉
・全体

(単位：件)



・主な意見

〈対話に関して困難を感じたこと：専門知識・詳しい説明（2件）〉

- わからない専門用語は、講座内で補足があるとより良い。(9/1、50代、教員・研究教育関連)
- 難しいところを省くのではなく、平易な言葉で解説できるとよいのでは。(9/8、60代、会社員・自営)

〈対話に関して困難を感じたこと：時間（42件）〉

- 時間がもう少しとれるのであれば、話に出てきた現象が起こる理由をもう少しだけ踏み込んで厳説明してもらいたかった。(9/1、10代、京大以外の大学などの学生)
- 1時間はあっという間でした。もう少しお話を聞きたかったです。(9/1、60代、京大以外の大学職員)
- 1時間だと、短く感じられる。しかし、この時間帯だとこの長さでしか、参加しにくい。(9/6、50代、教員・研究教育関連)
- 19:00からは、仕事帰りには少し早い気がしました。(9/29、50代、会社員・自営)

〈企画に関するもの：アーカイブ配信（20件）〉

- 質問の回答がLIVE中になかったものについては後日でもいいので回答が欲しいです。(50代、会社員・自営)
- 配信ならば、ZOOMでのリアルタイム配信だけではなく、ZOOMを使った配信をそのままYouTubeで流して、数日でもいいのでアーカイブ視聴も可能にいただけたら、日時の都合がつかない場合も見られて嬉しいです。(30代、教員・研究教育関連)
- 平日の19時からというのが、仕事と育児をしている私にとってはすごく難しい時間で、なかなか全部ちゃんと受講できなかったことがとても残念です。録画視聴を一定期間できるようにするなどしてもらえると嬉しいです。(30代、会社員・自営)
- 可能であれば、講演の資料などももらえるとうれしい。再勉強ができる。他の資料の紹介でもいいが。(9/1、60代、無職・アルバイト)

〈企画に関するもの：全体的視点（14件）〉

- 単なるアンケートでなくもう少し突っ込める質問で Zoom 機能を使ってほしかったです。（9/1、60代、京大以外の大学などの学生）
- リアルタイムでの音声でのQ&Aがあると良い。（9/1、60代、会社員・自営）
- もう少し専門的な話を聞きたかったです。リスナーが誰でもだと難しい話ではできなくなるのかもと思いました。（9/8、50代、京大以外の大学などの学生）
- 登壇した研究者にとって、どんな体験だったかを、どのように評価されているか、関心があります。（9/13、40代、公務員・団体職員）

〈企画に関するもの：出展テーマ（10件）〉

- テーマが難しそうなのが多いように感じて、植物と虫のコミュニケーションのものしか興味が湧かなかった。（9/1、10代、中学生）
- 文系のテーマとか情報系、医学系のテーマもほしいです。（9/1、60代、無職・アルバイト）
- 各テーマがタイトルだけを見るとなんとなくとりとめなくつかみにくい、つまらなそうに感じる / マニアックな気がする。一般向けにもうちょっと具体的なテーマがほしい。（9/8、50代、無職・アルバイト）

〈運営に関すること（28件）〉

- チャットやQAの使い方がわからない。参加しにくい。（30代、公務員・団体職員）
- 申し込み、事後アンケートで聞かれること多し。（60代、主婦・主夫）
- 幅広い世代の参加なので仕方ないですが、チャット機能は気が散りました。（50代、会社員・自営）
- 開始が20時だと落ち着いて観られます。（60代、その他：自由業）

〈広報に関すること（5件）〉

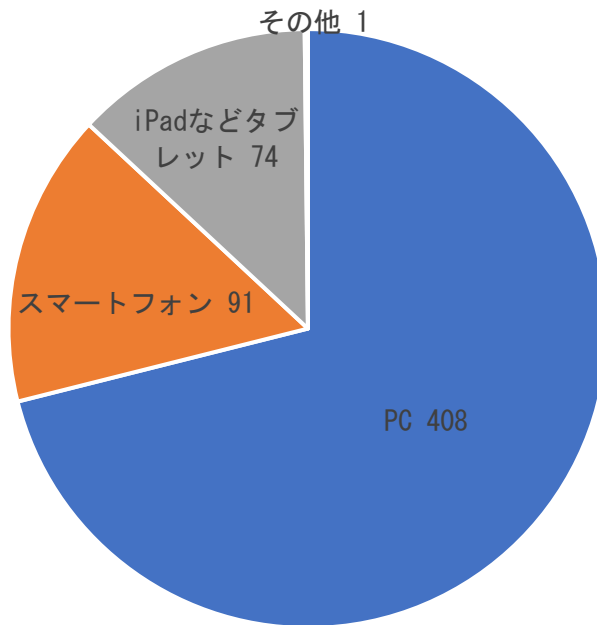
- たまたま見つけたので参加できたので、もう少し広範な広報をお願いします。（40代、会社員・自営）

〈その他（28件）〉

- 先生方の男女比が、半々位になるといいと思います。（9/22、40代、教員・研究教育関連）

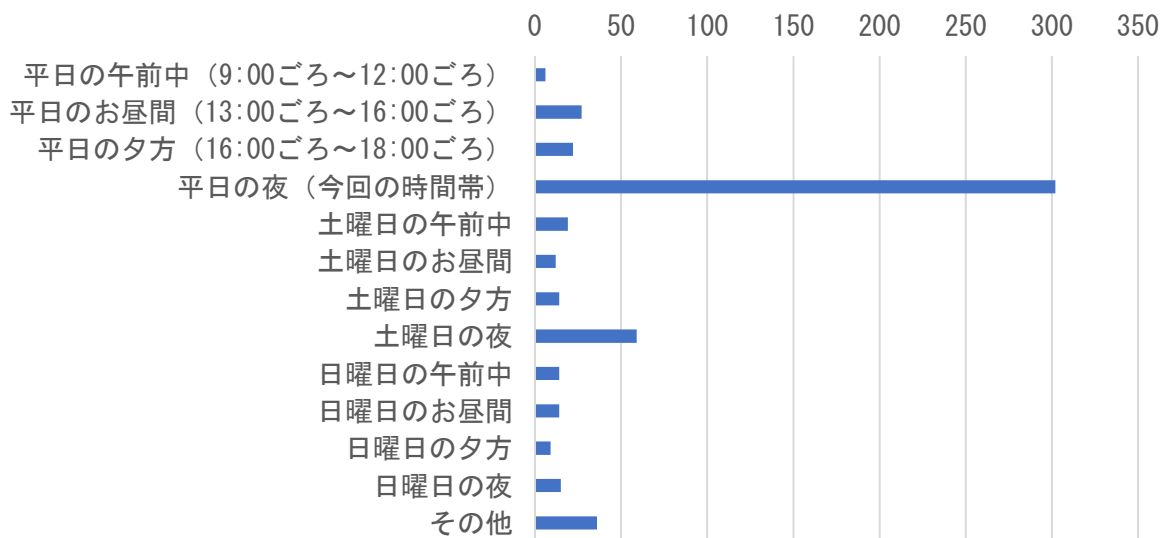
[ここからは、対話参加者・全てのリスナーへの事後アンケート合算]

- どのデバイスで参加されましたか？



(単位：人)

- オンラインでのアカデミックデイに参加しやすい曜日や時間帯を教えてください。(複数回答可能)



(単位：人)

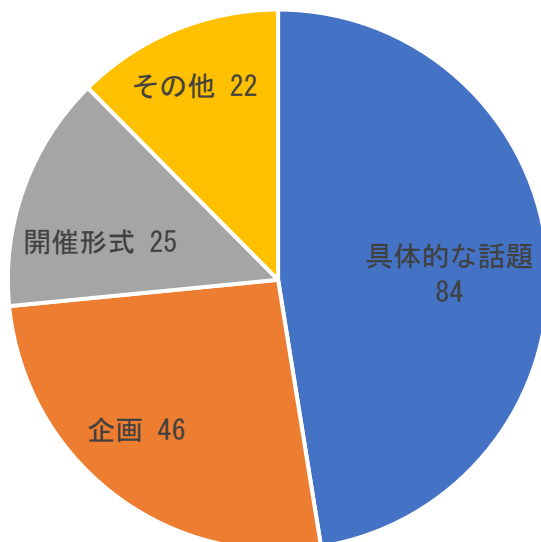
※ 無回答の108名については、上記の表からは除外。

・主な意見 (その他を選ばれた方)

- 土曜日はいろいろなところで集中して面白いイベントをやるので、この時間帯を避けてくれたのはとてもよかった。ただ、夕食時だったのがちょっと不便。六時位のほうがよかった。(50代、会社員・自営)
- 晩御飯を食べた後 (20時～) であればより有難かった。(20代、公務員・団体職員)
- 夜のこの時間は仕事で帰るのも難しくまた帰れても子供の食事の用意など忙しい。1番ゆっくり視聴しにくい時間帯です。(40代、会社員・自営)
- 私は68歳ですのでいつでも結構です。学生さんの都合の良い時間帯にして差し上げてください。日本中の学生さ

んが参加できると良いかと思いました。(60代、主婦・主夫)

- 月金以外の平日 19 時(40代、会社員・自営)
- 高校生の私は学校があるので休日の午後や平日の今回のような時間が参加しやすいです。(10代、高校生)
- オンラインでのアカデミックデイについて「こんなことをしてほしい」企画のアイデアや、要望などありましたら、教えてください。



(単位：件)

※ 無回答の 447 名については、上記の図からは除外。

・主な意見

〈具体的な話題 (84 件) 〉

- 特に分野は特定しないが、最新技術・研究の講演など多くの機会を希望します。(9/1、60代、無職・アルバイト)
- 研究の着眼点など初期の関心とその分析手順の計画立案の苦労なども知りたいテーマ(9/1、60代、主婦・主夫)
- 今日のお話の続きが気になります。(9/1、50代、京大以外の大学などの学生)
- 恐竜、古生物、深海生物など、子どもと一緒に聴講できるような内容も取り上げてほしい(9/1、30代、教員・研究教育関連)
- 個人的な専門領域から来る要望ですが、小児科学関連のお話が来たら喜んで受講させていただきます。医療系が多いと嬉しいですが、自分の専門以外も教養になるのでありがたいです。(9/6、20代、京大以外の大学などの学生)
- 数学と美学の関係を読み解く、情緒と数式との関係など。(9/6、50代、教員・研究教育関連)
- 「なぜ、人間は無駄な行動をするのか？」を様々な学問から、解明をする試み。(9/6、50代、教員・研究教育関連)
- 人文・社会科学系がどう社会に役立っているか(9/6、50代、京大以外の大学職員)
- どの分野でも結構ですが、現地調査をした方の報告を聞きたいです。(9/13、70歳以上、無職・アルバイト)
- 研究室の成果が社会実装された具体例でオープンにしているエピソードを伺いたい。(9/13、60代、その他：メディア)
- 先生方の学生時代を含め、その研究をしようと思ったきっかけなど知りたいです。(9/13、10歳未満、小学生)
- イグノーベル賞候補になる京大の研究から、未来の研究を取り上げる。(9/13、50代、教員・研究教育関連)
- 遠方ですし、直接大学に行くのは敷居が高いので、京大で普段取り組まれている研究について分かりやすく説明頂けたら嬉しいです。(9/17、50代、会社員・自営)
- 科学技術の急速な進展を、これまでの歴史的ではあるが古い体質の学問体系の中に取り込んだ事例(9/22、60代、会社員・自営)
- IR(カジノ) ビジネス、環境ビジネス、など最近の話題のビジネス関連を新しい視点で解説していただきたい。(9/29、50代、会社員・自営)
- 自然科学全般(9/29、60代、会社員・自営)



- ①時事解説レクチャー。②各国出身の先生による世界のお国事情紹介(例えば先祖供養をするか、タブーは何か等)&お国自慢。③先生方の日々取り入れている健康法紹介。④人生の宝物(宝物のような経験とか)紹介。⑤事前に視聴者に問いを投げかけて対話。⑥先生方の夢、理想の未来を語るコーナー。(9/29、70歳以上、主婦・主夫)

〈企画(48件)〉

- 京都をジャックして…の話もありましたが、外に出たり、他大学との連携とかできたらおもしろそうです。(座談会、40代、教員・研究教育関連)
- 異分野の研究者対談。違った視点で研究やものごとをみることができそう。また、意外に根底でつながっている部分もあるのではないかと思います。(9/1、40代、教員・研究教育関連)
- 時計台の2階で行われていたときのような、あるいは学会のポスター発表のような状態に近づけるために、何十回かの多数のブレイクアウトルームにわかれ、各先生の部屋に自由に出入りできるような形式が実現できたら嬉しいです。(9/6、50代、京大以外の大学などの教員・研究者)
- 本の読み方。文学者の方のオススメの本(9/6、40代、公務員・団体職員)
- 大学の博物館や水族館などの展示が解説付きで見たい。(9/8、40代、会社員・自営)
- 今回のように実際の研究室を見せていただくのはとても面白かったです。(9/8、30代、教員・研究教育関連)
- 同じ先生が同じテーマで複数回担当して下さると、さらに濃い話が聞けそうで、ワクワクします。(9/8、60代、その他：自由業)
- ミニ実験の中継など、発表ではなく、普段されていることそのものを見てみたいです。(9/17、10代、高校生)
- 間を端折らない実験を、研究者の方と一緒に体験してみたいと思いました。例えば、「ごく短いお話→実験スタート→メインのお話→実験結果」といった流れで。もちろん、ライブでは失敗もあり得なくはないわけで、そんなときは「ありゃりゃ、何でかなあ。今日は失敗や」もあってよしということ。うまく結果が出るかなと待つことや、時には失敗することも、研究の一部だと思いますので、それが体験できればと思いました。(9/17、60代、京大以外の大学職員)
- アカデミックデイはターゲットが中高生などの若い層かと思いますが、シニアなどの生涯学習、またはミドル世代で人生に迷っている人たち、海外でよくみられるように再度大学で勉強をしようと考えている人たちのターゲットとした催しがあるとうれしいです。(9/22、30代、公務員・団体職員)

〈開催形式(24件)〉

イベント時間・日程

- 定常化が無理でも1年に1度と言わず、何度かやって欲しい。さまざまな分野のたくさんの研究が紹介されるようになると、何かが起こる予感がします。(9/29、50代、会社員・自営)

資料・アーカイブ

- 参考文献や資料集などメールかチャットから必要な人は入手できるようにしてほしいです。(9/1、50代、京大以外の大学などの学生)
- 講義をいつでも、何度でも見られるように、期間限定でもポータルサイトがあると大変うれしいです。(9/13、40代、教員・研究教育関連)

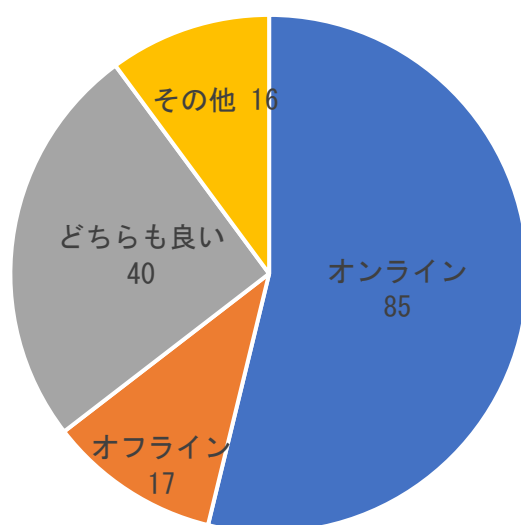
オンライン / オフライン

- 今後も、オンラインやオンライン&オフライン併用型で開催してもらえると、参加しやすく嬉しい。(9/1、10代、小学生)

〈その他(22件)〉

- 10+1年の実績に敬意を表し、次の10年の展開に期待しています。京大からの情報発信は十分だと思いますが、セミナーひとつとってもそれぞれの部局で行われているためか、アクセスに至るまでが大変です。(座談会、60代、会社員・自営)
- いまだと元々研究に興味のある人しかターゲットになっていないような気もするので、もう少し別の要素(その時のトレンドや流行りの開催方法などなんでもいいので)と研究のコラボをすれば、新規顧客開拓に繋がりそうだなと思いました。(9/29、20代、京大職員)

- これまでにアカデミックデイに参加されたことがある方へ質問です。オフライン（京大へ足を運ぶ）開催とオンライン開催、どちらの方が良かったと感じましたか？また、その理由について教えてください。



（単位：人）

※ 無回答の484名については、上記の図からは除外。なお、過去に参加されたことがある人だけが回答しているか確認はできない。

・主な意見

〈オンライン（85件）〉

- 一つのテーマについてしっかり聞けるオンラインは捨てがたいと思いました。（60代、京大職員）
- 深く学べるという点では、オンラインが好きです。（60代、主婦・主夫）
- オンライン開催の方がよかったです。じっくり話を聞くことができましたからです。（20代、京大生）
- オンライン、遠くの人でも気軽に科学に触れられる、間口が広がる。（60代、無職・アルバイト）
- オンラインのほうが良いと思いました。今回、オンラインでは初めて参加したのですが、オンラインなら、参加希望の場合、録画公開もあれば、ほぼ確実に参加できるのではないかと思います。（オフラインだと自分の都合とアカデミックデイの日程が合うかどうか、わからないので）オフラインでは直接、お話が聞けるという貴重な機会があるのですが、ハイブリッド型になれば、両方の満足が満たされるかもしれません。（40代、教員・研究教育関連）
- オンライン。東京からも参加できるので、このようなオンライン対話を定期的に行って、期間限定でリアルで、を希望します！（50代、会社員・自営）
- どちらも魅力的ですが、こちらのほうが深い知識が得られて子供達には、教育的に良いのではと思います。（60代、主婦・主夫）
- こうしたものはオンラインの方が、気軽に聞けて、往復の時間の節約にもなり助かります。また、出来るだけ多くの人に参加してもらうためにもオンラインは良いのでは。（60代、無職・アルバイト）
- 以前は京大へ足を運んでいたが、オンライン開催だと、往復の時間ないので、非常に助かります。（60代、無職・アルバイト）

〈オフライン（17件）〉

- オフラインのほうが自分の好きな発表を聞けるし受け身にならないのでよいと思いました。あとオフラインのほうが子供が参加しやすいので賑わっていいかなとも思いました。それからジュースやノベルティがオンラインではもらえないので、それも1つの理由です。（20代、京大職員）
- オフライン。コンテンツ量が全然違いますから。（40代、会社員・自営）
- オフライン開催です。オフラインの方が質問や議論がしやすいため。オンラインだと様子がわからず話しくくなるので、やはりオフラインの状態が良いです。（50代、京大以外の大学などの教員・研究者）
- 今後、土日や学校の長期休暇期間中に、京大でオフライン開催があれば、ぜひ現地でも参加してみたい。（10代、中学生）



- オフライン。やはりどうしても対面の楽しさには負けますね。(40代、会社員・自営)
- 自分が興味ある研究を聞けるので現地の方が良かったと思います。オンラインだと1人の研究者の話を1時間聞かないといけなくて、思ったのと違った時に変えられないのがちょっと苦手でした。(20代、京大職員)

〈オフライン・オフラインどちらでも良い(40件)〉

- 本来、研究者の先生と直接話すことができる機会は滅多にないので、オフライン開催の方が実際に研究者の先生や他の参加者と顔を合わせて話をすることができて良いと思う。しかし今回のオンライン開催でも参加者から意見や質問を募集したり、それに答えたりと双方向の対話となる工夫が十分になされていて、十分に楽しめる内容であったと思う。また、自宅からネットを通じて参加できるオフライン開催の方が参加へのハードルは低いように感じた。(20代、京大以外の大学などの学生)
- 京大が遠すぎるのでそこはオフラインだと便利でしたが平日の夜はなかなか厳しい。日曜のお昼などだとゆっくり聞ける。対話の人数が少ないので質問ができる。オフラインと同じ人が長々と専門的な質問をして素人は口をはさめない感じになる。(40代、会社員・自営)
- 時間の使い方ではオンラインは優位。講演者と聴講者、また、聴講者同士のコミュニケーションを図る場合はオフラインですね。(60代、会社員・自営)
- 選べないですね。両方あると、いいのでは？準備が大変そうですが。オフラインは、直接対話をしたり、展示物、本棚など見たり、手に取れる場合もあり、良かったです。研究室の探検など、オンラインならではのですね。(40代、教員・研究教育関連)
- それぞれ長所と短所がありますよね。選べないです。オンラインだと、普段見られない実験の様子が見られたりするのは面白いと思います。オフラインで、直接対話できるのは良い経験、体験にもなります。研究者の皆さんの本棚コーナーで本を手にとって見られるのも楽しみの一つです。(40代、教員・研究教育関連)
- どちらも良い点がありました。直接参加はふとした疑問が尋ねやすく、資料もいただけることや、推薦図書をすぐ横で購入できることもありがたかったです。しかしオンラインのようにゆっくりと一箇所でお聞きすることができないこともあったり、遠方のため時間の制限もありました。オンラインではメモも取りやすく動画も見せていただきやすかったです。(30代、教員・研究教育関連)
- 東日本在住のためオンライン開催は参加しやすく、ブース前の混雑を気にする必要もなく、非常にありがたいです。一方で、大学に伺って研究者のみなさんと直接お話をし質問させていただけること、様々な研究が一堂に会して自由に往来できることも魅力だと思います。(30代、教員・研究教育関連)
- それぞれがそれぞれなりに良い点があると思います。例えばオフラインでは、現場でしか体験出来ないことがありますし、セミナーのようなシチュエーションでは、内容それ自体がモノを言う。何より、移動コストがほぼかからないですから1日のうちに他のスケジュールを入れることも容易になる。また、オフラインのセミナーでは座る場所によって演台やスライドの見え方が異なるのに対して、オンラインですと、参加者全員がほぼ同じ画角で内容を望むことが出来る。チャット機能などを使えば、リアルタイムで参加者の様々な反応も共有出来ますので、これもとても至便ですね。(40代、主婦・主夫)
- オンライン形式が身近になってしまうと、オンラインが便利のように感じています。(場所を問わないので)ただ、オフラインの直接対話は、大変貴重な経験だと思います。子ども達相手には、五感で感じられるオフラインのほうが良いだろうと思います。(40代、教員・研究教育関連)
- 平日夜なら、遠方のためオンライン開催だと参加しやすくてよい。土日開催なら、スライドだけでなく実物も見たいし、場の雰囲気を楽しめそうなので、京大でのオフライン開催にも参加してみたいため、ハイブリッド方式を希望する。(10代、中学生)

〈その他(6件)〉

- 首都圏から今年初めていくつかの回に参加しました。オンライン開催であったからこそ、京大アカデミックデイを知ることが出来ましたし、参加することも出来ました。オフラインでのライブの素晴らしさもぜひ体験してみたいと思いますが、オンラインも残していただければと思いました。(60代、京大以外の大学職員)

3-2. 対話研究者アンケート

■ 3-2-1. アンケートの設計とねらい

京都大学アカデミックデイでは、対話研究者のみならずにもアンケートにご協力いただきました。京都大学アカデミックデイに参加した感想、印象に残ったこと、また今後の開催にあたってのご意見・ご提案や、研究者による「国民との科学・技術対話」活動の本学での支援についてのご意見・ご提案もご記入いただきました。

● 出展者アンケート

〈方法〉

- ・ウェブフォームから回答

〈設問〉

・問 1. 「京都大学アカデミックデイ」に参加した感想を、以下のそれぞれの項目についてお聞かせ下さい。（回答必須）

選択肢：大いにそう思う、ややそう思う、どちらでもない、あまりそう思わない、全くそう思わない

- (a) 専門外の方の自分の研究に対する興味・理解度を把握することができた
- (b) 専門外の方と話すことで、研究の意味や目的をあらためて考えるようになった
- (c) 自分の研究と人々の生活との関わりを意識するようになった
- (d) 自分の研究に対する説明責任の重要性に気付いた
- (e) 研究内容を専門外の方に説明する訓練となった
- (f) 参加は日々の研究活動の負担となった
- (g) 機会があったらまた参加したい
- (h) このような活動への参加を研究業績として評価してもらいたい

・問 2. 対話参加者との対話をする際に、準備をしておいて役に立った（or 必要だと感じた）工夫やコンテンツがありましたらお書き下さい。

（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

・問 3. 対話参加者と対話をする際に、どのようなことが特に印象に残りましたか。差し支えなければ、その理由とともにお書きください。

（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

・問 4. 今年度のアカデミックデイは、リスナー中心の第一部と、対話参加者だけの第二部という二部制で行われました。この開催形式は良かったと思いますか？

選択肢：大いにそう思う、ややそう思う、どちらでもない、あまりそう思わない、全くそう思わない

また、差し支えなければその選択肢を選ばれた理由もお書きください。

（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

・問 5. 「京都大学アカデミックデイ」開催にあたってご意見（良かった点・改善点）や今後に向けたご提案などありましたらお書きください。

5-1【良かった点】

（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

5-2【改善点/課題】

（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

5-3【今後に向けた提案】

（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

・問 6. 「京都大学アカデミックデイ」において、今後「このような来場者ともっと話したい」



というご希望がありましたらお書きください。

(非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください)

・問 7. 「京都大学アカデミックデイ」において、今後扱ってほしい新企画などのご希望がありましたらお書きください。

(非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください)

・問 8. 本学における「国民との科学・技術対話」への取り組みや、URAによる支援についてご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。

(非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください)

・役職 (回答必須)

選択肢：教授、特定(特任)教授、准教授、特定(特任)准教授、講師、特定(特任)講師、助教/助手、特定(特任)助教/助手、研究員、博士課程(博士課程後期)大学院生、修士課程(博士課程前期)大学院生、その他]

・研究分野 (回答必須)

選択肢：社会科学系、人文科学系、理工学系、医薬生命科学系

・お名前 (回答必須)

・ご所属 (回答必須)

・ご連絡先 (E-mail) (回答必須)

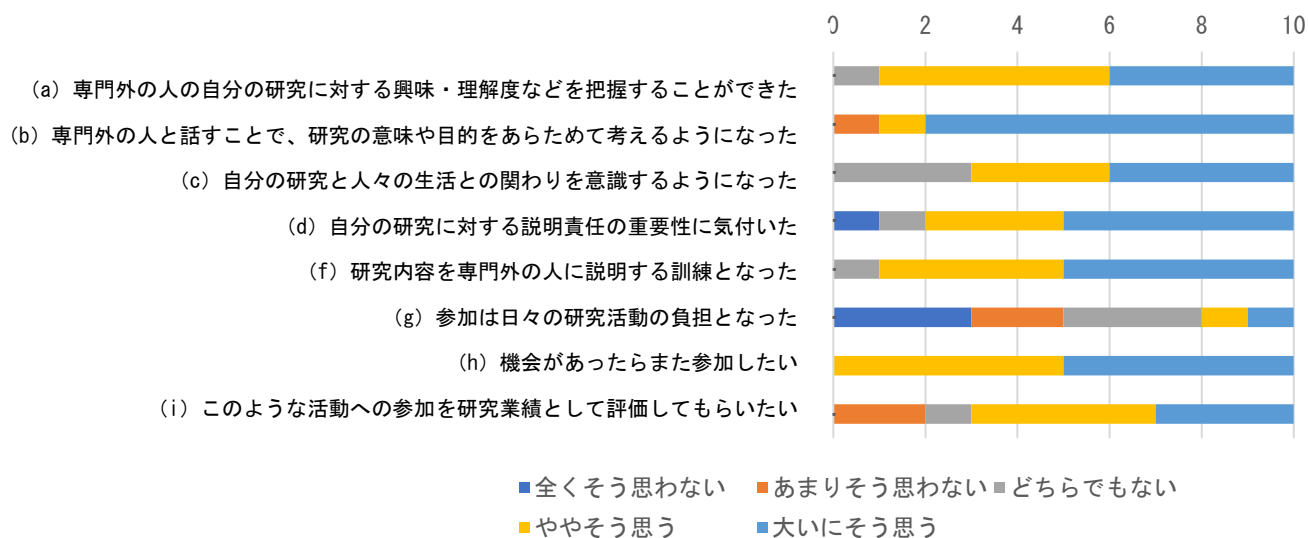
・当日の参加者について、出展申込書に記入いただいた時点から変更がある場合で、報告書等への記載を希望される場合は、氏名/所属/職名又は学年等をご記入ください。

■ 3-2-2. 「対話研究者アンケート」の結果

出展者数 13 人

回答者数 10 名 (回収率 77%)

・「京都大学アカデミックデイ」に参加した感想



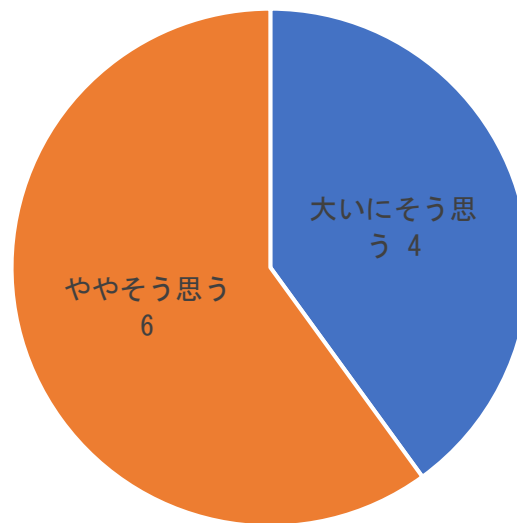
● 対話参加者との対話をする際に、準備をしておいて役に立った（or 必要だと感じた）工夫やコンテンツ

- Miro を用いて皆さんの考えがまとまっていく（形になっていく）のが有効だった。（医薬生命科学系）
- Go Pro を用いた研究室案内は普通のカメラよりも臨場感があってよかったと思います。また、研究室内で学生さん4人に協力いただき、ネットトラブルなどの問題に対処できるように準備しておきました。（医薬生命科学系）
- スライドにはシンプルな図表や身近な事例や写真を挙げておくことが、参加者のみなさまには、より分かりやすくなることを認識できました。（医薬生命科学系）
- 研究室のメンバーと準備を進めるつもりでしたが、リハーサルをして頂いたことで準備作業のペースを掴むことができました。直前ではなく、2～3週間前に実施して頂くことで、余裕を持って準備ができました。（理工系）
- 一般の方にも短い説明で効果的に伝わるようなフレーズ等は準備しておいた方がよいと思います。（社会科学系）
- Zoom におけるチャットや QA を確認するための、2 番目のアカウント。及び、それを表示するためのサブの端末。（理工系）
- 司会進行は大変よかったのです。QA 時間がやや少なかったのですが、研究者の協力も必要ですが、もうすこし対話の時間を確保できるといいなと思いました。（理工系）

● 対話参加者との対話の中で、印象に残ったこと

- 違う視点からのコメント（理工系）
- 対話に参加される方は科学的リテラシーが非常に高いと感じました。ただ一方で、一つ一つの話題が細かいので全員の参加者の方の興味に沿わないところもあり、質問者以外の方が退屈されたかもしれません。（医薬生命科学系）
- 報道などを通じて知識は得てはいるが、報道の内容が不十分なせいか聴きてである参加者のみなさんには十分な情報が伝えられていないような感じがしました。ネットを使用すれば、報道で欠けた情報を補足や修正ができると考えますが、ネット上の情報自体が膨大かつ不正確なものも沢山あり、今回のように大学を通じた情報発信が重要だということが改めて分かりました。（医薬生命科学系）
- 学会で議論するような研究の詳細よりは、研究の位置づけや意義をわかりやすく説明するための情報が必要だと思いました。メディアに出ているような情報をよくご存知の方が多いため、異分野の情報でも日頃気をつけて収集する必要があると感じました。（理工系）
- 年代や背景が様々で、普段接していない層の方の意見は印象に残りました。（社会科学系）
- 非常に熱心な方と思いました。ただ、せっかく対話参加していただいているので、聞きたいことをもっと明確にできるとよいと思いました。（理工系）
- 折角コメント欄にコメントをいただいても、その都度答えられないので、投稿者が不満に感じるようなことがあったら申し訳なかったです。（社会科学系）

- リスナー中心の第一部と、対話参加者だけの第二部という二部制の開催形式は良かったと思いますか？



〈大いにそう思う理由〉

- 一部は多くの方の意見にひたすら対応していましたが、二部では少し落ち着いて話をできました。またカメラオンでお話できたのも良かったです。（医薬生命科学系）
- たくさんのリスナーに聴いて頂き、ラジオ番組に出ている感じがして、とても楽しかったです。また、学術経験がおありの進行担当の配慮も抜群でした。さらにリスナー代表として質疑応答形式の機会も、研究と教育者としての立場を再認識できるよい機会となりました。（医薬生命科学系）
- もっとディープな議論ができるため。（理工系）

〈ややそう思う理由〉

- 対話自体はとてもよかったです、第一部をもっと長く聞いていたかったという声もありました。バランスの問題ですが。（医薬生命科学系）
- 今回は、参加者が同じような問題意識や質問をお持ちでしたのでスムーズでしたが、そうでない場合は進行が難しいかと思います。質問がたくさん出るのであれば、第一部がもう少し長くても良いかもしれません。（理工系）
- 対話参加者とのディスカッションが面白いと思うので、まず一般のオーディエンスに対話参加者も含めて研究内容を共有してから、ディスカッションに入るとするのが良いと思いました。（社会科学系）
- リモート形式なので、第一部だけでは反応が良くわからないため。（理工系）
- 第2部が、第1部のフォローアップを果たすことができたので。（社会科学系）

- 「京都大学アカデミックデイ」開催にあたってご意見（良かった点・改善点）や今後に向けた提案

良かった点

- URA に色々アドバイスを頂けた。アンケートなど取るのは初めてでしたが、良かった。（理工系）
- 一部、二部の構成がメリハリがついてよかった。（医薬生命科学系）
- 橋本様はじめ皆様のサポートが素晴らしかったと思います。（医薬生命科学系）
- この企画自体が良く、さらに展開頂きたいです。（医薬生命科学系）
- KURA の皆様のおかげでよい会になったと思います。（医薬生命科学系）
- 初めてオンラインで参加しましたので、手厚いサポートで大変助かりました。（理工系）
- 2部構成でのデザイン（社会科学系）
- 様々な方、特に、研究者じゃない方からの声を聴けてよかったのです。（理工系）
- 多くの登壇者がいるにもかかわらず、個別に打ち合わせの時間を2度にわたって取っていただいた点。（社会科学系）

改善点/課題

- 私の音声が入り過ぎて聞きにくい時があったそうです。(理工系)
- 一部が少し短く感じました。(医薬生命科学系)
- チャット機能をオンにしたのですが、特定の方が多くコメントし、他の人にとって参加しにくく感じてしまったかもしれません。内輪の人ではなかったのですが。アンケートの方がフェアに参加しやすかったかもしれません。(医薬生命科学系)
- (私の反省点ですが)画面共有停止ボタンと退出ボタンを間違えて押ししまい、突然一時いなくなりました。すみませんでした。(医薬生命科学系)
- 1部の際のリスナーとの交流(社会科学系)
- QAの時間がやや少なかったように思います。(理工系)

今後に向けた提案

- 第一部をもう少しだけ延長 10分程度(理工系)
 - でももうちょっとお話したい(一部)くらいで終わるのも良いかもしれませんね。(医薬生命科学系)
 - スライドデザインのサポートをいただけると大変助かります。スタートとエンドはプロのデザイナーの方が作成されたアニメーションが流れていたと思いますが、研究者の限られた時間で凝ったデザインをするのは難しいと思いました。(医薬生命科学系)
 - この形式で改善していけばよいのではないのでしょうか?(社会科学系)
 - 対話参加者の聞きたいこと・質問したいことを前もって分かればなおよいと思います。(理工系)
 - 来年度以降、自宅から参加したいという需要に応えるべくハイブリッドにするか、それとも、対面開催だけに限ってしまうかを決めないといけないかと思えます。あまり運営の皆様の負担にならないよう、ハイブリッドの開催となるのでしょうか。あるいは、対面開催を録画して、後で、公開することで、そういった需要に部分的に応えることにするのか。あと、料金は徴収しないにしても、間接的には寄付金につなげるようなことはできるのかといったことにも関心があるところでございます。(社会科学系)
- 「京都大学アカデミックデイ」において、今後「このような来場者ともっと話したい」というご希望がありましたらお書きください。
 - 簡単な紙とハサミ、テープなどで何か一緒に作ってみるといった企画があれば面白いです。人体の話に依りすぎですが、例えば骨や関節の構造を解説し、自分で紙で切り抜いてみて、なぜこの方向に関節が曲がるのか、というのを切った紙を動かすことで知るなんていうのも面白いかと思えます。(医薬生命科学系)
 - 「研究者100人に聞きました」みたいなアンケートがあってもいいかなと思います。事前質問の中で選んだものをあらかじめ多くの研究者に聞いておいて(例えば「研究者を目指そうと思ったのはいつですか?小学生?中学生?高校生?」)、その結果を見ながらワイワイいうのもいいかなと思います。(医薬生命科学系)
 - 学内の研究分野を隈無く市民に発信頂きたいです。(医薬生命科学系)
 - 昔、爆問学問というテレビ番組がありまして、座談会のようなものをやっていたかと思えますが、だれる気もしますので、今回のように、個別にやっていくという形式で良いかと思われそうですが、いかがでしょうか。(社会科学系)
 - 本学における「国民との科学・技術対話」への取り組みや、URAによる支援についてご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。
 - 大変良い取り組みだと思います。ご苦労さまでした。おかげさまで楽しくできました。(理工系)
 - 国民への発信という一方向だけでなく、研究者も学ぶ、自分自身の立ち位置を知る機会を作って頂ければと思います。(医薬生命科学系)
 - 大変すばらしいサポート体制で、将来への発展性も感じました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。(医薬生命科学系)
 - 日常的に学術を扱わない方との接点が無い中、このような機会は大変重要だと思います。テレビや多くのメディアにて不確か、中には怪しい情報を発信している中、市民や国民が確かな知識を受け取る環境を形成することが必要と考えます。資源が少ない国ではありますが、科学的な知識や技術を持つ国民の養成のためのきっかけとなればと思います。(医薬生命科学系)
 - アカデミックデイズを始め多くのアウトリーチ活動は、学内の教員は関わっている人くらいしか実際の運営や開催状況を知らないのではないかと思います。もっと、いろいろな方に参加して頂けると良いと思います。(理工系)



- 研究者に対して、このようなサポートをご提供いただけるのは大変ありがたいことだと思います。（社会科学系）
- 前職の大学では、YouTube で研究成果情報を発信しているようです。最近は、学生バイトを活用して、対応しているようです。それでもご負担かと思われませんが、ご参考までの情報提供です。（社会科学系）

4. オンラインで開催された2年間のアカデミックデイを振り返って

2020年度、2021年度のアカデミックデイは新型コロナウイルスの影響により、オンラインでの開催となりました。そこで、2020年度と2021年度の取り組みを包括的に検討することで、次年度以降のオンラインイベントのあり方を考えます。

- 名称の変更

2021年度のアカデミックデイは、9日間の日程で行われた「オンラインでも膝詰め対話」に加え、「オンラインでもお茶を片手に座談会」も実施され、合計10日間の開催となりました。これまで培われてきた「アカデミックデイ」という名称が持つブランド力を損なわないようにしつつも、複数日程の開催であることが強調されるよう、名称を今年度限りで「アカデミックデイズ 2021」と変更しました。

- 「オンラインでも膝詰め対話」イベント形式

2020年度のアカデミックデイは、ファシリテーターサポートのもと、対話参加者と対話研究者が75分間対話を行い、その様子をリスナーが視聴しながら、質問や感想をQ&A機能経由で書き込むという形式でした。一方、2021年度のアカデミックデイは2部制としました。第1部は60分間、リスナーが対話研究者とファシリテーターの対話を視聴しながら質問や感想をQ&A経由で書き込み、ファシリテーターがそれらを適宜取り上げて話を深めていく、文字とトークのクロスな対話の場としました。第1部終了後、リスナーには全員退出いただき、続く第2部は45分間、ファシリテーターサポートのもと、対話参加者と対話研究者がカメラとマイクをオンにして対話を行う、クローズドな対話の場としました。対話参加者は第1部開始15分前に一度パネリストとして入室し、ファシリテーターサポートのもと自己紹介などのアイスブレイクを行い、第1部はリスナーとして視聴、その後、第2部は再びパネリストとして参加することで、対話研究者とのスムーズな対話に繋がられるようにしました。Zoomウェビナー機能の一つである「リスナー」「パネリスト」権限の切り替え調整は、運営側が行いました。

大きく変更した点は、「対話参加者と対話研究者の対話を、リスナーが見ることができるか否か」です。2020年度の形式では、「自分たちの対話を聞いている人がたくさんいる」というプレッシャーを対話参加者に与えることとなり、人前で話すことに慣れている人が多く集まる結果となりました。そこで2021年度は、より多くの人に研究者との対話を気軽に楽しんでもらうため、対話を聞いている人がいない場として第2部を設けました。その結果、中高生から一般企業に勤めている社会人、退職された方といった、大学の研究にあまり馴染みがない人々にもご参加いただきました。一方で2020年度同様、対話参加者への応募自体は数が少なく、後述の外部ファシリテーターや担当URAの伝手で参加をお願いすることでようやく一定数を確保できたイベント回が複数あり、なぜ対話参加者の応募が少ないのかについては、広報のあり方も含め、課題が残る結果となりました。

- 外部ファシリテーターとの連携

2021年度の「オンラインでも膝詰め対話」も昨年度同様、すべての対話研究者に対し、イベントの企画段階から当日まで、イベント当日のファシリテートを担当する者が伴走支援を行うこととしました。2021年度は9名の応募があったことから、KURAのURAのエフォート削減を主な目的に、5名の対話研究者については、ファシリテーターとして京都大学に所属していないURAや科学コミュニケーターが担当（「外部ファシリテーター」と定義）、KURAのURAと外部ファシリテーターが共創して対話の場をつくりました。その結果、外部ファシリテーターが持つ独自のルートを用いた広報を実施したことにより、従来の広報だけでは手が届かなかった層にアカデミックデイを周知できたという副次効果がありました。一方、本来の目的であったURAのエフォート削減については、1. アカデミックデイの目的や重視する点などを外部ファシリテーターに周知することに時間がかかった、2. 当日の運営をスムーズに行うため、イベントの企画調整の打ち合わせに担当URAも入らざるを得なかった、という2点で、課題が残る結果となりました。

- イベント中の相互コミュニケーションツール

第1部では、参加者の相互コミュニケーションツールとしてQ&A機能、投票機能に加え、昨年度は用いなかったチャット機能も合わせ、3つの機能を用いました。これらについて、アンケートの結果から、それぞれに固有の特徴が浮かびあがってきました。

- ・ Q&A 機能

昨年度同様、匿名で投稿でき、また他の参加者からは見えないという利点を生かしたメイン相互コミュニケーションツールとするため、Q&Aに寄せられた質問や感想をファシリテーターが取り上げる旨、イベントの冒頭で毎回周知しました。しかし、Zoomウェビナーに慣れていなかったり、遅れて入室してきたりしたリスナーへの周知に不足があり、特に後述のチャット機能とQ&A、どちらに書き込めば良いかわからないという意見がいくつか寄せられました。こうした意見を意識して書き込み方法の周知徹底を行ったイベント回では非常に多くの質問や感想がQ&Aに寄せられたので、匿名性は気軽な書き込みに一定の効果があると考えられます。

- ・ チャット機能

運営側で書き込みのコントロールが難しいという視点から昨年度は用いませんでしたが、今年度はイベント中にファシリテーターが強いて書き込みの内容を取り上げないようにしつつ、書き込み自体はできるようにしたところ、イベントと並行する形でリスナー同士が盛り上がる場となりました。こうした動きについて、「チャットへの自由な書き込みがリスナー同士の対話の場になっていた」といったリスナー同士の一体感形成にポジティブな意見がいくつかあった一方、特にZoomに慣れていないリスナーからは「気が散った」や「講演内容と関係のないコメントも見受けられた」など、チャットが頻繁に出てくることやその内容に対するネガティブな意見も多く寄せられ、オンラインイベントに慣れている層とそうでない層の間にある意識の違いが強く出る機能であることがわかりました。「チャットの吹き出しが邪魔」といった意見にあるように、書き込まれた文章がリアルタイムにポップアップされる仕様がZoomウェビナーのデフォルト設定であったことが、ネガティブな意見が生じた一因であったと考えられますので、今後はイベント前に、ポップアップ機能をオフにする手続きを周知することである程度の解決が望めると考えられます。

- ・ 投票機能

昨年度同様、対話研究者からリスナーへ問いかける手段として、質問と選択肢を提示し、該当す

と思われるものを選ぶ投票機能は全てのイベントで1回以上用いられました。この試みは概ね好評で、「小学生も飽きずに楽しめた」や「参加している感が出て楽しい」といった、幅広い層の人たちを飽きさせない工夫に一役買っていることが伺えました。一方で、「もう少し難しくてよかった」や、「もっと話を聞きたかった」という意見もあり、より深く学術的な話を視聴したい層にとっては、その簡易さゆえに少し物足りなさがある機能なのかもしれません。

前述のチャット機能と合わせ、リアルタイムのオンラインイベントには、対面以上に多様な人々が集まり同時に“場”を共有するという特徴があることが示されました。今後は、どういった層をアカデミックデイのメインターゲットにするのか事前に明確化した上で、企画内容や広報のあり方を考える必要があると考えます。

● 配信場所・時間

今回のオンラインイベントでも昨年度同様、「実験室などなかなか見ることができないので、探検気分が楽しかった」「貴重な顕微鏡を見たり研究生の様子がみられたり、ライブ感があって面白かった」といった感想にある通り、実際の研究現場から配信されたことに対するポジティブな意見をたくさんいただきました。今後やってほしい企画アイデアの中にも、今回のような研究室見学を続けてほしいといった意見だけでなく、「ミニ実験の中継など、発表ではなく、普段されていることそのものを見てみたい」といった声があるように、オンラインだからこそ見聞きできる企画は、今後も続けていく価値があるように思います。

次いで開催時間について、事後アンケートの結果からは昨年度同様、多くの方が今回のような平日の夜に参加しやすいことがわかりました。また、オンラインで開催されることで“ながら作業”ができるメリットに触れた意見も、昨年度同様一定数寄せられました。一方で、「仕事が残業で参加できない」「育児で最も忙しい時間帯」といった理由で視聴できなかったという声も、複数寄せられました。各回当日の視聴者数が事前申込者数の半数程度だった理由の一つとして、申し込んでみたものの、都合がつかずに参加できなかった人も多くいることが考えられます。開催時間については引き続き、検討の余地がありそうです。

● イベントのアーカイブ

前述の「配信時間に参加できない」問題と関連し、2021年度のアカデミックデイではイベントのアーカイブ配信を望む声が非常に多く寄せられました。この2年で視聴者側もオンラインイベントに慣れ、アーカイブ配信を筆頭に、集まる人々の時間軸が“非同期”なイベントが世の中では主流になりつつあることが感じられます。しかし、アカデミックデイは同期性のある対話の場を重視するイベントであることから、アーカイブの配信には慎重な姿勢です。その代わりに昨年度同様、イベント中に回答できなかった視聴者からの質問については後日、対話研究者に可能な範囲で回答をいただき、K. U. RESEARCHの各回イベント紹介のページに特設欄を設けて質問に対する回答を公開することで、映像では困難なアーカイブ配信を文字という形で行いました。

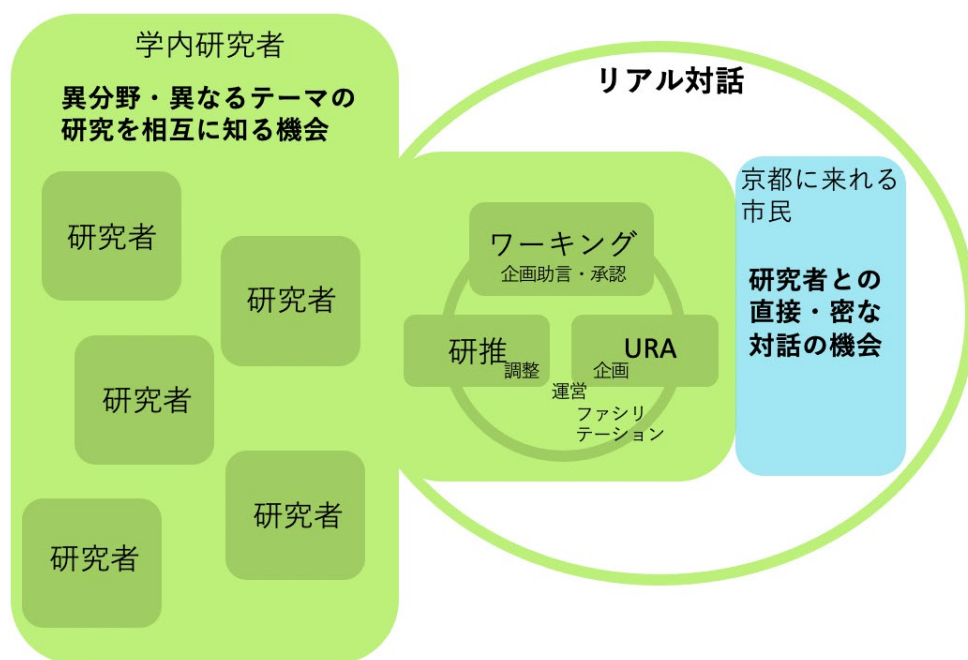
● Zoom ウェビナーにまつわるアナウンス

対話参加者に対しては、イベント開催日前に必要な応じて複数回メールにてやりとりを行ったことにより、滞りなく参加いただくことができました。一方、リスナーに対しては、Zoom ウェビナーに入室するためのURLを各回ともに、イベント当日の朝9時ごろに一度送る対応としました。リス

ナーへの対応について、同様の対応だった昨年度は「メールアドレスなどを入力しないといけないことを事前に伝えてもらえると、もっとスムーズにZoomに入れる」など、Zoomの操作に慣れていない人たちから「もっと早く連絡が欲しい」という感想が複数寄せられたのに対し、今年度は早めの事前アナウンスに関する意見はありませんでした。オンラインイベントの普及によって、Zoomの取り扱いに慣れた人々が増えたことを裏付けるように、「この一年でZoomに慣れたので問題なかった」という感想も寄せられました。また、初回のイベントではURLのみを送付しましたが、終了時のアンケートで「メールを受け取った機器とは別の機器で視聴したいので、IDとパスワードも案内に入れて欲しい」という意見が寄せられました。そこで、2回目以降はURLに加え、IDとパスワードも付記する対応としました。オンラインイベントは、ますます身近な存在となっているようです。

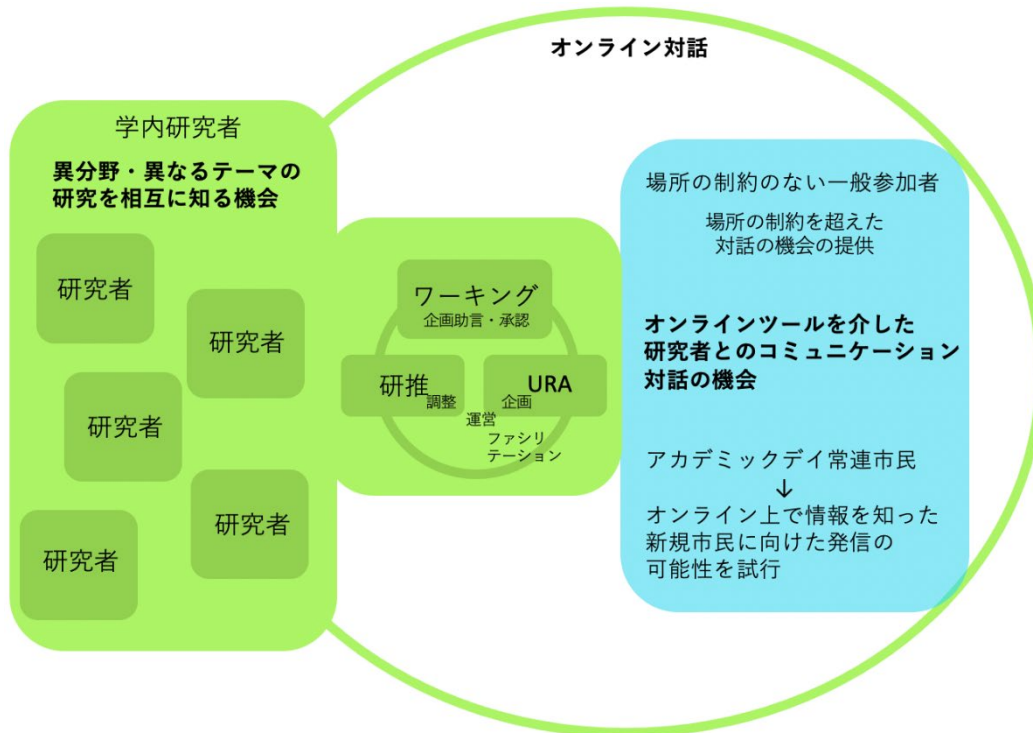
● これからのアカデミックデイのあり方

これまで対面形式で行われてきた京都大学アカデミックデイは、京都大学近郊に閉じていたというのが一つの課題としてありました。これは“直接対話”を大事にすることから近いところでの密な対話を大事に守ってきたという背景もあります。一方で、この2年間はオンライン開催となり、また外部ファシリテーターが入ることで、確実にリーチが広がったという側面もあります。さらに今年度の第2部では、オンラインでもある程度密な対話を実現できました。新型コロナウイルス感染症が報告されて2年以上たつ現時点でも、感染症拡大による影響の先が見通せない中、安易に直接対話が良い、という結論ではない検討が必要です。

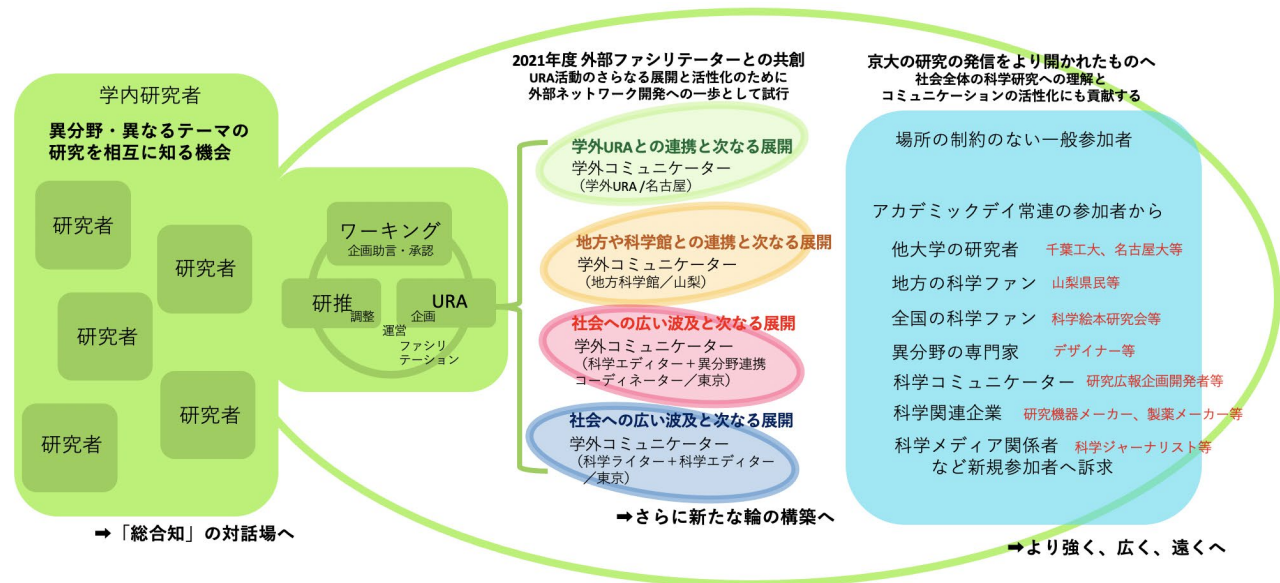


<2011年度～2019年度 リアル開催の京都大学アカデミックデイ>

<2020 年度 オンライン開催の京都大学アカデミックデイ>



<2021 年度 オンライン開催+外部ファシリテーターと共創した京都大学アカデミックデイ>



5. 出展者情報

- オンラインでも膝詰め対話

開催日	代表者	
9/1	○	高林 純示 (生態学研究センター・教授)
9/6	○	青山 朋樹 (医学研究科・教授)
9/8	○	平塚 徹 (生命科学研究科・特定助教)
9/13	○	白川 康一 (東南アジア地域研究研究所・連携助教)
9/17	○	石本 智之 (医学部附属病院・特定助教) 田口 智之 (医学部附属病院・特定助教)
9/22	○	横川 隆司 (工学研究科・教授) 藤本 和也 (工学研究科・助教) 亀田 良一 (工学研究科・博士課程2回生) 田渕 史 (工学研究科・修士課程2回生) 堀田 英幹 (工学研究科・修士課程2回生) 長野 湧太 (工学研究科・修士課程1回生)
9/24	○	笠原 秀一 (学術情報メディアセンター・特定講師) 馬 強 (情報学研究科・准教授) 増田 央 (経営管理研究部・特定講師)
9/27	○	川本 佳苗 (東南アジア地域研究研究所・連携講師)
9/29	○	安達 貴教 (経営管理大学院 (大学院経営管理研究部)・准教授)

6. 広報

アカデミックデイ 2020 に引き続き今回もオンライン開催だったため、Twitter や Facebook への投稿、YouTube への動画 CM 配信、Peatix イベントページへの掲載やメールの発出など、オンラインでの広報を重点的に行いました。一方で従来の参加者への広報も意識し、ポスターの配布・掲示（大学や公共施設、市バス・地下鉄等）は従来通り行いました。

6-1. ポスター、チラシ、中吊り広告

■ 6-1-1. ポスター（A2 サイズ）

近頃多岐多岐も
開催中!

QRコード

研究について、研究者と一緒に
考えてみませんか?

身近なところが研究室に
今年もオンラインでお会いしましょう!

京都大学 Kyoto University
Academic Days 2021

アカデミックデイズ 2021

2021年9月開催! 詳細はこちら
<https://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/a2021/>

※動機：無料、リスナーのお申し込みは各月間ともに開催日前日までですが、定員（500名）に達し次第締め切らせていただきます。

京都大学 学術振興部 学術情報センター 学術情報課 学術情報課 学術情報課 学術情報課 学術情報課

6-3-2. 中吊り広告 (B3 サイズ)




京都大学 学術情報センター
 Kyoto University
 〒606-8501 京都府京都市左京区吉野
 〒606-8501 京都府京都市左京区吉野
 〒606-8501 京都府京都市左京区吉野
 〒606-8501 京都府京都市左京区吉野

研究について、
 研究者と一緒に
 考えてみませんか？

2021
アカデミックデイズ
 Kyoto University
Academic Days 2021

身近なところが研究室に
 今年もオンラインでお会いしましょう！

2021年9月開催！
 詳細はこちら
<https://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/a2021/>

本誌費：無料。イラストの著作権は各掲載者または関係者に帰属するものとします。複製（500部）以上は別途お申し込みが必要です。

■ 6-3-2. チラシ (A4 サイズ)

● オモテ面

研究について、
研究者と一緒に
考えてみませんか？

身近な
ところが
研究室に

今年もオンラインでお会いしましょう！

京都大学 Kyoto University
Academic Days 2021

アカデミックデイズ 2021

2021年9月開催！詳細はこちら
<https://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/a2021/>

参加費：無料。リスナーのお申し込みは各日程ともに開催日前日までですが、定員（500名）に達し次第締め切らせていただきます。

京都大学アカデミックデイとは：

「京都大学アカデミックデイ」は、市民や研究者、文系、理系を問わず、誰もが学問の楽しさ・魅力に気付くことができる「対話」の場となることを目指して、2011年度から続いている企画です。
11回目となる今年は、オンラインで複数日程開催するので、名前が「アカデミックデイズ2021」となりました！



京都大学アカデミックデイズ 2021 Kyoto University Academic Days 2021

PROGRAMS

1



オンラインでも膝詰め対話

研究にまつわるあんな話、こんな話、研究のおもしろ話をしませんか？
皆さまからの疑問質問ご意見等々、お待ちしております！

2021年9月1日(水)、6日(月)、8日(水)、13日(月)、17日(金)、22日(水)、24日(金)、27日(月)、29日(水)
19時開始

今年は前半と後半に分かれてお届けします！

前半19:00-20:00は、リスナーから書き込まれた質問や感想に研究者が答える、文字とトークのクロスな対話。
後半20:00-20:45は、研究者と対話参加者だけの贅沢なひととき一両者がオンライン上で語り合う、言葉通りの「対話」。

※対話参加者の方も19:00よりご参加いただけます。リスナーか、対話参加者か、お好みの参加方法にお申し込みください！
※対話参加者のお申し込み締め切りは8月23日(月)まで、参加については抽選により決定します。
※リスナーのお申し込み締め切りは各日程ともに開催前日までですが、定員(500名)に達し次第締め切らせていただきます。

- | | | |
|--|---|--|
| <p>9月1日(水)
高林純示(生態学研究センター)
「昆虫と植物とのコミュニケーション」
植物がかおりにコミュニケーションしているって知ってますか？</p> | <p>9月13日(月)
白川康一(東南アジア地域研究研究所)
「熱帯地域の感染症 マラリアについて」
疫学という研究分野から感染症の研究を行っています。</p> | <p>9月24日(金)
笠原秀一(学術情報メディアセンター)
「修学旅行生は、どこに行く？」
修学旅行の研究をしています。</p> |
| <p>9月6日(月)
青山朋樹(医学研究科)
「モノの形と素材で機能を再生する」
普段目にするモノの形や素材に目を向けてみませんか？</p> | <p>9月17日(金)
石本智之(医学部附属病院)
「疾患モデルの意義と病態解明にむけて」
難病の治療開発を進めるには何が必要だと思いますか？</p> | <p>9月27日(月)
川本佳苗(東南アジア地域研究研究所)
「ミャンマーの仏教観想について」
軍事クーデター以外のミャンマーの姿をお伝えします！</p> |
| <p>9月8日(水)
平塚徹(生命科学研究科)
「がんばれば見えてくる！細胞のキモチ」
画像に魅せられて研究室に入った人、多いです。</p> | <p>9月22日(水)
横川隆司(工学研究科)
「マイクロ加工技術で創る"イノチ"の器」
微細なチップが生体を理解・制御する窓口になります。</p> | <p>9月29日(水)
安達貞教(経営管理大学院(大学院経営管理研究部))
「ゲーム理論で考える組織」
経済学も数学に負けず劣らず自由な学問です。</p> |

皆様のご参加をお待ちしております！

研究について、
研究者と一緒に考えてみませんか？

2



オンラインでもお茶を片手に座談会

2021年9月7日(火) 19:00-20:45

「アカデミックデイ」がどうやってつくられているのか、企画の裏側をお見せします！研究者と市民の「対話」の重要性が認識された東日本大震災から10年。新型コロナウイルス感染症により、再び困難な状況にあるなかで、アカデミックデイの昔を振り返りつつ、これから京都大学が市民の方々とのように対話していくのか、アカデミックデイの今後について、京都大学の研究者が語り合います！

語り合いの最中はもちろん、ご視聴いただく皆様からの疑問質問感想など、リアルタイムでお待ちしております！

申し込み・詳細はこちら(参加費：無料)

<https://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/a2021/>

主催：京都大学(学術研究支援室、研究推進部研究推進課、「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ) お問い合わせ先：京都大学アカデミックデイ事務局 | E-mail: kenkyu-taiwa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp



6-2. ウェブサイトとソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS)

ウェブサイトとソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) を利用して「京都大学アカデミックデイズ 2021」の出展募集および集客を行いました。



- Web サイト

学術研究支援室 Web サイト

参加研究者（対話研究者）募集のほか、開催案内を「イベント案内」で告知しました。

– 対話研究者募集案内 : <https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/support/hasshin/academic-day/>

京都大学「研究大学強化促進事業（文部科学省）」ウェブサイト（K. U. RESEARCH）

京都大学アカデミックデイ専用ページを設置し、トップにハッシュタグ「#京大アカデイ 2021」がついたコメント等が流れるように設定しました。

京都大学アカデミックデイウェブサイト

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>

また、出展研究についても、個別ページを作成しました。

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/a2021/>

京都大学 HP

– 開催案内 : <https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/event/2021-08-04>

- SNS（Twitter、Facebook、YouTube）

SNS は、Twitter の京都大学アカデミックデイ公式アカウントと、Facebook の K. U. RESEARCH アカウント、学術研究支援室の公式アカウントを用いました。開催日前日までは開催情報や出展情報などを告知し、開催日当日は主に Twitter を使って運営の様子を伝えました。

京都大学アカデミックデイ公式（@KyodaiAcaDay）Twitter

<https://twitter.com/KyodaiAcaDay/>

Twitter では、ハッシュタグ「#京大アカデイ 2021」を活用し、開催情報を各研究の詳細ページと一緒に紹介しました。

京都大学「研究大学強化促進事業（文部科学省）」（K. U. RESEARCH）Facebook

<https://www.facebook.com/k.u.research>

ポスターやチラシの PDF 掲載、京都大学アカデミックデイ専用ページの情報等を掲載しました。また、Facebook でもハッシュタグ「#京大アカデイ 2021」を活用しました。

京都大学 学術研究支援室（KURA Office）Facebook

<https://www.facebook.com/kuraoffice/>

学術研究支援室のアカウントでも、開催案内を行いました。

6-3. その他の広報物等

ポスターやWEBだけでなく、様々なチャンネルで京都大学アカデミックデイを広報することを目的に、YouTube 広告やインターネット上でのイベント紹介サイト等での広報を行いました。

- 広告動画

より多くの人にアカデミックデイを周知するため、YouTube 上に京都大学アカデミックデイのチャンネルを開設し、全世界にアカデミックデイの開催情報を発信しました。

京都大学アカデミックデイ YouTube

https://www.youtube.com/channel/UCuKeeIGcw64_cSxj6ZJu0sA

Google 広告と連動した YouTube 広告機能を用いて、ポスターデザインを用いた 6 秒動画を動画 CM として配信しました。また、チャンネル上の動画は誰でも視聴できるようにしました。



- Google 広告

より多くの人にアカデミックデイを周知するため、Google 広告を利用しました。アカデミックデイに関連するワードを検索したユーザーの検索結果上位にアカデミックデイのイベントページを表示させ、簡単に申し込みができるようになりました。



- Peatix

より多くの人にアカデミックデイを周知するため、国内最大級のイベント紹介サイトにアカデミックデイのページを開設しました。（<https://academic-day2021.peatix.com/>）

また、Peatix 登録者のうちアカデミックなイベントに興味がある 2 万 5 千人に対して、8 月 25 日（水）10:00 にメール配信を行いました。このメール配信が功を奏し、結果的に最も申込者数が多い経路となりました。

- メール配信

アカデミックデイ 2020 お申し込み時に「今後のメール配信を希望する」を選択された方を対象に、開催案内のメール配信を行いました。一定数の申し込みがあり、リピーター層の取り込みへの効果が示されました。

- サイエンスポータル

JST が運営する科学技術の情報サイト「サイエンスポータル」にイベント情報を掲載しました。

サイエンスポータル イベント一覧

<https://scienceportal.jst.go.jp/events/>

- 本棚ブース

今年度は、京都大学アカデミックデイ対話研究者から推薦された書籍を展示する「研究者の本棚」特設サイトが設置され、誰でも手に取ることができるようにしました。

- ・ 附属図書館

京都大学アカデミックデイズ 2021 開催前の 8 月 30 日から開催後の 9 月 30 日まで、附属図書館 1 階で、京都大学アカデミックデイ対話研究者が「研究者の本棚」企画のためにセレクトした「今の

仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本」「今ハマっている本」「若者にお勧めしたい本」「自分の研究に関連して紹介したい本」から一部をレビューとともに展示しました。

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1391371>

・京大生協ショップルネ（書籍コーナー）

京大生協のショップルネ1階書籍販売コーナーでは、8月28日から9月30日まで「研究者の本棚」特設コーナーが設けられ、書籍が展示・販売されました。



- しおり

昨年に引き続き各京大生協の店舗でもしおりを配布しました。



- 生協サイネージ

広報期間：11月13日～12月14日

京都大学
Kyoto University
Academic Days 2021

2021
アカデミックデイズ

研究について、
研究者と一緒に
考えてみませんか？

2021年9月開催！
詳細はこちら
<https://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/a2021/>

身近なところが研究室に
今年もオンラインでお会いしましょう！

京都大学 学術振興部 学術情報課
〒606-8501 京都府京都市西京区南所原1-10-1
京都大学 学術振興部 学術情報課 学術振興部学術情報課
「最先端の科学」を伝える。 学術情報。 (ウェブデザイン)

● 研究者の本棚ブックリスト

登壇日	登壇者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
9月1日(水)	生態学研究センター・教授 高林純示 「昆虫と植物とのコミュニケーション」	今の仕事（研究・進路）を選ぶきっかけになった本	『細胞の社会—生命の起源をさぐる』 岡田節人 講談社	「細胞の」を若い頃読んで、影響を受けたという発生物学者は多いと思う。 私もその一人。 「アンタの専門は発生物学じゃなくて生態学やないか。」 はいそのとおり。世の中、きっかけから今に至るまでには、紆余曲折があるもんです。
		今ハマっている本	『メインテマは殺人』 アンソニー・ホロヴィッツ (著), 山田 蘭 (訳) 創元推理文庫	「メインテマ」の帯に「〇〇賞一位」「各賞を総なめ」とかなんとか書いてあって、 ほんまかいなと思いつつ買って読んだ。相当猛烈オモシロイ。「カササギ」もしかり。 ホロビッツの他の作品も読まなくっちゃ。
		今ハマっている本	『カササギ殺人事件』 アンソニー・ホロヴィッツ (著), 山田 蘭 (訳) 創元推理文庫	
		若者にお勧めしたい本	『夜は短し歩けよ乙女』 森見登美彦 角川文庫	「夜は短し」には、「おともだちパンチ」という奥の手を持ち「ラム酒をそのまま一瓶、腰に手を当てて飲み干したい」というささやかな夢を持つ黒髪の乙女が出てくる。奇想天外な内容と、その乙女にひそかに思いを寄せる先輩との行末も面白い。 もう一つは「宵山」。ある日、新快速の向かい合わせ席に座ると、はす向かいの女性が図書館シールの付いたハードカバーの「宵山」を読み耽っていた。何気なく見ると、その人の目が「面白くてしょうがない!!」という形になっている。早速文庫を買って読んでみた。そのとおりだった。
		若者にお勧めしたい本	『宵山万華鏡』 森見登美彦 集英社文庫	
	自分の研究に関連して紹介したい本	『わたしの研究 虫はなぜガラス窓をあるけるのか?』 石井象二郎 (文), つだかつみ (絵) 偕成社	あとがきに「まず、生物の生きている姿をみて、おもしろいか、ふしぎだと感じることです。それには何も道具はいりません。みなさんの目の前に、そのような特別な現象はいくらでもあるのですから。自然はもっとも偉大な先生です。」とあるとおり、石井先生はとびきりのナチュラルヒストリアンだと思う。「わたしの研究」シリーズには「イラガのマユのなぞ」や「アリに知恵はあるか?」などがあり、どれもすばらしい。先生の目にうつる自然の不思議の数々は、私の目が節穴だと教えてくれる。	
9月6日(月)	医学研究科・教授 青山 朋樹 「モノの形と素材で機能を再生する」	若者にお勧めしたい本	『薔薇の名前』 ウンベルト・エーコ (著), 河島英昭 (訳) 東京創元社	見習い修道士のアドンは師匠のウィリアムと共に、北イタリアの修道院で起きた殺人事件の解決を依頼されます。その背景には宗教、政治の込み入った事情があり、その解決にあたって神学はもとより哲学、記号学の知識が必要になります。若者の特権である無鉄砲さ（これは師匠もですが(笑)）と知識欲、そしてちょいとほろ苦いアドンの恋を楽しんでください。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『坂の上の雲』 司馬遼太郎 文春文庫	日露戦争を日本側、特に秋山兄弟に焦点を当てて描いている戦争小説ですが、その中に「運動」という言葉が数多く出てまいります。陸軍、海軍それぞれにおいて「運動」に勝る方が勝利を手にするのですが、長い航海で乗組員の「運動」性が低下し、艦隊の「運動」能力をさせてしまったバルチック艦隊に対して、「運動」性を極限まで高めて乾坤一擲の痛打を与えた連合艦隊。そしてあまりにも有名な連合艦隊のたった「運動」戦術。「運動」は原子レベルの小さなものから宇宙といった大きな事象レベルにおいても共通して起こる現象です。遺伝子、細胞、組織、臓器、固体、社会いずれにおいても「運動」機能が低下したり、うまくいかない原因はけっこう共通しており、「運動」機能を高める方法についても同様です。これらのことから健康な身体を作る際のアプローチとして微視的に、ときには巨視的に考えるきっかけになりました。
9月8日(水)	生命科学研究科・特定助教 平塚 徹 「がんばれば見えてくる！細胞のキモチ」	今の仕事（研究・進路）を選ぶきっかけになった本	『Neuroscience 3rd edition』 Dale Purves Sinauer Associates Inc	大学で初めて通読した英語の教科書かもしれません。分厚いですが、高校までの教科書と違い、研究者目線で書かれた内容で気楽に読め、刺激を受けました。
		今ハマっている本	『哲学講義 1』 ポール・フルキエ (著) 中村雄二郎、福居純 (訳) 筑摩書房	フランスの高等学校哲学科の教科書です。仕事内容と離れた本を読もうと思ったのですが、高度な論理展開には学ぶことが多く、役に立っています。

登壇日	登壇者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
9月8日(水)	生命科学研究所・特定助教 平塚 徹 「がんばれば見えてくる！細胞のキモチ」	今ハマっている本	『哲学講義 2』 ポール・フルキエ (著) 足立和浩, 竹田篤司 (訳) 筑摩書房	フランスの高等学校哲学科の教科書です。仕事内容と離れた本を読もうと思ったのですが、高度な論理展開には学ぶことが多く、役に立っていません。
		今ハマっている本	『哲学講義 3』 ポール・フルキエ (著) 菅野昭正, 原好男 (訳) 筑摩書房	
		今ハマっている本	『哲学講義 4』 ポール・フルキエ (著) 支倉崇晴, 広田昌義 (訳) 筑摩書房	
		若者にお勧めしたい本	『うつくしすぎる自然博物』 ベン・ホアー (著), 高里ひろ (訳) 主婦の友社	単純に何かを美しいと思える感性は心を豊かにしてくれます。元の英語版 The Wonders of Nature もとてもきれいです。これに限らず、図鑑を眺めることはおすすめです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『Image』ではじめる生物画像解析』 三浦耕太, 塚田祐基 学研メディカル秀潤社	Imageは研究で非常によく使われる画像解析ソフトですが、無料でだれでも使え、オープンソースです。プログラミングを学ぶのにも楽しいかもしれません。
9月13日(月)	東南アジア地域研究研究所・連携助教 白川 康一 「熱帯地域の感染症 マラリアについて」	今の仕事(研究・進路)を選びきっかけになった本	『感染症の数理モデル』 稲葉寿 培風館	COVID-19流行初期に報道等でよく目にされた数理モデルは、感染症の患者の増減を数式を用いて、見えない現象を見る化し、患者数の増加や収束の推定に使用されます。元々生態学における動物の捕食被食関係や経済学などで使用され、感染症疫学にも応用されるようになりました。見えない現象を数式で表現し、私たちの健康や社会生活に関わる内容が興味深く書かれています。私自身、感染症疫学の研究に取り組むにあたって、この本(と著者の先生)がそのきっかけを作ってくれたと考えています。
		今ハマっている本	『京都学を楽しむ 古都をめぐる33の講座』 知恵の会 勉誠出版	京都で長く生活し、現在に至るまで京都大学に居ながら、その周辺のことをきちんと知る機会がなかった時に出会った書物です。京都の人の気質、祭りに食文化に言葉と幅広く書かれています。大学周辺には銀閣寺や吉田神社など歴史的に有名な寺社も多いですが、百万遍や出町柳など不思議な地名も多く、その由来を知るだけでも面白いと思います。
		若者にお勧めしたい本	『論理パラドクス 論証力を磨く99問』 三浦俊彦 二見書房	テレビなどで色々なクイズ番組を見る機会が多いかと思いますが、何かの名称を答えさせるような知識問題が多いように感じます。本書は哲学や数学、論理学などの伝統的、由緒正しい内容が多く記載されており、パズル感覚で読んでいただける内容となっています。ロジカルセンスの鍛錬にお勧めです。また、論理サバイバル、心理パラドクスなどの既刊もあります。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『パンデミック“病”の文化史』 赤阪 俊一, 米村 泰明, 尾崎 恭一, 西山 智則 人間と歴史社	西洋と英国の中世、近代日本でのパンデミック(病)について文化史の視点で書かれています。細菌やウイルスの存在自体明らかにされていない時代において、『感染』とは『接触』することで体が汚れることを意味していました。病原体の存在が知られていない時代で、人々がどのように感染症に立ち向かい、その困難を乗り越えたのか、歴史書を読む感覚で楽しめます。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『大気生物学入門』 川島茂人 朝倉書店	花粉症やインフルエンザ、COVID-19などのウイルス感染症と大気(気象全般)との関りについての入門書です。私自身、熱帯地域をフィールドに研究を行う上で、気象や人の行動、環境などのデータを収集・分析を行っていますが、その基本となる項目がわかりやすく書かれており、フィールド調査をしたいと思われる方には参考になる一冊です。



登壇日	登壇者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
9月17日(金)	医学部附属病院・特定助教 石本 智之 「疾患モデルの意義と病態解明にむけて」	今の仕事(研究・進路)を選ぶきっかけになった本	『ゲノム編集の衝撃「神の領域」に迫るテクノロジー』 NHK「ゲノム編集」取材班 NHK出版	医学分野においても遺伝子治療が現実となってきております。ゲノム編集の進展について興味深い具体例をあげて紹介していますので、比較的読みやすいです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『脳のなかの幽霊』 V.S.ラマチャンドラン(著)、 サンドラ・ブレクスリー(著)、 山下篤子(訳) 角川書店	中枢神経の障害によって生じる奇妙で興味深い症状の実例を挙げつつ、脳の不思議について紹介・解説されている一冊です。著者自身が神経科学者でもあります。どちらかと言えば心理学的な切り口かつ平易な表現で書かれており、医学的な専門知識が無くとも楽しく読むことができると思います。
9月22日(水)	工学研究科・教授 横川 隆司 「マイクロ加工技術で創る"イノチ"の器」	今ハマっている本	『小説東京帝国大学』 松本清張 筑摩書房	移動中など時間を見つけて清張作品を読むのが趣味です。単なる推理小説ばかりでなく、フィクションからノンフィクションまで昭和の闇の部分や人間性についての描写が、日常の喧噪を忘れさせてくれます。
		若者にお勧めしたい本	『日本のいちばん長い日 決定版』 半藤一利 文藝春秋	夏になると第二次大戦に関わる本を読みます。我々の世代は、少なからず戦争を知る世代と接点があり、それが今でも日々の考え方に影響していると思います。現在の学生は、戦争を直接知る世代と接点がないと思いますので、研究をしばし離れてこのような本を読むのをお勧めします。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『Fundamentals of Microfabrication and Nanotechnology』 Madou, Marc J CRC Press	修士課程の時に留学したUCLAで教科書として使われていました。この本から、マイクロ・ナノの世界を体系的にとらえるようになりました。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『Theoretical Microfluidics』 Henrik Bruus Oxford University Press	学部課程で流体力学を修めた学生向けで、大学院の講義に利用しています。なぜマイクロスケールになると流体操作が難しいのか、それを支える理論は何なのか、応用まで含めてわかりやすく解説されています。
9月24日(金)	学術情報メディアセンター・特定講師 笠原 秀一 「修学旅行生は、どこに行く？」	今ハマっている本	『トマス・アキナス―理性と神秘』 山本芳久 岩波書店	キリスト教哲学とアリストテレスの教説を統合し、今のヨーロッパ哲学の基礎を築いたトマス・アキナスの入門書です。普段考えたことのない論点がテーマなので読むには手強いですが、非常に興味深いです。
		若者にお勧めしたい本	『ガリア戦記』 ガイウス・ユリウス・カエサル(著)、 国原吉之助(訳) 講談社	簡潔で明瞭な文章が良いです。例えば、研究がビジネスでも大いに参考になる視点と文体を持った名著です。
9月27日(月)	東南アジア地域研究研究所・連携講師 川本 佳苗 「ミャンマーの仏教瞑想について」	今の仕事(研究・進路)を選ぶきっかけになった本	『日本的靈性』 鈴木大拙 岩波書店	親や世間に聞こえのいいようにと大学では社会福祉を専攻した私でしたけど、鈴木大拙を知ったことで、仏教を学びたくなり学部を変えて編入するきっかけとなった本です！
		今ハマっている本	『まんがやってみたくなるオープンダイアログ』 斉藤環、水谷緑 医学書院	仏教では心の要素が細かく分析されています。私個人の心の悩みとどう向き合うべきかについて自殺相談やカウンセリングの研修を受けてきましたが、現在、効果的な実践として注目しているのがオープンダイアログです。
		若者にお勧めしたい本	『対訳 禅と日本文化』 鈴木大拙(著)、北川桃雄(翻訳) 講談社インターナショナル	世界が誇る日本の禅仏教者・鈴木大拙の代表作。オリジナルは英語なので、この本は日本語訳(!)です。対訳になっているので日本文化を英語でどう表現するかという勉強にもなります。
		若者にお勧めしたい本	『火の鳥』 手塚治虫 朝日新聞出版	図書館にも必ず置いてある漫画なので、私も出会ったのは受験生時代の息抜き時間です(笑)。でも何度も泣きました。特に『太陽編』の火の鳥の台詞は、胸に刻んで生きていきます。。。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『ブッダのことは スッタニパータ』 中村元 岩波書店	仏教について知りたいなら、まずは中村元先生の本がお薦めです。どれもハズレがありません。読むたびお釈迦様の偉大さに感動します。

登壇日	登壇者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
9月29日(水)	経営管理大学院(大学院経営管理研究部)・准教授 安達 貴教 「ゲーム理論で考える組閣」	今の仕事(研究・進路)を選ぶきっかけになった本	『ミクロ経済学入門』 西村和雄 岩波書店	ミクロ経済学に真面目に取り組み始めた頃にメインにしていた教科書。現在の研究に深く関わる「不完全競争の経済学」の貢献者の一人であるロビンソンの名前と顔を知ったのは、本書です。
		今の仕事(研究・進路)を選ぶきっかけになった本	『脱「国境」の経済学』 ポール・クルーグマン (著)、北村行伸、高橋亘、 妹尾美起(訳) 東洋経済新報社	既存の経済学の拡張を通じて、現実の現象を説明しようとする応用ミクロ経済学の妙に惹かれました。著者のクルーグマン教授は、近年では入門書や時論で広く知られていますが、私は、アカデミックな知見に基づく本書のようなスタイルが好みです。
		今ハマっている本	『交渉術』 佐藤優 文藝春秋	旧ソ連からロシアへの過渡期を現場で経験した元外務省勤務の著者が、外交交渉の舞台裏を活写しており、言わば、「交渉」の生きた教科書とも言えるでしょう。
		今ハマっている本	『大正史講義』 筒井清忠(編) 筑摩書房	「ちくま新書」の日本史シリーズの最新刊。アカデミックな知見に基づく手堅い論稿を読みながら、日本史の古びた知識をアップデートしています。
		若者にお勧めしたい本	『ジェーン・エア』 シャーロット・ブロンテ 新潮社	まとまった読書時間が作れ、徹夜してぶつづけで本を読むことができるのが若者です。ここで挙げているのは、私の乏しい読書体験から判断して、マジョリティーを惹きつけるであろう海外長編小説の二冊です(私自身はまた別に好きな長編小説があるのですが)。
		若者にお勧めしたい本	『赤と黒』 スタンダール 岩波書店	もう一冊挙げると、『赤と黒』ということになるでしょう。作家の故丸谷オー(1925-2012)がとあるネットのインタビューで、登場人物に自分を重ねられるかどうかで自分にとっての好きな小説を判断すればいいというようなことを言っていた記憶がありますが、私の判断基準もまさにそれです(ちなみに、「登場人物」には『源氏物語』の「語り手」のような「人物」も含まれます)。 実を言うと、ジェーン・エアも、『赤と黒』のジュリアン・ソレルもその意味ではあまり好きではないのですが、何故か印象に残っている人物です。将来的には、この謎を解明したいですね(笑)。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『競争法ガイド』 デビッド・ガーバー(著)、 白石忠志(訳) 東京大学出版会	市場における競争を企業が制限しようとする行為に対する法体系である「競争法」については、なかなか一般レベル向けに分かりやすく書かれた書籍が存在していませんが、最近出版された本書は、それに応える内容となっています。「競争法」はその性質上、経済学とも深く関わり、また、私自身は経済学の研究者ですが、本書が、経済学の内容を前提としていない点に、とりわけ感銘を受けました。
自分の研究に関連して紹介したい本	『データとモデルの実践ミクロ経済学 ジェンダー・プラットフォーム・自民党』 安達貴教 慶應義塾大学出版会	本年9月以降に刊行予定の自著です。恥ずかしながらも、出版社の営業努力に応えるために、挙げさせていただきます。私が応用ミクロ経済学で行ってきた研究の紹介を通じて、現代の経済学の雰囲気一般向けに解説した内容となっています。		

7. 支援体制・スケジュール

7-1. 支援体制

京都大学アカデミックデイは、京都大学による「国民との科学・技術対話」事業の一環として実施しています。支援体制は以下の通りです。

「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ委員		
工藤洋	生態学研究センター	教授
喜多一	国際高等教育院	教授
藤田恭之	医学研究科	教授
榎木哲夫	工学研究科	教授
藤原辰史	人文科学研究所	准教授
塩瀬隆之	総合博物館	准教授
児玉聡	文学研究科	准教授
元木環	情報環境機構／学術情報メディアセンター	助教
高橋裕幸	総務部渉外課	課長
上根勝	総務部広報課	課長
林紀英	研究推進部研究推進課	課長
佐治英郎	学術研究支援室	室長

学術研究支援室（KURA）

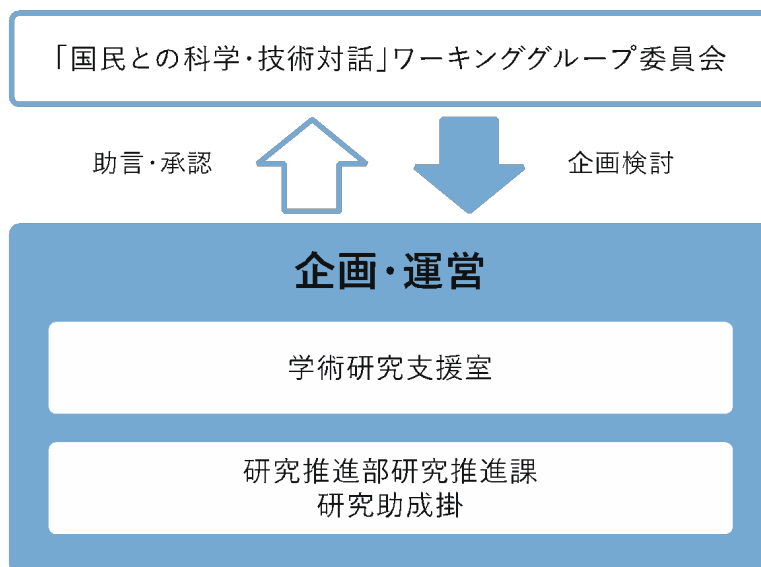
大西将徳	学術研究支援室	URA
白井哲哉	学術研究支援室	URA
藤田弥世	学術研究支援室	URA
渡邊吉康	学術研究支援室	URA
西紋あかり	学術研究支援室	事務担当職員

研究推進部研究推進課

松本寛史	研究助成掛
大田瞳	研究助成掛

7-2. スタッフリスト

企画	学術研究支援室 (KURA) 研究推進部研究推進課
デザイン (広報)	仲村健太郎 タケウマ
動画制作	嶋田好孝 松見拓也
イベント音楽 (オープニング)	MATSU GT-K
イベント音楽 (エンディング)	もっぴーさうんど
外部ファシリテーター	楠見春美 小林直樹 橋本裕子 丸山恵
座談会音響	八木啓介 永田奈緒美 津志本陽
監修	「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ



7-3. 準備スケジュール

＜オンライン開催の検討＞			
2021年	5月		コロナ禍でどのような対話活動を実施するかチームで検討開始
	5月	28日	2020年度 京都大学「国民との科学・技術対話」第1回 WG 開催 → オンラインでの開催の方針に。
＜京都大学アカデミックデイズ 2021 開催＞			
2021年	5月	31日	一般広報の検討開始（デザイナーと打合せ開始）
	6月	15日	対話研究者の公募予告（KURA WEB、KURA SNS、教員ポータル、研推全学メール等）
	6月	17日 10:00～ 7月7日 17:00	対話研究者の出展申込期間
	6月	17日～先着順（締切日時まで）	対話研究者への出展可否並びに出展日の連絡
	6月	22日	生協との連携調整開始
	6月	25日～9月2日	座談会企画調整開始
	6月	30日	附属図書館との連携調整開始
	7月	1日～9月	Google 広告開始
	7月	13日	外部ファシリテーターとの調整開始
	7月	27日	イベント告知（対話参加者、リスナー募集開始） Facebook、Twitter での定期投稿開始（～9月30日）
	7月	30日	Peatix イベントページ公開
	8月	2日～9月24日まで随時	対話研究者打ち合わせ
	8月	4日	市バス、地下鉄中吊り広告発送
	8月	6日	ポスター・チラシ発送 アカデミックデイ 2020 参加申込時にメール配信を選択した人たちへのメール配信
	8月	10日	生協電子サイネージ申込
	8月	16日～22日	市バス、地下鉄中吊り広告
	8月	17日	サイエンスポータル掲載
	8月	23日～9月13日	対話参加者申込締切 生協電子サイネージ掲載
	8月	24日～27日	対話参加者抽選結果の連絡
	8月	25日	Peatix メール配信（2万5000通）
	8月	26日～9月	YouTube 広告配信開始
	8月	28日～9月30日	生協ショップルネ本棚ブース開始
	8月	30日～9月30日	附属図書館本棚ブース開始
	9月	1日～29日	各回当日午前0時リスナー申込締切 アカデミックデイズ 2021 当日
	9月	30日～10月29日	イベント当日に取り上げることができなかつたリスナーからの質問への回答を K. U. RESEARCH に掲載

編集者 大西将徳（学術研究支援室）
藤田弥世（学術研究支援室）
白井哲哉（学術研究支援室）
西紋あかり（学術研究支援室）
大田瞳（研究推進部研究推進課研究助成掛）

発行日 2022年3月

発行 学術研究支援室
研究推進部研究推進課

「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ

問合せ 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学 学術研究支援室
Tel : 075-753-5108
E-mail : kenkyu-taiwa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

※職名・組織名等は開催当時の名称です。



Dialog with the Public